(様式第10)

4　管理第　65　号

令和　4年　　10 月　　5 日

厚生労働大臣　　殿　　開設者名　公立大学法人　名古屋市立大学

理事長　　郡　　健二郎

名古屋市立大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和　　年度の業務に関して報告します。

1　開設者の住所及び氏名

住所	〒467-8602　愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
氏名	公立大学法人　名古屋市立大学

(注)　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名称

名古屋市立大学病院

3　所在の場所

〒467-8602　愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
電話(052)　851　－　5511

4　診療科名

4－1　標榜する診療科名の区分

○	1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注)　上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2　標榜している診療科名

(1) 内科

内科						有	
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							
･呼吸器内科およびアレルギー疾患内科は、呼吸器･アレルギー疾患内科で主に診療している。 ･血液内科は、血液･腫瘍内科で主に診療している。 ･内分泌内科および代謝内科は、内分泌･糖尿病内科で主に診療している。							

(注)　1　「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2　「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有

外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科

診療実績
・内分泌外科については、耳鼻咽喉科および泌尿器科で主に診療している。

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	無

歯科と組み合わせた診療科名					
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科

歯科の診療体制

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	肝臓内科	2	膵臓内科	3	呼吸器・アレルギー疾患内科	4	内分泌・糖尿病内科	5	血液・腫瘍内科
6	脳神経内科	7	形成外科	8	小児泌尿器科	9	リハビリテーション科	10	病理診断科
11	臨床検査科	12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
28				772	800

(単位:床)

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	296	230.43	526.43
歯科医師	5	13.7	18.7
薬剤師	59	1.74	60.74
保健師	0	0	0
助産師	56	0	56
看護師	926	30.39	956.39
准看護師	0	0.7	0.7
歯科衛生士	1	1.85	2.85
管理栄養士	10	5.81	15.81

職種	員数
看護補助者	79
理学療法士	21
作業療法士	5
視能訓練士	7
義肢装具士	0
臨床工学士	17
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	49

職種		員数
診療エックス線技師		0
臨床検査	臨床検査技師	72
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師		0
医療社会事業従事者		10
その他の技術員		28
事務職員		217
その他の職員		3

(注)　1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3　「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	66	眼科専門医	10
外科専門医	46	耳鼻咽喉科専門医	16
精神科専門医	10	放射線科専門医	19
小児科専門医	24	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	22
泌尿器科専門医	18	麻酔科専門医	26
産婦人科専門医	17	救急科専門医	7
		合計	301

(注)　1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名　（　間瀬　光人　）　任命年月日　令和　3　年　4　月　1 日

平成17年～18年　医療安全管理室副室長 平成13年5月～　医療事故防止等検討委員会(平成27年～医療安全管理委員会)委員

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	578.8　人	7　人	585.8　人
1日当たり平均外来患者数	1733.6　人	76.3　人	1809.9　人
1日当たり平均調剤数			1,546　剤
必要医師数			159　人

必要歯科医師数	5 人
必要薬剤師数	20 人
必要（准）看護師数	354 人

（注） 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	401.67 ㎡	S造 一部SRC/RC造	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	16 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	［固定式の場合］	床面積	268.45 ㎡	病床数	17	床
	［移動式の場合］	台数	台			
医薬品情報管理室	［専用室の場合］	床面積	62.81 ㎡			
	［共用室の場合］	共用する室名				
化学検査室	520.90 ㎡	S造 一部SRC/RC造	（主な設備）	検体検査システム		
細菌検査室	123.15 ㎡		（主な設備）	微生物検査システム		
病理検査室	221.79 ㎡		（主な設備）	病理標本染色封入システム		
病理解剖室	81.18 ㎡	S・SRC造	（主な設備）	解剖台、臓器撮影台、滅菌装置		
研究室	193.13 ㎡	S造 一部SRC/RC造	（主な設備）	クリーンベンチ、オートクレーブ滅菌装置		
講義室	401.90 ㎡		室数 1 室	収容定員	320	人
図書室	96.98 ㎡		室数 2 室	蔵書数	5700	冊程度

（注） 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	78.3 %	逆紹介率	79.5 %
算出根拠	A：紹介患者の数	15,400	人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	17,155	人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,496	人
	D：初診の患者の数	21,566	人

（注） 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
宮本 忠壽	知多厚生病院名誉院長	○	医療安全に関する業務に従事した経験を持つ医師	無	1

吉野 彩子	後藤･太田･立岡法律事務所所属弁護士		法律に関する識見を有する者	無	1
岩崎 良平	日本ガイシ株式会社代表取締役副社長		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	無	2
蘆原 千晶	中日新聞記者		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	無	2

(注)　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 公表の方法：病院ホームページにて公表している https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/anzen-kanri/externalauditor/	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数(人)
腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	9
MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	113
流産検体を用いた染色体検査	48
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	0
先進医療の種類の合計数	4
取扱い患者数の合計(人)	170

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数(人)
先進医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	全身性毛細血管漏出症候群の急性発作治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要	全身性毛細血管漏出症候群の急性発作治療		

医療技術名	成人スチル病(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。難治例ではグルココルチコイド療法に加え免疫抑制薬併用下にTNFαやIL-6を標的とした生物学的製剤による寛解導入療法を行っている。			

医療技術名	若年性特発性関節炎(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。難治例では生物学的製剤による治療を行っている。			

医療技術名	強直性脊椎炎(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。難治例では生物学的製剤による治療を行っている。			

医療技術名	全身性エリテマトーデス(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	250人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。重症難治例では、複数の免疫抑制薬併用療法や生物学的製剤による治療を行い、寛解維持期においてグルココルチコイドにできるだけ頼らない治療を行っている。			

医療技術名	皮膚筋炎／多発性筋炎(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。急速進行性間質性肺炎や嚥下障害など重篤な臓器障害に対して集学的に治療を行っている。			

医療技術名	全身性強皮症(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。他診療科と連携し、間質性肺炎や強皮症腎クリーゼなど重篤な臓器障害に対して集学的に治療を行っている。			

医療技術名	混合性結合組織病(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。他診療科と連携し、肺高血圧症など重篤な臓器障害に対して集学的に治療を行っている。			

医療技術名	シェーグレン症候群(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。他診療科と連携し、疾患の診断および重症腺外病変に対する治療を行っている。			

医療技術名	IgG4関連疾患(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。他診療科と連携し、疾患の診断および治療を行っている。			

医療技術名	高安動脈炎(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。難治例では生物学的製剤による治療を行っている。			

医療技術名	巨細胞性動脈炎（指定難病）の診断・治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要：日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。難治例では生物学的製剤による治療を行っている。			

医療技術名	結節性多発動脈炎（指定難病）の診断・治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要：日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。			

医療技術名	顕微鏡的多発血管炎（指定難病）の診断・治療	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要：日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。重症例ではシクロホスファミドやリツキシマブ、他診療科と連携し血漿交換による治療を行っている。			

医療技術名	多発血管炎性肉芽腫症（指定難病）の診断・治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要：日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。重症例ではシクロホスファミドやリツキシマブ、他診療科と連携し血漿交換による治療を行っている。			

医療技術名	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（指定難病）の診断・治療	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要：日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。好酸球性炎症による難治再発例では生物学的製剤による治療を行っている。			

医療技術名	ベーチェット病（指定難病）の診断・治療	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要：日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。他診療科と連携し、重症例には生物学的製剤による治療を行っている。			

医療技術名	悪性関節リウマチ（指定難病）の診断・治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要：日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。重症例には生物学的製剤による治療を行っている。			

医療技術名	原発性抗リン脂質抗体症候群（指定難病）の診断・治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要：日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。			

医療技術名	再発性多発軟骨炎（指定難病）の診断・治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要：日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の診療を行っている。			

医療技術名	家族性地中海熱（指定難病）の診断・治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要：日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の診療を行っている。			

医療技術名	関節リウマチの生物学的製剤・JAK阻害薬治療	取扱患者数	160人
当該医療技術の概要：日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。治療抵抗性症例に対して生物学的製剤やJAK阻害薬を含む寛解導入療法を行っている。また多くの症例で生物学的製剤の寛解休薬など治療減弱に成功している。			

医療技術名	経カテーテル的大動脈弁置換術	取扱患者数	41人
当該医療技術の概要 高齢でフレイル、あるいは他の疾患を患っているために従来の開胸による外科的大動脈弁置換術の適応とならない重症大動脈弁狭窄症患者を対象に、専用のデバイスを用いて経カテーテル的に大動脈弁置換術を行う。			

医療技術名	デバイスを用いた心臓再同期療法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 最適な薬物治療を受けているにもかかわらず、心不全が改善しない心臓伝導障害を有する低左心機能の心不全患者で、ガイドラインに基づく適応症例を対象に、両心室ペーシング機能を有するデバイスによる心臓再同期療法を行う。			

医療技術名	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)の治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 家族性高コレステロール血症や難治性脂質異常症に対するPCSK9阻害薬のオートミニドーザーによる自己注射治療			

医療技術名	経カテーテル的左心耳閉鎖デバイス挿入術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 出血リスクが高く、抗凝固療法がためらわれる脳梗塞発症高リスク患者に対し、カテーテルを用いた左心耳閉鎖術			

医療技術名	経皮的中隔心筋焼灼術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 症候性かつ薬剤抵抗性かつ左室内圧較差を認める閉塞性肥大型心筋症に対し、心室中隔を走行する冠動脈へエタノールを注入し、肥大した心室中隔筋を縮小させ血行動態改善を図る。			

医療技術名	補助人工心臓管理	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 外来での補助人工心臓の管理（多職種が携わるドライブライン感染評価、抗凝固療法、ポンプ管理、心移植手続き）。補助人工植込み後の外来心臓リハビリテーションの実施。			

医療技術名	特発性拡張型心筋症（指定難病）に対する診療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 指定難病である特発性拡張型心筋症患者の外来ならびに入院管理。特定疾患書類管理を含む。			

医療技術名	肥大型心筋症（指定難病）に対する診療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 指定難病である肥大型心筋症患者の外来ならびに入院管理。特定疾患書類管理を含む。			

医療技術名	サルコイドーシス（指定難病）に対する診療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 指定難病であるサルコイドーシス患者（心臓病変を合併）の外来ならびに入院管理。特定疾患書類管理を含む。			

医療技術名	肺動脈性肺高血圧症に対する診療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 指定難病である肺動脈性肺高血圧症患者の外来ならびに入院管理。特定疾患書類管理を含む。			

医療技術名	造血幹細胞移植療法	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 自家および同種造血幹細胞移植療法は、造血器腫瘍治療において極めて重要な手段である。高度の骨髄抑制 および免疫抑制に伴う合併症管理が治療成績を左右し、多臓器にわたる専門的な管理が必要であるため、 チーム医療を学ぶ良い機会となる。			

医療技術名	Lドパ持続経腸療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 進行期パーキンソン病患者に対する運動症状の改善を目的に、胃瘻から小腸上部へチューブを留置し、ゲル状のLドパ製剤をポンプにて持続的に投与する治療			

医療技術名	膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 膵頭部癌または遠位部胆管癌、十二指腸乳頭部癌などに対して胃のほぼ全てを温存させたうえで、膵頭部、十二指腸、胆嚢、胆管を合併切除し、空腸を用いて再建している。			

医療技術名	膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 膵頭部癌または遠位部胆管癌、十二指腸乳頭部癌などに対して胃のほぼ全てを温存させたうえで、膵頭部、十二指腸、胆嚢、胆管を合併切除し、空腸を用いて再建している。			

医療技術名	腹腔鏡下（ロボット支援を含む）膵頭十二指腸切除	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 膵頭部癌または遠位部胆管癌、十二指腸乳頭部癌などに対して胃のほぼ全てを温存させたうえで、膵頭部、十二指腸、胆嚢、胆管を合併切除し、空腸を用いて再建している。これを腹腔鏡（ロボット支援を含む）で施行.			
医療技術名	腹腔鏡下（ロボット支援を含む）膵体尾部切除術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 良性または低悪性度膵体尾部腫瘍に対して腹腔鏡（ロボット支援を含む）で膵体尾部切除を行っている。			
医療技術名	Frey手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 良性または低悪性度膵体尾部腫瘍に対して腹腔鏡（ロボット支援を含む）で膵体尾部切除を行っている。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術（ロボット支援下を含む）	取扱患者数	39人
当該医療技術の概要 肝切除を腹腔鏡下（ロボット支援を含む）で行っている			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下結腸右半切除術に対する安全性試験	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下結腸右半切除術は比較的高難度で、安全性について問題がある。今回ロボット支援手術を行うことにより、より安全な手術を行いえるかを確認するための臨床試験を施行した。その結果、大きな合併症を経験することなく導入することが可能であることが判明し、現在は保険適応として施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下大腸全摘術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 腹腔鏡を用いて大腸を全摘出し、肛門と回腸を吻合する。主に潰瘍性大腸炎･家族性大腸ポリポーシスに対して施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下骨盤内臓全摘術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 多臓器に浸潤した直腸癌･S状結腸癌に対してロボットを用いた腹腔鏡手術で骨盤内の臓器を合併切除している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下前立腺合併直腸切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ロボット支援下に腹腔鏡を用いて前立腺合併直腸切除術を施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下直腸切除術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 ロボット支援下に腹腔鏡を用いて直腸切除術を施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下食道アカラシア手術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 アカラシア手術を腹腔鏡下にて安全に施行している。本年度は該当患者がなかった。			
医療技術名	胸腔鏡下食道亜全摘出術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 切除可能食道癌に対して胸腔鏡･腹腔鏡下食道亜全摘術を安全に施行している。			
医療技術名	ロボット支援下食道亜全摘術	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 切除可能食道癌に対してロボット支援下食道亜全摘術を安全に施行している。			

医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下下部食道噴門側胃切除術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 切除可能食道胃接合部癌に対してロボット支援下に根治手術を行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下幽門側胃切除術	取扱患者数	47人
当該医療技術の概要 胃癌に対するロボット支援下幽門側胃切除術を安全に行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下噴門側胃切除術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 上部胃癌に対するロボット支援下噴門側胃切除術を行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下胃全摘術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 胃癌に対する胃全摘術をロボット支援下に安全に行っている。			
医療技術名	十二指腸腫瘍に対する腹腔鏡･内視鏡合同手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 十二指腸腺腫に対して、腹腔鏡と上部消化管内視鏡による合同手術を安全に行なっている。			
医療技術名	ロボット支援下鼠径ヘルニア修復術	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 鼠径ヘルニアに対するロボット支援下修復術を臨床試験において安全に施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術及び十二指腸空腸バイパス術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 病的肥満症に対して腹腔鏡下に手術を施行している。			
医療技術名	進行肺癌、胸部悪性腫瘍に対する胸腔鏡下手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要：気管支形成･肺動脈形成を伴う進行肺癌に対し、低侵襲胸腔鏡下手術を施行。			
医療技術名	剣状突起下アプローチによる前縦隔腫瘍摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要：前縦隔腫瘍に対し、剣状突起下アプローチ胸腔鏡下手術による摘出術を施行。胸骨を切らない低侵襲手術施行。			
医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対しする胸膜肺全摘術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要:悪性胸膜中皮腫に対し、胸膜肺全摘術施行。			
医療技術名	気管支腫瘍･狭窄に対する気管支鏡下YAGレーザー治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要：気管支腫瘍･術後気管支狭窄に対し、気管支鏡下にYAGレーザー治療を行い、気管支を開存。			
医療技術名	ロボット支援下胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	取扱患者数	72人
当該医療技術の概要：Davinciを使用した肺悪性腫瘍に対するロボット支援胸腔鏡下肺葉切除、区域切除術			

医療技術名	ロボット支援下胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要：Davinciを使用した縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術			

医療技術名	内視鏡下ヒルシュスプルン病修復術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要：乳児の先天異常であるヒルシュスプルング病の内視鏡下修復術			

医療技術名	新生児先天性十二指腸閉鎖症修復術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要：新生児の先天異常である十二指腸閉鎖症の修復術			

医療技術名	新生児会陰式鎖肛修復術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要：新生児の先天異常である低位鎖肛に対する修復術。狭いところの大事な機能部位に対する手術。			

医療技術名	早産・低出生体重児に対する腸間通過障害改善手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要：超早産(34W)かつ超出生体重児(1394g)の胎便腺症侯群あるいはHirschsprung病に対する腸間内圧減量手術、およびその後の腸間管理に基づくstoma形成とstoma閉鎖術。			

医療技術名	新生児横隔膜ヘルニア修復術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要：出生前診断ができていなかった横隔膜ヘルニアの修復術			

医療技術名	新生児総排泄腔外反症	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要：新生児の先天異常である総排泄腔外反症に体幹の形成不全を伴い、肝のほぼ全脱出を認める巨大臍帯ヘルニアに対する人工膜による腹壁形成。ならびに外反総排泄腔に対する形成術。			

医療技術名	脊椎腫瘍骨全摘術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 特殊な器械を用いて展開し、脊髄を損傷することなく脊椎腫瘍骨を全摘出する国内もほとんどされていない手術			

医療技術名	自家液体窒素処理骨移植	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 液体窒素に腫瘍のある骨を浸して腫瘍細胞を凍死させ、その骨を再建に用いる方法			

医療技術名	手術支援ロボット下　人工関節置換術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 ロボット支援下の手術で正確なインプラント設置ができる手術である			

医療技術名	全内視鏡下脊椎手術	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要 局所麻酔下に極細い内視鏡を使用し低侵襲脊椎手術で国内でも一部の施設のみでしか行っていない手術である			

医療技術名	精巣内精子回収法（TESE）により得られた精子を用いた顕微授精	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 精巣内から直接得られた精子を用いた顕微授精をおこなうことにより、この男性不妊症の患者が、生児を得ることが出来る。			

医療技術名	筋硬直性ジストロフィーに対する着床前診断	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 筋硬直性ジストロフィーは遺伝疾患であり、着床前診断することが出来る。			
医療技術名	染色体相互転座に起因する習慣流産患者に対する着床前胚染色体構造検査 (PGT-SR)	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 均衡型染色体相互転座を有する習慣流産症例の受精卵に対し、PGT-Aを行うことで流産を予防することができる。			
医療技術名	体外受精治療反復着床不成功に対する着床前胚染色体異数性検査 (PGT-A)	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 体外受精治療反復不成功例の受精卵に対し、PGT-Aを行うことで妊娠率が向上出来る。			
医療技術名	習慣流産患者の妊娠管理	取扱患者数	120人
当該医療技術の概要 習慣流産患者の診断、治療をおこない妊娠継続分娩管理をおこなう。			
医療技術名	重症妊娠高血圧症候群患者の管理	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 重症妊娠高血圧症候群の患者を、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をおこなう。			
医療技術名	不育症患者に対する抗凝固療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 抗リン脂質抗体症候群は不育症の原因の1つであり、抗凝固療法（ヘパリン・アスピリン）により治療する。			
医療技術名	母体血胎児染色体検査	取扱患者数	900人
当該医療技術の概要 胎児染色体数的異常（21・18・13トリソミー）について母体血を用いて非確定的に診断する。			
医療技術名	前置胎盤・胎盤早期剥離などハイリスク妊婦に対する帝王切開術	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 重圧な合併症を引き起こす可能性のある疾患である、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をする。			
医療技術名	妊娠中期破水妊娠の管理	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 妊娠中期の前期破水は母体のみでなく胎児にも大きな影響を与える。集約的な治療によって妊娠分娩管理をする。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下子宮全摘術	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			
医療技術名	腹腔鏡下仙骨膣固定術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			

医療技術名	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体癌に限る)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			
医療技術名	自己末梢血幹細胞移植併用大量化学療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 難治悪性腫瘍患者に対して抗腫瘍効果を高めるために大量化学療法を行い、造血機能抑制のサポートのために自家末梢血幹細胞移植を行う。			
医療技術名	人工内耳埋め込み術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 高度難聴患者に対して人工内耳埋め込み術を施行、その後の聴覚リハビリを行っている。			
医療技術名	尋常性白斑に対する培養表皮	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要:形成外科と共同でメラノサイト含有培養表皮を用いた皮膚移植の臨床試験を行っている。 (2022年9月現在健康保険適用なし)			
医療技術名	天疱瘡（指定難病）の治療	取扱患者数	85人
当該医療技術の概要:難治性天疱瘡へのリツキシマブ投与を含め、皮膚科専門医による専門的治療を行っている。			
医療技術名	膿疱性乾癬（指定難病）の治療	取扱患者数	58人
当該医療技術の概要：皮膚科専門医による膿疱性乾癬の専門的治療を行っている。			
医療技術名	表皮水疱症（指定難病）の治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要:皮膚科専門医による表皮水疱症の専門的治療を行っている。			
医療技術名	顕微鏡下精子採取術	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 男性不妊症に対する補助生殖医療技術。産婦人科と協調しながら顕微鏡下に精子採取術を行っている。 東海地区の大学病院では唯一当院でしか経験できないため、特殊な手術の経験となっている。			
医療技術名	MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	取扱患者数	92人
当該医療技術の概要 先進医療として厚生労働省が認めた高度な検査である。			
医療技術名	腹腔鏡下逆流防止術	取扱患者数	11人
先天性疾患である膀胱尿管逆流に対し、膀胱外アプローチで行う腹腔鏡手術である。先進医療Aとして厚生労働省が認めた高度な手術であり、全国でも数施設でしか行われていない高度な技術を必要とする手術である。			
医療技術名	腹腔鏡内精巣に対する腹腔鏡下精巣固定術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 小児に対するより低侵襲な手術として腹腔鏡を全国に先駆けて取り入れ行っている。腹腔内からの精巣の観察ができ、開腹による手術の時の理解にもつながっている。			
医療技術名	膀胱尿管逆流に対するロボット支援腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	取扱患者数	0人
先天性疾患である膀胱尿管逆流に対し、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。医師主導の臨床試験として院内の倫理審査委員会での承認のもとに施行している。従来の腹腔鏡手術に比べ、高精細な視野、自由度の高い鉗子を用い、手術成績の向上が期待される。本年度は施行症例はなかったが、継続していきたい。			

医療技術名	先天性水腎症に対するロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	19人
先天性疾患である水腎症に対し、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。2020年4月から保険収載となった。従来の腹腔鏡手術に比べ、高精細な視野、自由度の高い鉗子を用い、手術成績の向上が期待される。			
医療技術名	高難度の泌尿生殖器の先天異常に対する手術治療	取扱患者数	0人
泌尿生殖器および下部消化管の複雑な先天異常疾患である、総排泄腔遺残（指定難病293）や膀胱外反症。総排泄腔外反（指定難病292）は、発生頻度が10-20万人に1人と希少疾患である。治療には尿路・生殖器・消化器など広い範囲で高難度の手術治療が必要となる。複数の関連各科と合同し手術治療を行い、安全に施行できている。			
医療技術名	尿道下裂に対する手術治療	取扱患者数	26人
尿道下裂は 250-300人に1人と比較的頻度の高い陰茎の先天異常である。軽度のものから性分化疾患を合併する非常に高度な症例まで幅ひろく存在し、当院へは高度の症例が多く紹介され、手術治療を行っている。当科で開発した手術方法を用いて、良好で安全な治療成績を得ている。			
医療技術名	先天性腎尿路異常に対する腹腔鏡下膀胱内手術	取扱患者数	3人
先天性腎尿路異常のうち、尿管瘤や異所性尿管などの先天性疾患に対し、膀胱内に直接トロカーを挿入して炭酸ガスを送気して手術を行う腹腔鏡下膀胱内手術を行う技術である。気膀胱手術とも呼ばれる。従来の開放手術にくらべ創が小さく、低侵襲に行うことができる。			
医療技術名	抑うつ障害群に対する対人関係療法	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 抑うつ障害群の患者に対して、現在の対人関係における感情や役割期待を扱いながら、症状と関連する問題領域に取り組むことで症状軽減を図る。			
医療技術名	慢性めまいに対する新世代認知行動療法（アクセプタンス＆コミットメント・セラピー）	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 慢性めまい（心因性めまい）の患者に対して、アクセプタンス、観察者としての自己、脱フュージョン、現在との接触、価値、コミットされた行為、というアクセプタンス＆コミットメント・セラピーのコアプロセスを体験的に習得してもらい、心理的柔軟性を高めることで、QOLの向上を目指し、結果として慢性めまい症状の低減を図る。			
医療技術名	児童外来	取扱患者数	1400人
当該医療技術の概要 児童・思春期に特有な疾患について個人精神療法を中心を行う。			
医療技術名	サイコオンコロジー	取扱患者数	500人
当該医療技術の概要 がん患者とその家族に対して、支持的精神療法を基本としつつ、がんという疾患の特性を良く理解し、患者の苦痛を包括的に評価し、多職種と協働しながら精神心理的支援を提供する。			
医療技術名	難治性てんかんの診断と治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 難治性てんかんの診断精査として、入院で終夜脳波などの発作時ビデオ脳波同時記録を行っている。治療として、入院・外来で抗てんかん薬による薬物療法および迷走神経刺激療法(VNS) を行っている。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	300人
当該医療技術の概要 これまでに数種類の抗うつ薬を十分量、十分期間服用しても改善の得られない難治性うつ病や、副作用のために薬物治療を行えない治療抵抗性うつ病、高齢者のうつ病に対しては、修正型電気けいれん療法（週2回ずつ約10回を1クールとして施行）を麻酔科の協力を得て行う。			
医療技術名	神経性やせ症の低体重に対する入院治療プログラム	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 低体重で入院を要する神経性やせ症患者に対して、精神科病棟で身体的な安全を確保しながら栄養療法を実施するものである。体重を増加させるだけでなく、治療全体の中で家族とともに心理的な回復も目指しながら評価・対応を行う。			
医療技術名	脳深部刺激装置埋め込み術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 脳深部刺激装置をMRI定位手術装置を用いて微小電極で脳深部の電気信号を確認しながら、正確な位置に埋め込む手術である			

医療技術名	硬膜動静脈瘻/脳動静脈奇形血管内塞栓術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 硬膜動静脈瘻/脳動静脈奇形を血管撮影検査で正しく診断し、血管内塞栓術により、AV-shunt部位/ナイダスを遮断する手術である			
医療技術名	神経内視鏡手術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 神経内視鏡を用いて、頭蓋内腫瘍の摘出や生検、脳内血腫の除去や微笑血管減圧術を行う手術である			
医療技術名	多血小板フィブリン（PRF：Platelet Rich Fibrin）を用いた歯槽骨造成	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要：インプラント治療の際の骨再生誘導法に使用する骨補填材に骨造成促進を目的に自己血から作成したPRFを混和する。			

（注）1　当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2　医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

その他の高度医療の種類の合計数	111
取扱い患者数の合計（人）	5,624人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	65	原発性免疫不全症候群	2
2	筋萎縮性側索硬化症	11	66	IgA 腎症	118
3	脊髄性筋萎縮症	6	67	多発性嚢胞腎	28
4	原発性側索硬化症	0	68	黄色靱帯骨化症	38
5	進行性核上性麻痺	11	69	後縦靱帯骨化症	114
6	パーキンソン病	438	70	広範脊柱管狭窄症	3
7	大脳皮質基底核変性症	2	71	特発性大腿骨頭壊死症	44
8	ハンチントン病	0	72	下垂体性ADH分泌異常症	27
9	神経有棘赤血球症	0	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	10	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
11	重症筋無力症	137	75	クッシング病	20
12	先天性筋無力症候群	0	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	52	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	3
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	31	78	下垂体前葉機能低下症	97
15	封入体筋炎	2	79	家族性高コレステロール血症 (ホモ接合	52
16	クロウ・深瀬症候群	0	80	甲状腺ホルモン不応症	1
17	多系統萎縮症	13	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	41	82	先天性副腎低形成症	1
19	ライソゾーム病	0	83	アジソン病	12
20	副腎白質ジストロフィー	1	84	サルコイドーシス	299
21	ミトコンドリア病	3	85	特発性間質性肺炎	30
22	もやもや病	35	86	肺動脈性肺高血圧症	104
23	プリオン病	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6
25	進行性多巣性白質脳症	0	89	リンパ脈管筋腫症	2
26	HTLV-1関連脊髄症	5	90	網膜色素変性症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	91	バッド・キアリ症候群	1
28	全身性アミロイドーシス	19	92	特発性門脈圧亢進症	1
29	ウルリッヒ病	0	93	原発性胆汁性胆管炎	32
30	遠位型ミオパチー	1	94	原発性硬化性胆管炎	19
31	ベスレムミオパチー	2	95	自己免疫性肝炎	164
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	96	クローン病	147
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	97	潰瘍性大腸炎	413
34	神経線維腫症	37	98	好酸球性消化管疾患	0
35	天疱瘡	85	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
36	表皮水疱症	5	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
37	膿疱性乾癬 (汎発型)	58	101	腸管神経節細胞僅少症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
39	中毒性表皮壊死症	1	103	CFC症候群	0
40	高安動脈炎	15	104	コステロ症候群	0
41	巨細胞性動脈炎	0	105	チャージ症候群	0
42	結節性多発動脈炎	20	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
43	顕微鏡的多発血管炎	50	107	若年性特発性関節炎	14
44	多発血管炎性肉芽腫症	104	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	43	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
46	悪性関節リウマチ	7	110	ブラウ症候群	0
47	バージャー病	8	111	先天性ミオパチー	8
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	25	112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	466	113	筋ジストロフィー	59
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	213	114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0
51	全身性強皮症	94	115	遺伝性周期性四肢麻痺	1
52	混合性結合組織病	73	116	アトピー性脊髄炎	0
53	シェーグレン症候群	518	117	脊髄空洞症	24
54	成人スチル病	21	118	脊髄髄膜瘤	27
55	再発性多発軟骨炎	5	119	アイザックス症候群	1
56	ベーチェット病	96	120	遺伝性ジストニア	4
57	特発性拡張型心筋症	134	121	神経フェリチン症	0
58	肥大型心筋症	129	122	脳表ヘモジデリン沈着症	0
59	拘束型心筋症	1	123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0
60	再生不良性貧血	52	124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0
61	自己免疫性溶血性貧血	74	125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4	126	ペリー症候群	0
63	特発性血小板減少性紫斑病	155	127	前頭側頭葉変性症	2
64	血栓性血小板減少性紫斑病	6	128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	4	198	4p欠失症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	199	5p欠失症候群	1
131	アレキサンダー病	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	201	アンジェルマン症候群	19
133	メビウス症候群	1	202	スミス・マギニス症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	203	22q11.2欠失症候群	4
135	アイカルディ症候群	1	204	エマヌエル症候群	1
136	片側巨脳症	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
137	限局性皮質異形成	0	206	脆弱X症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	207	総動脈幹遺残症	1
139	先天性大脳白質形成不全症	0	208	修正大血管転位症	11
140	ドラベ症候群	1	209	完全大血管転位症	16
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	210	単心室症	22
142	ミオクロニー欠神てんかん	1	211	左心低形成症候群	4
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	212	三尖弁閉鎖症	8
144	レノックス・ガストー症候群	5	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	4
145	ウエスト症候群	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	6
146	大田原症候群	0	215	ファロー四徴症	49
147	早期ミオクロニー脳症	0	216	両大血管右室起始症	28
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	217	エプスタイン病	3
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	28	218	アルポート症候群	2
150	環状20番染色体症候群	0	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	220	急速進行性糸球体腎炎	185
152	PCDH19関連症候群	0	221	抗糸球体基底膜腎炎	6
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	222	一次性ネフローゼ症候群	4
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	1	224	紫斑病性腎炎	4
156	レット症候群	3	225	先天性腎性尿崩症	1
157	スタージ・ウェーバー症候群	3	226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
158	結節性硬化症	10	227	オスラー病	17
159	色素性乾皮症	4	228	閉塞性細気管支炎	2
160	先天性魚鱗癬	1	229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	7
161	家族性良性慢性天疱瘡	1	230	肺胞低換気症候群	16
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	9	231	α1ーアンチトリプシン欠乏症	0
163	特発性後天性全身性無汗症	0	232	カーニー複合	0
164	眼皮膚白皮症	1	233	ウォルフラム症候群	1
165	肥厚性皮膚骨膜症	0	234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0
166	弾性線維性仮性黄色腫	0	235	副甲状腺機能低下症	101
167	マルファン症候群	14	236	偽性副甲状腺機能低下症	7
168	エーラス・ダンロス症候群	2	237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1
169	メンケス病	0	238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	32
170	オクシピタル・ホーン症候群	0	239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0
171	ウィルソン病	5	240	フェニルケトン尿症	1
172	低ホスファターゼ症	3	241	高チロシン血症1型	0
173	VATER症候群	1	242	高チロシン血症2型	0
174	那須・ハコラ病	0	243	高チロシン血症3型	0
175	ウィーバー症候群	0	244	メープルシロップ尿症	0
176	コフィン・ローリー症候群	0	245	プロピオン酸血症	0
177	ジュベール症候群関連疾患	0	246	メチルマロン酸血症	1
178	モワット・ウィルソン症候群	0	247	イソ吉草酸血症	0
179	ウィリアムズ症候群	5	248	グルコーストランスポーター1欠損症	0
180	ATRーX症候群	0	249	グルタル酸血症1型	0
181	クルーゾン症候群	0	250	グルタル酸血症2型	0
182	アペール症候群	1	251	尿素サイクル異常症	2
183	ファイファー症候群	0	252	リジン尿性蛋白不耐症	0
184	アントレー・ビクスラー症候群	0	253	先天性葉酸吸収不全	0
185	コフィン・シリス症候群	0	254	ポルフィリン症	2
186	ロスムンド・トムソン症候群	0	255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0
187	歌舞伎症候群	3	256	筋型糖原病	0
188	多脾症候群	3	257	肝型糖原病	0
189	無脾症候群	3	258	ガラクトースー1ーリン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0
190	鰓耳腎症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
191	ウェルナー症候群	1	260	シトステロール血症	0
192	コケイン症候群	2	261	タンジール病	0
193	プラダー・ウィリ症候群	15	262	原発性高カイロミクロン血症	0
194	ソトス症候群	2	263	脳腱黄色腫症	0
195	ヌーナン症候群	19	264	無βリポタンパク血症	0
196	ヤング・シンプソン症候群	0	265	脂肪萎縮症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

197	1p36欠失症候群	1	266	家族性地中海熱	16
267	高IgD症候群	1	305	遅発性内リンパ水腫	4
268	中條・西村症候群	0	306	好酸球性副鼻腔炎	25
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	17	307	カナバン病	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	1	308	進行性白質脳症	1
271	強直性脊椎炎	27	309	進行性ミオクローヌスてんかん	0
272	進行性骨化性線維異形成症	0	310	先天異常症候群	0
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	2	311	先天性三尖弁狭窄症	2
274	骨形成不全症	7	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
276	軟骨無形成症	4	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
277	リンパ管腫症/ゴーハム病	1	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／LMX1B関連腎症	7
278	巨大リンパ管奇形(頚部顔面病変)	0	316	カルニチン回路異常症	2
279	巨大静脈奇形(頚部口腔咽頭びまん性病変)	0	317	三頭酵素欠損症	0
280	巨大動静脈奇形(頚部顔面又は四肢病変)	0	318	シトリン欠損症	10
281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
282	先天性赤血球形成異常性貧血	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
283	後天性赤芽球癆	4	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0	322	β―ケトチオラーゼ欠損症	0
285	ファンコニ貧血	0	323	芳香族L―アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
286	遺伝性鉄芽球性貧血	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
287	エプスタイン症候群	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0	326	大理石骨病	0
289	クロンカイト・カナダ症候群	1	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1	328	前眼部形成異常	0
291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸	8	329	無虹彩症	1
292	総排泄腔外反症	1	330	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症	5
293	総排泄腔遺残	4	331	特発性多中心性キャッスルマン病	0
294	先天性横隔膜ヘルニア	10	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
295	乳幼児肝巨大血管腫	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
296	胆道閉鎖症	6	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
297	アラジール症候群	9	335	ネフロン癆	0
298	遺伝性膵炎	0	336	家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
299	嚢胞性線維症	1	337	ホモシスチン尿症	2
300	IgG4関連疾患	63	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
301	黄斑ジストロフィー	5			
302	レーベル遺伝性視神経症	2			
303	アッシャー症候群	1			
304	若年発症型両側性感音難聴	1			

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	193
合計患者数(人)	6227

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・後発医薬品使用体制加算2
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料(一般7:1、精神10:1)	・病棟薬剤業務実施加算2
・救急医療管理加算	・データ提出加算2
・超急性期脳卒中加算	・入退院支援加算1
・診療録管理体制加算2	・入退院支援加算3
・医師事務作業補助体制加算2 40対1	・認知症ケア加算1
・急性期看護補助体制加算(看護補助者5割未満)	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・看護職員夜間配置加算1 12対1	・精神疾患診療体制加算
・療養環境加算	・精神科急性期医師配置加算
・重症者等療養環境特別加算	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算1	・救命救急入院料1
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料3
・緩和ケア診療加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・精神科身体合併症管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科リエゾンチーム加算	・小児入院医療管理料2
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染対策向上加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・重症患者初期支援充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・術後疼痛管理チーム加算	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6　届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療料）

施設基準の種類	施設基準の種類
総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	緑内障手術〔緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）]
外来栄養食事指導料の注2	緑内障手術〔流出路再建術（眼内法）〕及び[水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術]
外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	緑内障手術[濾過法再建術（needle法）]
心臓ペースメーカー指導管理料の「注5」に掲げる遠隔モニタリング加算	網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）
糖尿病合併症管理料	網膜再建術
がん性疼痛緩和指導管理料	経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
がん患者指導管理料イ	人工中耳植込術
がん患者指導管理料ロ	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
がん患者指導管理料ハ	内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ｖ型（拡大副鼻腔手術）
がん患者指導管理料ニ	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟郊外悪性腫瘍手術を含む）
外来緩和ケア管理料	内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）
移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）	鏡視下喉頭悪性手術
糖尿病透析予防指導管理料	喉頭形成術（甲状軟骨固定用器具を用いたもの）
婦人科特定疾患治療管理料	顎関節人工関節全置換術
腎代替療法指導管理料	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
一般不妊治療管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算1
二次性骨折予防継続管理料1	センチネルリンパ節生検（併用）
二次性骨製予防継続管理料3	乳がんセンチネルリンパ節加算2
下肢創傷処置管理料	センチネルリンパ節生検（単独）
院内トリアージ実施料	乳腺悪性腫瘍手術〔乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの）
外来放射線照射診療料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術
外来腫瘍化学療法診療料	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
ニコチン依存症管理料	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
がん治療連携計画策定料	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）

肝炎インターフェロン治療計画料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
ハイリスク妊産婦連携指導料1	肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る）
ハイリスク妊産婦連携指導料2	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
薬剤管理指導料	食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
医療機器安全管理料1	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
医療機器安全管理料2	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
精神科退院時共同指導料2	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
遠隔モニタリング加算（在宅酸素療法指導管理料）	胸腔鏡下弁形成術
遠隔モニタリング加算（在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料）	経カテーテル的大動脈弁置換術
在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料	胸腔鏡下弁置換術
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	不整脈手術　左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）	不整脈手術　左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）	経皮的中隔心筋焼灼術
皮下連続式グルコース測定	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
遺伝学的検査	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
染色体検査の注2に規定する基準	両心室ペースメーカー移植術（心筋電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（心筋電極の場合）
有床義歯咀嚼能力検査1	両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
精密触覚機能検査	植込型除細動器移植術（心筋リードを用いるもの）及び植込型除細動器交換術（心筋リードを用いるもの）
骨髄微小残存病変量測定	植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術
ＢＲＡＣＡ１／２遺伝子検査	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（心筋電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（心筋電極の場合）
がんゲノムプロファイリング検査	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
先天性代謝異常症検査	大動脈バルーンパンピング法 (ＩＡＢＰ法)
抗アデノ随伴ウイルス9型（AAV9）抗体	経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ測定）	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）

検体検査管理加算(Ⅰ)	内視鏡的逆流防止粘膜切除
検体検査管理加算(Ⅳ)	腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
国際標準検査管理加算	腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
遺伝カウンセリング加算	腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胎児心エコー法	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
ヘッドアップティルト試験	胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る）
人工膵臓検査及び人工膵臓療法	体外衝撃波胆石破砕術
長期継続頭蓋内脳波検査	腹腔鏡下肝切除術
脳波検査判断料1	体外衝撃波膵石破砕術
終夜睡眠ポリグラフィー（安全精度管理下で行うもの）	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
神経学的検査	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
補聴器適合検査	腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
ロービジョン検査判断料	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
コンタクトレンズ検査料1	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
小児食物アレルギー負荷検査	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
内服･点滴誘発試験	内視鏡的小腸ポリープ切除術
前立腺針生検法（MRI及び超音波検査融合画像によるもの）	腹腔鏡下直腸切除･切断術（内視鏡手術支援機器を用いる場合）
CT透視下気管支鏡検査加算	腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
経気管支凍結生検法	体外衝撃波腎･尿管結石破砕術
画像診断管理加算3	腎腫瘍凝固･焼灼術 （冷凍凝固によるもの）
CT撮影及びMRI撮影	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
冠動脈CT撮影加算	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
血流予備量比コンピューター断層撮影	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
心臓MRI撮影加算	人工尿道括約筋植込･置換術
乳房MRI撮影加算	膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外）、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）

小児鎮静下MRI撮影加算	精巣内精子採取術
頭部MRI撮影加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
全身MRI撮影加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	腹腔鏡下仙骨膣固定術
外来化学療法加算1	腹腔鏡下仙骨膣固定術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
連携充実加算	腹腔鏡下腟式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
無菌製剤処理料	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸癌に限る）
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	体外式膜型人工肺管理料
がん患者リハビリテーション料	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
リンパ浮腫複合的治療料	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）
歯科口腔リハビリテーション料2	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術に限る。）
経頭蓋磁気刺激療法	輸血管理料Ⅰ
児童思春期精神科専門管理加算	輸血適正使用加算
認知療法・認知行動療法1	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
抗精神病特定薬剤治療管理料 （治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る）	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
医療保護入院等診療料	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
エタノール局所注入（甲状腺）	麻酔管理料Ⅰ
エタノール局所注入（副甲状腺）	麻酔管理料Ⅱ
人工腎臓	放射線治療専任加算
導入期加算2及び腎代替療法実績加算	外来放射線治療加算
透析液水質確保加算	高エネルギー放射線療法
手術用顕微鏡加算	1回線量増加加算
CAD/CAM冠	強度変調放射線治療（IMRT）
歯科技工加算	画像誘導放射線治療（IGRT）
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	体外照射呼吸性移動対策加算

四肢･躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算	定位放射線治療
組織拡張器による再建手術〔乳房（再建手術）の場合に限る〕	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
骨移植術（軟骨移植術を含む）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものに限る）））	保険医療機関間の連携による病理診断
骨移植術（軟骨移植術を含む）（自家培養軟骨移植術に限る）	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作成
後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速細胞診
椎間板内酵素注入療法	病理診断管理加算2
腫瘍脊椎骨全摘術	悪性腫瘍病理組織標本加算
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	クラウン･ブリッジ維持管理料
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	
脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）又は脳刺激装置交換術	
脊髄刺激装置植込術又は脊髄刺激装置交換術	
癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を伴うもの）	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7　診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん（切除が困難で進行性のもの又は治療後に再発したものであって、原発部位が不明なもの又は治療法が存在しないもの、従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。）（令和元年度6月保険収載）	・
・MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法 （令和4年度診療報酬改定）	・
・流産検体を用いた染色体検査 （令和4年度診療報酬改定）	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1　特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2　「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理･臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月5回程度	
剖　検　の　状　況	剖検症例数（例）	13例
	剖検率（%）	3.6%

(注)　「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
microRNAを用いた新規の肝線維化診断法の確立と肝線維化治療法の開発	松浦 健太郎	肝･膵臓内科	\1,200,000	補 委	文部科学省
C型肝炎ウイルス排除治療による肝硬変患者のアウトカムに関する研究開発代表:竹原徹郎(大阪大学消化器内科学)	松浦 健太郎	肝･膵臓内科	\900,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HBV遺伝子のヒト遺伝子への組み込みに対する統合的遺伝子解析から肝発癌を予測する	藤原 圭	肝･膵臓内科	\900,000	補 委	文部科学省
胆汁を用いたリキッドバイオプシー研究;エクソソーム解析による胆道疾患の新規解明	吉田 道弘	肝･膵臓内科	\1,200,000	補 委	文部科学省
急性膵炎の重症化に関与する要因遺伝子の同定と早期診断、治療介入法への応用	堀 寧	肝･膵臓内科	\1,200,000	補 委	文部科学省
消化器関連の透視下治療時に着用するX線防護衣による医療従事者の筋骨格系疲労軽減法の検証	堀 寧	肝･膵臓内科	\1,000,000	補 委	日東学術振興財団
重症喘息の気道過分泌病態における誘発喀痰中ムチンの臨床的意義	田尻智子	呼吸器･アレルギー内科	\390,000	補 委	文部科学省
治療抵抗性慢性咳嗽の制御へ向けて:バイオマーカーを用いた病態多様性へのアプローチ	新実彰男	呼吸器･アレルギー内科	1,430,000	補 委	文部科学省
癌治療標的ならびに治療効果予測マーカーとしてのアミノ酸トランスポーターの意義	小栗鉄也	呼吸器･アレルギー内科	910,000	補 委	文部科学省

小計 9件

難治性喘息の新規バイオマーカーとしてのカプサイシン咳感受性の意義	金光禎寛	呼吸器･アレルギー内科	1,690,000	㊩委	文部科学省
小細胞肺癌における抗癌剤耐性の克服を目指したネスチンを基軸とする診療戦略の開発	前野健	呼吸器･アレルギー内科	910,000	㊩委	文部科学省
吸入指導マイスター導入による吸入治療アドヒアランス向上の可能性-多施設前向き試験	竹村昌也	呼吸器･アレルギー内科	520,000	㊩委	文部科学省
iNOS遺伝子の発現を基軸とした喘息における末梢気道炎症の解明	西山裕乃	呼吸器･アレルギー内科	1,040,000	㊩委	文部科学省
カプサイシン咳感受性を基軸としたCOPD患者の入院加療に関わるリスク因子の検討	福光研介	呼吸器･アレルギー内科	1,560,000	㊩委	文部科学省
多機能性T細胞を標的とした免疫学的寛解治療法の確立	前田　伸治	リウマチ･膠原病内科	1,170,000	㊩委	文部科学省
ヒトCD25刺激によるヒト化マウスを用いた新規間質性肺炎モデルの病態解明	爲近　真也	リウマチ･膠原病内科	1,820,000	㊩委	文部科学省
PETを用いた変時性不全における心臓交感神経pre-synapse機能の研究	後藤　利彦	循環器内科	\910,000	㊩委	文部科学省
心房細動に対するカテーテル治療後の洞調律維持･心機能改善に寄与する因子の検討	北田　修一	循環器内科	\390,000	㊩委	文部科学省
人工知能を応用した精度の高い運動負荷心電図自動判読スクリーニングシステムの開発	伊藤　剛	循環器内科	\3,120,000	㊩委	文部科学省

小計 10件

心臓サルコイドーシスの非侵襲的早期診断―心臓電気生理と炎症サイトカインの関連	中須賀　公亮	循環器内科	\390,000	㊇ 委	文部科学省
重症心不全における心臓再同期療法の三次元マッピング法を用いた最適化についての検討	森　賢人	循環器内科	\1,040,000	㊇ 委	文部科学省
アンジオテンシン受容体-ネプリライシン阻害薬の透析患者に対する臨床効果の探索	中山　貴文	循環器内科	\3,250,000	㊇ 委	文部科学省
健常人で検出される心筋トロポニンの意義解明とその調節因子探索のための多角的研究	杉浦　知範	循環器内科	\14,300,000	㊇ 委	文部科学省
心腔内血流速度ベクトル解析法を用いた新たな心機能評価法の確立	若見　和明	循環器内科	\2,860,000	㊇ 委	文部科学省
成人固形がんに対する標準治確立のための基盤研究	飯田 真介	血液･腫瘍内科	\1,500,000	補 ㊉	国立がん研究センター
アミロイドーシスに関する調査研究	飯田　真介	血液･腫瘍内科	\400,000	㊇ 委	厚生労働省
造血器腫瘍における遺伝子パネル検査の提供体制構築およびガイドライン作成	飯田　真介	血液･腫瘍内科	\500,000	㊇ 委	厚生労働省
リキッドバイオプシーを用いた多発性骨髄腫の病態予測ゲノムバイオマーカーの探索研究	飯田　真介	血液･腫瘍内科	\1,430,000	㊇ 委	独立行政法人　日本学術振興会
高齢者多発性骨髄腫に対する標準治療の確立と治療効果･耐性獲得に関わる分子基盤の探索	飯田　真介	血液･腫瘍内科	\1,400,000	補 ㊉	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計 10件

がん化学療法後のB型肝炎ｳｲﾙｽ再活性後の核酸ｱﾅﾛｸﾞ中止基準の確立	楠本　茂	血液･腫瘍内科	\1,100,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会
"Interim PETに基づく初発進行期ﾎｼﾞｷﾝﾘﾝﾊﾟ腫に対するABVD療法およびABVD/増量BEACOPP療法の非ﾗﾝﾀﾞﾑ化検証的試験（JCOG1305）"	楠本　茂	血液･腫瘍内科	\500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
B型肝炎再活性化の発生機序の解明と費用対効果に優れた予防法の開発	楠本　茂	血液･腫瘍内科	9,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
成人T細胞白血病に対する移植後シクロフォスファミドを用いた非血縁者間末梢血幹細胞移植法の確立と移植後再発への対策に関する研究	楠本　茂	血液･腫瘍内科	200,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
血清オミックス解析を中心とした多発性骨髄腫の治療薬ﾚﾅﾘﾄﾞﾐﾄﾞの感受性因子の探索	李　政樹	血液･腫瘍内科	800,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会
造血器腫瘍における遺伝子ﾊﾟﾈﾙ検査の提供体制構築およびガイドライン作成	李　政樹	血液･腫瘍内科	500,000	補 委	厚生労働省
血清中cell free DNAを用いた悪性ﾘﾝﾊﾟ腫の中枢神経再発ﾘｽｸの研究	鈴木　智貴	血液･腫瘍内科	1,100,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会
予後不良多発性骨髄腫における悪性能獲得機序と新規治療開発：ARK5に注目して	木下　史緒理	血液･腫瘍内科	2,400,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会
成人T細胞白血病/ﾘﾝﾊﾟ腫を対象としたTCR遺伝子導入ﾘﾝﾊﾟ球療法の確立	正木　彩子	血液･腫瘍内科	800,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会
がん化学療法時の高尿酸血症に関する新提案-細胞死ﾒｶﾆｽﾞﾑに基づく核酸放出量測定	大岩　加奈	血液･腫瘍内科	600,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会

小計 10件

認知予備能メカニズムの解明に向けた、コリン作動性神経の新たな観点からの解析	水野　将行	脳神経内科	\2,300,000	補 委	文部科学省
レム睡眠行動異常症の軽度運動機能障害に着目した神経変性疾患の早期診断法開発	山田　剛平	脳神経内科	\4,290,000	補 委	文部科学省
パーキンソン病に伴う認知機能障害の早期診断法の開発：ボクセルベースQSM解析	打田　佑人	脳神経内科	\3,900,000	補 委	文部科学省
脳虚血後の内在性神経幹細胞分化誘導～がん抑制因子RKIPを介して	豊田　剛成	脳神経内科	\3,380,000	補 委	文部科学省
細胞外マトリックス制御による脳梗塞後の内在性神経再生能の促進	藤岡　哲平	脳神経内科	\2,210,000	補 委	文部科学省
新規アルツハイマー病創薬に向けたHCNP受容体単離	松川　則之	脳神経内科	\1,200,000	補 委	文部科学省
腎性貧血治療薬としてのSGLT2阻害薬の可能性	小野　水面	腎臓内科	\2,080,000	補 委	文部科学省
尿細管に着目した腫瘍腎臓病学	濱野高行	腎臓内科	\2,100,000	補 委	文部科学省
癌患者の電解質異常の是正によるQOL改善	濱野高行	腎臓内科	\1,000,000	補 委	鈴木謙三財団
急性腎障害後の“腎”性貧血の病態解明に関する研究	村島美穂	腎臓内科	\1,500,000	補 委	日本腎臓財団

小計 10件

SGLT2阻害薬による腎性貧血改善効果について	村島美穂	腎臓内科	\150,000	補 委	愛知腎臓財団
膵癌における新規分子標的薬の開発を目指した,化学放射線耐性メカニズムの解明	松尾　洋一	消化器外科	\17,290,000	補 委	文部科学省
ゲムシタビン耐性膵がんにおけるZerumboneの抗腫瘍効果の解明	社本　智也	消化器外科	\3,900,000	補 委	文部科学省
臨床応用を目指した放射線耐性膵癌のCXCL12/CXCR4シグナルの機能解析	今藤　裕之	消化器外科	\4,160,000	補 委	文部科学省
臨床応用を目指した消化器癌に対するzerumboneの抗腫瘍効果の検討	坪井　謙	消化器外科	\4,290,000	補 委	文部科学省
大腸癌のFTDに対するDNA損傷応答の解明と治療効果増強への展開	廣川　高久	消化器外科	\1,100,000	補 委	文部科学省
癌間質細胞由来MCP-1による抗血管新生阻害剤耐性獲得の打破	原　賢康	消化器外科	\1,300,000	補 委	文部科学省
TIMPを介した癌関連線維芽細胞による大腸癌進展調節機構の解明と臨床応用	仲井　希	消化器外科	\1,400,000	補 委	文部科学省
大腸癌に切り込む事で生じる腫瘍学的な変化の解明と臨床への応用	牛込　創	消化器外科	\1,950,000	補 委	文部科学省
癌関連線維芽細胞とChitinase3-like1が関与した大腸癌進展機序の解明	渡部かをり	消化器外科	\1,300,000	補 委	文部科学省

小計 10件

手術支援ロボットにおける運動力学評価を用いた技術評価とトレーニング法の開発	瀧口 修司	消化器外科	\1,500,000	補 委	文部科学省
肥満予防に向けた胃に発現するTRPチャネルと食欲との関連解析	早川　俊輔	消化器外科	\1,500,000	補 委	文部科学省
人工知能とテキストマイニングを用いた肥満手術の新しい適応基準の確立に向けた研究	田中　達也	消化器外科	\1,500,000	補 委	文部科学省
モーションキャプチャーを用いたロボット支援下手術の技術評価とトレーニング法の開発	伊藤　直	消化器外科	\1,000,000	補 委	日東学術振興財団
食道癌の浸潤におけるNOTCH1シグナルの解析	大久保　友貴	消化器外科	\1,500,000	補 委	文部科学省
インフラマソーム機構に関連した胃癌における血行性転移制御の解明と新規治療薬の開発	佐川　弘之	消化器外科	\1,500,000	補 委	文部科学省
微量なEGFR T790M遺伝子変異肺癌の臨床的意義の解明と新たな検出手法の確立	立松　勉	呼吸器外科	\1,100,000	補 委	文部科学省
神経芽腫におけるアダプター蛋白質ShfとTrkBとの機能相関解析および臨床応用	髙木　大輔	小児外科	\1,200,000	補 委	文部科学省
小児固形腫瘍治療に対する粒子線治療のための吸収性スペーサー留置ラットモデルの構築	相羽久輝	整形外科	\4,160,000	補 委	文部科学省
ヒト屍体骨を用いた大腿骨転子部骨折の病態解明と新規治療法の開拓	宇佐美琢也	整形外科	\1,100,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会

小計 10件

人工股関節置換術後の歩行解析とAIを用いた新たなテーラーメイドリハビリテーション医療の創出	宇佐美琢也	整形外科	\700,000	補 ㊥	公益財団法人日本股関節研究振興財団
均衡型染色体相互転座を有する不育症患者における染色体交互分離の予測因子の探索	佐藤 剛	産科婦人科	\1,430,000	㊥ 委	文部科学省
インスリン応答に着目した子宮内膜・脱落膜の機能解明による不育症の新規治療戦略	後藤志信	臨床遺伝医療部・産科婦人科	\3,900,000	㊥ 委	文部科学省
人工知能を用いたタイムラプスイメージングの解析による非侵襲的な胚選択法の確立	澤田　祐季	産科婦人科	\1,400,000	㊥ 委	文部科学省
胎児染色体数的異常に起因する不育症の関連遺伝子の解析とリスク評価の開発	吉原　紘行	産科婦人科	\752,104	㊥ 委	文部科学省
全ゲノムトリオ解析を用いた胎児染色体正常患者における不育症の原因遺伝子の解析	吉原　紘行	産科婦人科	\1,560,000	㊥ 委	文部科学省
原因不明習慣流産患者における流産時の子宮内容物のエピゲノム解析	松本　洋介	産科婦人科	1,000,000	㊥ 委	文部科学省
先天異常症候群のライフステージ全体の自然歴と合併症の把握：Reverse phenotypingを包含したアプローチ	齋藤伸治	小児科	\950,000	㊥ 委	厚生労働省
脳内AMPA受容体密度の変化に着目したアンジェルマン症候群の病態解明	齋藤伸治	小児科	\500,000	補 ㊥	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
希少・未診断疾患に対する拠点病院の体制整備に関する研究	齋藤伸治	小児科	\3,000,000	補 ㊥	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計 10件

新生児集中治療室における精緻･迅速な遺伝子診断に関する研究開発	齋藤伸治	小児科	\1,400,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
精緻エピゲノム解析技術開発とIRUD未解明症例への応用	齋藤伸治	小児科	\3,300,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児科分野に関する学術研究動向-小児科学と遺伝学を中心とした基礎科学との境界領域における新たな展開-	齋藤伸治	小児科	\1,200,000	(補) 委	日本学術振興会
脳オルガノイドを用いた巨脳症発症メカニズムの解明	齋藤伸治	小児科	\3,300,000	(補) 委	文科省科研費
Schaaf-Yang症候群の診断基準策定と疫学に関する研究	齋藤伸治	小児科	\1,300,000	(補) 委	厚労省科研費
新生児･乳児におけるシート型生体センサーを用いた行動期評価に関する研究新生児の痛み･ストレス定量化	岩田欧介	小児科	\977,500	(補) 委	国立大学法人九州大学
新生児の痛み･苦痛を客観定量する簡便なモニタリング法の確立	岩田欧介	小児科	\8,800,000	補 (委)	国立研究開発法人科学技術振興機構
新生児低酸素性虚血性脳症の生物学的マーカーの臨床応用に向けた研究	岩田欧介	小児科	\300,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
母親の録音言語は早産児の言語発達を改善させるか？	岩田欧介	小児科	\5,100,000	(補) 委	文科省科研費
Schaaf-Yang症候群に対するアンチセンス核酸治療法の確立	家田大輔	小児科	\1,500,000	(補) 委	文科省科研費

小計 10件

Schaaf-Yang症候群に伴う脳症様症状の発症メカニズム解明と治療法開発	根岸　豊	小児科	\1,500,000	補 委	文科省科研費
肺胞マイクロファージに注目したウイルス感染症による気管支喘息の発症促進機序の解明	尾関和芳	小児科	\1,000,000	補 委	文科省科研費
小児固形腫瘍治療に対する粒子線治療のための吸収性スペーサー留置ラットモデルの構築	亀井美智	小児科	\1,100,000	補 委	文科省科研費
遺伝子性胆汁うっ滞疾患に対する全ゲノム解析による新規分子病態の発見と診断率の向上	戸川貴夫	小児科	\1,300,000	補 委	文科省科研費
家族性肝内胆汁うっ滞症の診断率向上、発症早期の臨床病型･予後予測の実現に資するエビデンスの創出研究	戸川貴夫	小児科	\1,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
福山型先天性筋ジストロフィー患者における内服ステロイド薬の治験	服部文子	小児科	\250,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肺胞マイクロファージの炎症調節機能に着目した重症型慢性肺疾患の病態解明	加藤　晋	小児科	\1,200,000	補 委	文科省科研費
新生児の肺障害を修復する多能性幹細胞（Muse細胞）を用いた再生治療の開発	加藤　晋	小児科	\2,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
蛋白輸送障害に着目したSchaaf-Yang症候群の分子機構の解明と治療法開発	堀いくみ	小児科	\1,300,000	補 委	文科省科研費
早産児脳障害の包括的病態解明と神経再生促進技術の開発	川瀬恒哉	小児科	\1,000,000	補 委	文科省科研費

小計 10件

睡眠同期を中心にした母児関係構築の遅れが母の育児不安と児の高次脳機能に与える影響	岩田幸子	小児科	\1,900,000	補 委	文科省科研費
発達障害児の内因性カンナビノイド系プロファイルと臨床表現型の解析	大橋　圭	小児科	\900,000	補 委	文科省科研費
キメラマウスモデルを用いたHBV水平感染経路の解明	伊藤孝一	小児科	\100,000	補 委	文科省科研費
神経幹細胞のミトコンドリア脂質膜代謝に着目した脳回形成制御機構の解明	中村勇治	小児科	\1,200,000	補 委	文科省科研費
レプチンに注目した肥満によるアトピー型喘息発症の免疫機序の解明	野村孝泰	小児科	\1,700,000	補 委	文科省科研費
甲状腺のおけるヨード動態の解明とSLC26A7遺伝子異常の診療戦略の確立	青山幸平	小児科	\800,000	補 委	文科省科研費
甲状腺オルガノイドを用いたヨード輸送機構の全容解明と新たな治療戦略の確率	鈴木敦詞	小児科	\1,200,000	補 委	文科省科研費
ろ紙血を用いた新生児腎不全スクリーニング	中野　優	小児科	\300,000	補 委	文科省科研費
エンドソームリサイクル機能障害が引き起こす疾患の全体像の解明	加藤耕治	小児科	\1,100,000	補 委	文科省科研費
ガス封入中空デバイスによる抗体医療の眼内徐放システムの開発	安川　力	眼科	\910,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会

小計 10件

眼底自発蛍光を用いたレーザー光凝固の瘢痕形成過程を指標とした効果判定基準の確立	野崎　実穂	眼科	\1,430,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会
網膜静脈閉塞症における虚血の関与解明と臨床への応用	平野　佳男	眼科	\1,560,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会
加齢黄斑変性における「網膜色素上皮-ブルッフ膜」メンテナンスの解明	加藤　亜紀	眼科	\1,690,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会
インプラントデバイスを使用した新しい眼内薬物徐放システムの開発	高瀬　範明	眼科	\780,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会
ケモカイン受容体を標的とした萎縮型加齢黄斑変性制御機構の解明と新規治療法の開発	平原　修一郎	眼科	\1,040,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会
網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫におけるアンジオポエチンの関与解明と臨床への応用	鈴木　識裕	眼科	\1,300,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会
網脈絡膜の加齢による変化：加齢黄斑変性とアルツハイマー病の関連性の検討	桑山　創一郎	眼科	\650,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会
ペリサイト消失網膜症モデルマウスを用いた網膜線維化のメカニズム解析	井上　奈緒美	眼科	\1,170,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会
糖尿病網膜症における新規治療標的の提唱	小椋　俊太郎	眼科	\1,430,000	補 委	独立行政法人　日本学術振興会
ウイルスに起因する急性聴平衡覚障害の包括的病態解明と新規治療への応用	岩﨑　真一	耳鼻いんこう科	\8,320,000	補 委	文部科学省

小計 10件

重度のふらつきを有する難治性前庭障害患者における経皮的ノイズ前庭電気刺激によるバランス改善効果と安全性を検証するための医師主導治験の実施	岩﨑　真一	耳鼻いんこう科	\1,088,500	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ラビットを用いた痙攣性発声障害モデルに対する外科治療の有効性と機序の検討	讃岐　徹治	耳鼻いんこう科	\1,170,000	補 委	文部科学省
診療に直結するエビデンス創出研究分野／E-1.希少難治性疾患の診療に直結するエビデンス創出研究（エビデンス創出）	讃岐　徹治	耳鼻いんこう科	\1,750,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
痙攣性発声障害疾患レジストリを利用した診断基準及び重症度分類の妥当性評価と改訂に関する研究	讃岐　徹治	耳鼻いんこう科	\2,951,000	補 委	厚生労働省
新規予後予測モデルの構築を目指した頭頸部がんにおける生活習慣の予後への影響	川北　大介	耳鼻いんこう科	\1,560,000	補 委	文部科学省
口腔扁平上皮癌の三次元培養モデルでの空気曝露レベルによる低酸素誘導因子の発現解析	佐藤　慎太郎	耳鼻いんこう科	\650,000	補 委	文部科学省
個別化医療に向けた腫瘍溶解ウイルス療法の開発	江崎　伸一	耳鼻いんこう科	\5,070,000	補 委	文部科学省
高齢者慢性めまいに対する認知行動療法を組み合わせたハイブリッド前庭リハビリの開発	蒲谷　嘉代子	耳鼻いんこう科	\1,170,000	補 委	文部科学省
内耳におけるカルシウム恒常性の維持機構に関与する分子機構の解明	南方　寿哉	耳鼻いんこう科	\2,210,000	補 委	文部科学省
両側反回神経麻痺に対する新規治療戦略	竹本　直樹	耳鼻いんこう科	\1,170,000	補 委	文部科学省

小計 10件

感音性難聴に対するZoledronateの治療効果と薬物作用機序の解明	勝見　さち代	耳鼻いんこう科	\1,560,000	補 委	文部科学省
生体親和性マテリアルを用いた、糖尿病性潰瘍の新規治療法の開発	佐藤 秀吉	形成外科	1,100,000	補 委	文部科学省
拡大広背筋皮弁における血行動態に関する研究	鳥山 和宏	形成外科	\1,500,000	補 委	文部科学省
紫外線照射による制御性T細胞の誘導と解析―皮膚病変のリキッドバイオプシーの開発	森田明理	皮膚科	\2,000,000	補 委	文部科学省
フォトフォレーシスによる制御性T細胞の誘導	森田明理	皮膚科	\1,200,000	補 委	文部科学省
新たな治療法の開発に向けた日光角化症における日光変性の表皮への作用機序の解明	加藤裕史	皮膚科	\1,400,000	補 委	文部科学省
次世代シーケンサーを用いたメルケル細胞癌の抗腫瘍免疫関連バイオマーカーの検索	中村元樹	皮膚科	\400,000	補 委	文部科学省
UVAによるキヌレニンを介した芳香族炭化水素受容体活性	佐川容子	皮膚科	\800,000	補 委	文部科学省
大気汚染による芳香族炭化水素受容体を介した好中球エラスターゼの活性としわの形成	中村令子	皮膚科	\800,000	補 委	文部科学省
アトピー性皮膚炎におけるAKR1C3遺伝子変異・多型の解析	山本　礼	皮膚科	\700,000	補 委	文部科学省

小計 10件

乾癬により肝硬変を発症する免疫学的機序の検討と肝硬変治療への応用	井汲今日子	皮膚科	\1,400,000	補 委	文部科学省
有棘細胞癌の予後と免疫学的因子についての次世代シーケンサーを用いた解析	西原春奈	皮膚科	\300,000	補 委	文部科学省
がん細胞および免疫応答解析に基づくがん免疫療法効果予測診断法の確立	森田明理	皮膚科	\700,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
オールジャパンコホート連携による大規模乾癬ゲノム・臨床情報の構築	森田明理	皮膚科	\2,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
根治切除不能悪性黒色腫（メラノーマ）治療におけるニボルマブとのTM5614併用の安全性・有効性を検討する第II相試験	加藤裕史	皮膚科	\2,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
精子幹細胞の分化・増殖にかかわる甲状腺機能の役割に関する包括的研究	林　祐太郎	泌尿器科	\1,000,000	補 委	文部科学省
去勢抵抗性前立腺癌における細胞間連絡機構を介した進展機序の解明と分子基盤	内木　拓	泌尿器科	\2,200,000	補 委	文部科学省
褐色脂肪細胞中のUCP1機能解析とβ3刺激薬を用いた新規尿路結石予防法の確立	杉野　輝明	泌尿器科	\2,100,000	補 委	文部科学省
精子幹細胞の分化過程における甲状腺機能の役割の解明	松本　大輔	泌尿器科	\1,200,000	補 委	文部科学省
腸内細菌叢と腎結石形成機序の解明と治療法の開発	磯谷　正彦	泌尿器科	\1,100,000	補 委	文部科学省

小計 10件

バイオインフォマティクス創薬による尿路結石のマトリックスを標的とした結晶貪食溶解療法の開発	田口　和己	泌尿器科	\1,000,000	補 委	公益財団法人　堀科学芸術振興財団
ナノ粒子誘導マクロファージによるマトリックスを標的とした結晶貪食能を用いた尿路結石の溶解治療の開発	田口　和己	泌尿器科	\1,000,000	補 委	公益財団法人日東学術振興財団
バイオインフォマティクス創薬による尿路結石のマトリックスを標的とした結晶貪食溶解療法の開発	内木　拓	泌尿器科	\1,000,000	補 委	公益財団法人堀科学芸術振興財団
精子幹細胞の分化･増殖にかかわる甲状腺機能の役割に関する包括的研究	林 祐太郎	小児泌尿器科	\1,000,000	補 委	文部科学省
時期特異的な精子幹細胞の分化過程の包括的解析と生殖医療への新規治療戦略	水野 健太郎	小児泌尿器科	\2,800,000	補 委	文部科学省
精子形成障害におけるエピゲノム因子の解明による男性不妊症に対する新規治療薬の確立	西尾 英紀	小児泌尿器科	\250,000	補 委	特別研究奨励費
乳がん患者の再発不安･恐怖に対するスマートフォン問題解決療法および行動活性化療法の有効性：無作為割付比較試験	明智　龍男	精神科	\10,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
がん患者の家族･遺族に対する効果的な精神心理的支援法の開発研究	明智　龍男	精神科	\7,500,000	補 委	厚生労働科省
AYA世代のがん患者に対するスマートフォンによる医療･支援モデル介入効果の検証	明智　龍男	精神科	\6,750,000	補 委	厚生労働科省
高齢者の医療事故を自動予測する電子カルテシステムの開発-ディープラーニングの応用	明智　龍男	精神科	\1,700,000	補 委	文部科学省

小計 10件

がん患者の不安、抑うつに対するスマートフォン精神療法の有効性：無作為割付比較試験	明智　龍男	精神科	\2,100,000	㊟ 委	文部科学省
脳機能画像を用いた慢性めまいに対するACTの効果予測因子と作用機序の解明	近藤　真前	精神科	\1,200,000	㊟ 委	文部科学省
乳がん患者のうつ病へ包括的に介入する対人関係療法の開発と効果検証	利重　裕子	精神科	\1,100,000	㊟ 委	文部科学省
重度精神障碍者を介護する家族の感情評価尺度の開発-介護過程の曼荼羅的理解-	白石　直	精神科	\800,000	㊟ 委	文部科学省
患者意向調査を踏まえて開発する、看護師協働の終末期意思決定支援プログラム	長谷川　貴昭	緩和ケアセンター	\700,000	㊟ 委	文部科学省
深層学習と血管抑制・非抑制画像を利用した新たな転移性脳腫瘍診断法の確立	樋渡　昭雄	放射線診断・IVR科	1,300,000	㊟ 委	文部科学省
放射線生物学的基礎実験に基づく定位照射の最適照射間隔の確立	富田　夏夫	放射線科	\500,000	㊟ 委	文部科学省
肺動静脈奇形に対する塞栓術後の新たな画像診断：造影剤を使用しない非侵襲的血流評価	富田　夏夫	放射線科	\50,000	㊟ 委	文部科学省
転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療の連日照射法と間隔を空けた照射法の ランダム化比較試験	富田　夏夫	放射線科	\1,000,000	㊟ 委	公益財団法人 堀科学芸術振興財団
転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療の連日照射法と間隔を空けた照射法のランダム化比較試験	富田　夏夫	放射線科	\600,000	㊟ 委	日本放射線腫瘍学会 2021・2022度研究課題

小計 10件

遺伝病のthin slice撮像と人工知能による磁気共鳴画像診断法の樹立	中川基生	放射線科	\3,900,000	㊕委	文部科学省
大規模電気生理記録から疼痛特異的なパターンを見出す脳波モデルの作成と臨床応用	草間　宣好	麻酔科	\500,000	㊕委	文部科学省
急性脳障害に対するエリスロポエチンの脳保護治療開発の基盤研究	田村　哲也	麻酔科	\800,000	㊕委	文部科学省
多施設データベース構築によるPACU（麻酔後ケアユニット）の安全性と有用性の検証	仙頭　佳起	麻酔科	\700,000	㊕委	文部科学省
δオピオイドの情動回路における機能解析と慢性疼痛治療への応用	小笠原　治	麻酔科	\800,000	㊕委	文部科学省
大規模脳活動記録とイメージングによる痛み認知の脳内情報伝達回路の解明	田中　基	麻酔科	\600,000	㊕委	文部科学省
術後回復室（PACU）退室基準を活用した本邦の小児術後管理の質の向上	長谷川 達也	麻酔科	\100,000	㊕委	文部科学省
血液脳関門の破綻に着目した術後神経認知機能障害の発症機序解明	祖父江　和哉	麻酔科	\3,600,000	㊕委	文部科学省
活性化脊髄後角アストロサイトのL-乳酸輸送異常による神経障害性疼痛の機序解明	井口　広靖	麻酔科	\1,200,000	㊕委	文部科学省
脳血流量の変化を指標とした慢性疼痛患者の脳機能評価	杉浦　健之	麻酔科	\900,000	㊕委	文部科学省

小計 10件

いたみセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	杉浦　健之	麻酔科	\200,000	㊟ 委	厚生労働省
慢性疼痛診療システム普及･人材養成モデル事業	杉浦　健之	麻酔科	\4,600,000	㊟ 委	厚生労働省
頚動脈石灰化粥腫安定機構の多角的エピジェネティック制御と分子間クロストークの探究	片野広之	脳神経外科	\1,100,000	㊟ 委	文部科学省
食品基礎科学を応用した新規咀嚼機能評価法の開発とオーラルフレイルへの波及効果	渋谷　恭之	歯科口腔外科	\800,000	㊟ 委	文部科学省
低濃度フッ化物を用いた放射線性う蝕予防に関する多施設共同第Ⅲ相試験	渋谷　恭之	歯科口腔外科	\1,000,000	㊟ 委	文部科学省
多血小板血漿を用いた放射線性口腔粘膜炎治療薬の確立	宮本大模	歯科口腔外科	\1,100,000	㊟ 委	文部科学省
REM睡眠行動障害に影響を与える呼吸イベントの解明	池森　宇泰	歯科口腔外科	\800,000	㊟ 委	文部科学省
活性フラボノイドを用いた口腔潜在的悪性疾患に対する治療薬の開発	加藤　伸一郎	歯科口腔外科	\1,200,000	㊟ 委	文部科学省
チタン上のプロテオグリカン層がオッセオインテグレーション獲得に果たす役割の解明	土屋　周平	歯科口腔外科	\1,000,000	㊟ 委	文部科学省

小計 10件

小計 9件

計 188件

(注) 1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名･出版年月等	論文種別
1	Akihisa Kato, Serina Ng, Amalraj Thangasamy, et al.	肝･膵臓内科	A potential signaling axis between RON kinase receptor and hypoxia-inducible factor-1 alpha in pancreatic cancer.	Carcinogenesis. 2021 Nov;60(11):734-745.	Original Article
2	Akihisa Kato, Michihiro Yoshida, Kazuki Hayashi.	肝･膵臓内科	Endoscopic ultrasound-guided covered metal stent deployment through endoscopic tapered sheath preventing bile leakage.	Endoscopy. 2021 Dec; doi: 10.1111/den.14209.	Case report
3	Yusuke Kito, Akihisa Kato, Michihiro Yoshida, et al.	肝･膵臓内科	Facile and secure deployment of plastic stent through an endoscopic tapered sheath for endoscopic ultrasound-guided drainage.	Endoscopy. 2022 Feb;doi: 10.1055/a-1747-3162.	Case report
4	Akihisa Kato, Makoto Natsume, Michihiro Yoshida, et al.	肝･膵臓内科	Endoscopic tapered sheath-assisted removal of a proximally migrated pancreatic stent.	Endoscopy. 2022 Mar. doi: 10.1055/a-1792-295	Case report
5	Hori Y, Ichino Y, Naitoh I et al.	肝･膵臓内科	Impact of physiologically shaped pancreatic stent for chronic pancreatitis	Sci Rep. 2021 Apr 15;11(1):8285.	Original Article
6	Hori Y, Chari ST, Tsuji Yet al.	肝･膵臓内科	Diagnosing Biliary Strictures: Distinguishing IgG4-Related Sclerosing Cholangitis From Cholangiocarcinoma and Primary Sclerosing Cholangitis	Mayo Clin Proc Innov Qual Outcomes. 2021 Jun 10;5(3):535-541.	Review
7	Hori Y, Hayashi K, Naitoh I et al.	肝･膵臓内科	A pilot study of novel duodenal covered self-expandable metal stent fixation	Sci Rep. 2021 Oct 5;11(1):19708.	Original Article

小計 7件

8	Hori Y, Nagai T, Hayashi K et al.	肝･膵臓内科	Ability of ergonomic timeout to reduce musculoskeletal discomfort related to fluoroscopic endoscopy	Endosc Int Open. 2021 Dec 14;9(12):E1909-E1913.	Original Article	
9	Hori Y, Hayashi K, Naitoh I et al.	肝･膵臓内科	Combined transpapillary drainage and endoscopic ultrasound-guided hepaticoduodenostomy after failed manipulation under cholangioscopy guidance	Endoscopy. 2021 Aug;53(8):E295-E296.	Case report	
10	Hori Y, Fukumitsu K, Naitoh I et al.	肝･膵臓内科	Endoscopic ultrasound-guided transesophageal drainage for acute mediastinitis caused by pancreatic fistula	Respir Med Case Rep. 2021 Jul 28;34:101480.	Case report	
11	Yoshida M, Imafuji H, Hayashi K, et al.	肝･膵臓内科	Endoscopic ultrasound-guided jejunojejunostomy with rendezvous contrast-filling assistance in afferent limb syndrome	Endoscopy. 2022 Feb;54(2):E49-E50.	Case report	
12	Yoshida M, Naitoh I, Hayashi K, et al.	肝･膵臓内科	Irrigation-assisted intraductal ultrasonography with a 3-Fr microcatheter during endoscopic retrograde cholangiography	Endoscopy . 2022 Jun;54(6):E294-E295	Case report	
13	Yoshida M, Naitoh I, Hayashi K, et al.	肝･膵臓内科	Various innovative roles for 3-Fr microcatheters in pancreaticobiliary endoscopy.	Dig Endosc. 2022 Mar;34(3):632-640.	Original Article	
14	Asano G, Miyabe K, Kato H, et al.	肝･膵臓内科	Relevance of gene mutations and methylation to the growth of pancreatic intraductal papillary mucinous neoplasms based on pyrosequencing	Sci Rep. 2022 Jan 10;12(1):419.	Original Article	
15	Kachi K, Naitoh I, Hayashi K, et al.	肝･膵臓内科	Anti-allergic drug suppressed pancreatic carcinogenesis via down-regulation of cellular proliferation	Int. J. Mol. Sci. 2021 Jul 12; 22(14): 7444.	Original Article	小計 8件

16	Akio Niimi	呼吸器･アレルギー内科	Narrative Review: how long should patients with cough variant asthma or non-asthmatic eosinophilic bronchitis be treated?	J Thorac Dis . 2021 May;13(5):3197-3214	Review	
17	Akio Niimi	呼吸器･アレルギー内科	Redefining "one airway, one disease": Broader classification considering specific pathophysiology and treatment	Respir Investig . 2021 Sep;59(5):573-575	Review	
18	Akio Niimi	呼吸器･アレルギー内科	Natural Language Processing: A Promising Research Tool of Chronic Cough for the Big Data Era	Chest . 2021 Jun;159(6):2149-2150	Review	
19	Hirotsugu Ohkubo, Akiko Nakano , Kohei Fujita 他	呼吸器･アレルギー内科	Spontaneous improvement of interstitial pneumonia with autoimmune features: A case report	Respirol Case Rep . 2021 Oct 19;9(11):e0867	Case report	
20	Tomoko Tajiri , Hiroaki Kawachi , Hiroshi Yoshida他	呼吸器･アレルギー内科	The causes of acute cough: a tertiary-care hospital study in Japan	J Asthma . 2021 Nov;58(11):1495-1501	Original Article	
21	Takehiro Uemura , Kensuke Fukumitsu , Ken Maeno 他	呼吸器･アレルギー内科	Asthma caused by durvalumab after chemoradiotherapy in two patients with non-small cell lung cancer	Respirol Case Rep . 2021 Aug 19;9(9):e0835	Case report	
22	Hirono Nishiyama , Tomoko Tajiri , Toru Yamabe他	呼吸器･アレルギー内科	Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis Presenting with Central Retinal Artery Occlusion During Treatment with Anti-interleukin-5 Receptor Monoclonal Antibody	Intern Med . 2021 Nov 15;60(22):3631-3634	Case report	
23	Fukumitsu Kensuke, Nishiyama Hirono, Kanemitsu yoshihiro, 他	呼吸器･アレルギー内科	Pretreatment Alveolar Nitric Oxide Levels Predict Improvement of Pulmonary Function 1 Year Following Anti-Asthma Treatments in Patients with Inhaled Corticosteroid-Na ïve Asthma.	Int Arch Allergy Immunol. 2022;183(5):479-489.	Others	小計 8件

24	Fuhita Kohei, Ohkubo Hirotsugu, Nakano Akiko, 他	呼吸器･アレルギー内科	Frequency and impact on clinical outcomes of sarcopenia in patients with idiopathic pulmonary fibrosis.	Chron Respir Dis. 2022 Jan-Dec	Original Article	
25	Fuhita Kohei, Ohkubo Hirotsugu, Nakano Akiko, 他	呼吸器･アレルギー内科	Decreased peak expiratory flow rate associated with mortality in idiopathic pulmonary fibrosis: A preliminary report.	Chron Respir Dis. 2022 Jan-Dec	Original Article	
26	Horiuchi Minoru, Oguri Tetsuya, Kagawa Yusuke, 他	呼吸器･アレルギー内科	Differences in the Therapeutic Effect of Chemotherapy Regimens for Concurrent Chemoradiotherapy of Locally Advanced Non-small Cell Lung Cancer.	Anticancer Res. 2022 Feb;42(2):1073-1079.	Original Article	
28	Yamabe T, Ohmura SI, Uehara K, Naniwa T.	ﾘｳﾏﾁ･膠原病内科	Macrophage activation syndrome in patients with adult-onset Still's disease under tocilizumab treatment: A single-center observational study.	Mod Rheumatol. 2022 Jan 5;32(1):169-176.	Original Article	
29	Naniwa T, Uehara K, Yamabe T, Ohmura SI.	ﾘｳﾏﾁ･膠原病内科	Reintroduction of tocilizumab elicited macrophage activation syndrome in a patient with adult-onset Still's disease with a previous successful tocilizumab treatment.	Mod Rheumatol Case Rep. 2021 Jul;5(2):360-364.	Case report	
30	Yoshihiro Seo, Tomoko Ishizu, Masaki Ieda 他	循環器内科	Clinical usefulness of the HFA-PEFF diagnostic scoring system in identifying late elderly Heart Failure with Preserved Ejection Fraction patients.	Circulation Journal. 2021 Apr 23;85(5):604-611.	Original Article	
31	Tomonori Sugiura, Yasuaki Dohi, Yasuyuki Takagi他	循環器内科	Examination of Large Artery Atherosclerosis could Reveal Small Artery Retinopathy in Untreated Middle-Aged Individuals.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2022 Jan 1;29(1):11-23	Original Article	
32	Tomonori Sugiura, Yasuaki Dohi, Yasuyuki Takagi他	循環器内科	A body shape index could serve to identify individuals with metabolic syndrome and increased arterial stiffness in the middle-aged population.	Clinical Nutrition ESPEN. 2021 Dec;46:251-258.	Original Article	小計 8件

33	Toshihiko Goto, Shohei Kikuchi, Kento Mori他	循環器内科	Cardiac Beta-Adrenergic Receptor Downregulation, Evaluated by Cardiac Positron Emission Tomography, in Chronotropic Incompetence.	The Journal of Nuclear Medicine. 2021 Jul 1;62(7):996-998.	Original Article	
34	Toshihiko Goto, Kento Mori, Takafumi Nakayama他	循環器内科	Multimorbidity, polypharmacy, and mortality in older patients with pacemakers.	Journal of Arrhythmia. 2021 Nov 23;38(1):145-154	Original Article	
35	Kosuke Nakasuka, Shuichi Kitada, Yu Kawada他	循環器内科	Future bradyarrhythmia in patients with hypertrophic cardiomyopathy.	IJC Heart & Vasculature. 2021 Apr;33:100735	Original Article	
36	Tsuyoshi Ito, Kosuke Nakasuka, Hiroshi Fujita他	循環器内科	Impact of glucose variability on coronary plaque vulnerability in patients with dysglycemia: A whole coronary analysis with multislice computed tomography.	Journal of Cardiology. 2022 Jan;79(1):58-64.	Original Article	
37	Tsuyoshi Ito, Kyohei Yamaji, Shun Kohsaka他	循環器内科	Effect of Procedural Volume on In-Hospital Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention in Patients With Chronic Kidney Disease (from the Japanese National Clinical Data [J-PCI Registry]).	American Journal of Cardiology. 2022 Feb 15;165:12-18	Original Article	
38	Takafumi Nakayama, Yoshiko Oshima, Yasuhiro Shintani他	循環器内科	Ventricular Sigmoid Septum as a Risk Factor for Anthracycline-Induced Cancer Therapeutics-Related Cardiac Dysfunction in Patients With Malignant Lymphoma.	Circulation Reports. 2022 Mar 26;4(4):173-182	Original Article	
39	Masashi Yokoi, Tsuyoshi Ito, Hiroshi Fujita他	循環器内科	Impact of malondialdehyde-modified low-density lipoprotein on clinical outcomes after fractional flow reserve-guided deferral of revascularization.	Heart and Vessels. 2021 May;36(5):605-614.	Original Article	
40	Yu Kawada, Shuichi Kitada, Kenta Hachiya他	循環器内科	Left Ventricular Hypertrophic Change Indicating Poor Prognosis in Patients With Normal-Flow, Low-Gradient Severe Aortic Stenosis With Preserved Left Ventricular Ejection Fraction.	Circulation Reports. 2021 May 26;3(6):345-353	Original Article	小計 8件

41	Tomoyuki Banno, Kazuaki Wakami, Shohei Kikuchi他	循環器内科	Non-Invasive Estimation of Left Ventricular Filling Pressure Based on Left Atrial Area Strain Measured With Transthoracic 3-Dimensional Speckle Tracking Echocardiography in Patients With Coronary Artery	Circulation Reports. 2021 Aug 20;3:520-529	Original Article	
42	Keisuke Muto, Kazuaki Wakami, Junki Yamamoto他	循環器内科	Correlation Between Longitudinal Strain in the Apical Segments of the Left Ventricle at End-Systole Obtained by 2-Dimensional Speckle-Tracking Echocardiography and Left Ventricular Relaxation.	Circulation Journal. 2021 Aug 25;85(9):1575-1583.	Original Article	
43	Toshihiko Goto, Kento Mori, Yoshimasa Murakami他	循環器内科	Impact of differences in embryonic origin on the electrical features of the giant right atrium in an elderly patient	HeartRhythm Case Reports. 2021 Apr 8;7(7):496-497.	Case report	
44	Hiroshi Fujita, Masashi Yokoi, Tsuyoshi Ito 他	循環器内科	Unusual interventional treatment of spontaneous coronary artery dissection without stent implantation: a case series.	European Heart Journal Case Reports. 2021 Aug 9;5(8):ytab306	Case report	
45	Masashi Yokoi, Tsuyoshi Ito, Kazuaki Wakami他	循環器内科	Early detection and progression of sepsis-related myocardial calcification with subsequent left ventricular systolic dysfunction: a case report.	Journal of Cardiology Cases. 2022 Mar;25:130-132.	Case report	
46	Iida Shinsuke, Ishikawa T, Min CK, 他	血液･腫瘍内科	Subcutaneous daratumumab in Asian patients with heavily pretreated multiple myeloma: subgroup analyses of the noninferiority, phase 3 COLUMBA study.	Ann Hematol 2021Apr; 100: 1065-1077.	Original Article	
47	Iida Shinsuke, Izumi T, Komeno T, 他	血液･腫瘍内科	A phase 2, open-label, multicenter study of ixazomib plus lenalidomide and dexamethasone in adult Japanese patients with relapsed and/or refractory multiple myeloma.	Int J Clin Oncol 2022 Jan; 27: 224-233.	Original Article	
48	Ri Masaki, Iida S, Maruyama D, 他	血液･腫瘍内科	HLA genotyping in Japanese patients with multiple myeloma receiving bortezomib: an exploratory biomarker study of JCOG1105 (JCOG1105A1).	Cancer Sci 2021 Dec; 112: 5011-5019.	Original Article	小計 8件

49	Suzuki Nana, Okuyama T, Akechi T, 他	血液･腫瘍内科	Symptoms and health-related quality of life in patients with newly diagnosed multiple myeloma: a multicenter prospective cohort study.	Jpn J Clin Oncol 2022 Feb; 52: 163-169.	Original Article	
50	Yoshiaki Marumo , Shigeru Kusumoto , Ayako Masaki ,他	血液･腫瘍内科	Newly diagnosed follicular lymphoma during pembrolizumab treatment for lung cancer	Int J Hematol 2021,Aug;114(2):280-285	Case report	
51	Shiori Kinoshita, Satoshi Tanida , Akimi Kawai , 他	血液･腫瘍内科	Acute Promyelocytic Leukemia in a Patient With Chronic Continuous Type of Crohn's Disease	J Clin Med Res. 2022 Mar; 14(3):136-141	Case report	
52	Inoue H, Oomura M, Matsukawa N.他	脳神経内科	Direct Advancement of Balloon-Guide Catheter Distal to the Carotid Free-Floating Thrombus Achieves Smart Mechanical Thrombectomy.	Cureus. 2022 Feb	Case report	
53	Inoue H, Oomura M, Matsukawa N.他	脳神経内科	Successful Mechanical Thrombectomy for Acute Middle Cerebral Artery Occlusion in a Centenarian	Cureus. 2022 Feb	Case report	
54	Uchida Y, Oomura M, Matsukawa N.他	脳神経内科	Penumbra Detection With Oxygen Extraction Fraction Using Magnetic Susceptibility in Patients With Acute Ischemic Stroke.	Front Neurol. 2022 Feb	Original Article	
55	Inoue H, Oomura M, Matsukawa N.他	脳神経内科	Aplastic or twig-like middle cerebral artery and cardiogenic cerebral embolism mimicking moyamoya disease with RNF213 polymorphism: A case report.	Interv Neuroradiol. 2021 Dec	Case report	
56	Shibata H, Uchida Y,Matsukawa N.他	脳神経内科	Machine learning trained with quantitative susceptibility mapping to detect mild cognitive impairment in Parkinson's disease	Parkinsonism Relat Disord. 2022 Jan	Original Article	小計 8件

57	Kano Y, Uchida Y,Matsukawa N.他	脳神経内科	A Case of Posterior Circulation Embolism Due to a Subtype of Bow Hunter's Syndrome Diagnosed by Non-Invasive Examination.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2022 Jan	Case report	
58	Kondo-Takuma Y, Mizuno M, Matsukawa N.他	脳神経内科	Reduction of acetylcholine in the hippocampus of hippocampal cholinergic neurostimulating peptide precursor protein knockout mice	Sci Rep. 2021 Nov	Original Article	
59	Inoue H, Oomura M, Matsukawa N.他	脳神経内科	The Feasibility of Mechanical Thrombectomy on Single-Plane Angiosuite: An In-Depth Analysis of Procedure Time	Cerebrovasc Dis Extra. 2021 Oct	Original Article	
60	Uchida Y, Shibata H, Matsukawa N.他	脳神経内科	Occipital Tau Deposition and Astrogliosis After Traumatic Brain Injuries in a Kendo Player	Neurol Clin Pract. 2021 Aug	Case report	
61	Kawashima S, Ueki Y, Matsukawa N.他	脳神経内科	Impairment of the visuospatial working memory in the patients with Parkinson's Disease: an fMRI study	BMC Neurol. 2021 Sep	Original Article	
62	Kano Y, Yamada K, Matsukawa N.他	脳神経内科	Quantitative arterial spin labeling magnetic resonance imaging analysis of reversible cerebral vasoconstriction syndrome: A case series	Headache. 2021 Apr	Case report	
63	Kano Y, Yamada K, Matsukawa N.他	脳神経内科	Reproducible Presyncope Due to Osteophyte Compression Into Transverse Foramen of the C5 Vertebra	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2021 Apr	Case report	
64	Kano Y, Yuasa H, Matsukawa N.他	脳神経内科	First case report of fungal meningitis due to a polypore mushroom Irpex lacteus	Neurol Sci. 2021 May	Case report	小計 8件

65	Ohno Y, Ikeda T, Matsukawa N.他	脳神経内科	Rapid Progression of White Matter Signal Changes and Frontotemporal Atrophy in Globular Glial Tauopathy	J Neuropathol Exp Neurol. 2021 Apr	Original Article	
66	Murashima Miho	腎臓内科	Encapsulating peritoneal sclerosis and mortality related to infection in patients on combination once-weekly hemodialysis with peritoneal dialysis	Am J Nephrol	Original Article	
67	Yoshinaga Aoyama, Aya Naiki-Ito, Kuang Xiaochen et al.	消化器外科	Lactoferrin Prevents Hepatic Injury and Fibrosis via the Inhibition of NF-κB Signaling in a Rat Non-Alcoholic Steatohepatitis Model	Nutrients. 2021 Dec;14(1):42.	Original Article	
68	Kan Omi, Yoichi Matsuo, Goro Ueda et al.	消化器外科	Escin inhibits angiogenesis by suppressing interleukin-8 and vascular endothelial growth factor production by blocking nuclear factor-κB activation in pancreatic cancer cell lines	Oncol Rep. 2021 May;45(5):55.	Original Article	
69	Goro Ueda, Yoichi Matsuo, Hiromichi Murase et al.	消化器外科	10Z-Hymenialdisine inhibits angiogenesis by suppressing NF-κB activation in pancreatic cancer cell lines	Oncol Rep. 2022 Mar;47(3):48.	Original Article	
70	Anri Maeda, Hiroki Takahashi, Shinnosuke Harata et al	消化器外科	The Interaction Between Cancer-associated Fibroblasts and Cancer Cells Enhances Bcl-xL and Mcl-1 in Colorectal Cancer	Anticancer Res . 2022 Mar;42(3)	Original Article	
71	Anri Maeda, Hiroki Takahashi, Kaori watanabe, et al	消化器外科	The clinical impact of robot-assisted laparoscopic rectal cancer surgery associated with robot-assisted radical prostatectomy	Asian J Endosc Surg . 2022 Jan;15(1):36-43	Original Article	
72	Kaori Watanabe, Kazuyoshi Shiga, Anri Maeda et al	消化器外科	Chitinase 3-like 1 secreted from cancer-associated fibroblasts promotes tumor angiogenesis via interleukin-8 secretion in colorectal cancer	Int J Oncol . 2022 Jan;60(1):3	Original Article	小計 8件

73	Takuya Suzuki, Takahisa Hirokawa, Anri Maeda et al	消化器外科	ATR inhibitor AZD6738 increases the sensitivity of colorectal cancer cells to 5-fluorouracil by inhibiting repair of DNA damage	Oncol Rep . 2022 Apr;47(4):78.	Original Article	
74	Hayakawa S, Hayakawa T, Uehara S, et al.	消化器外科	Age, blood urea nitrogen, and lactate: Preoperative risk factors of laparotomy for strangulated small bowel obstruction	Asian J Endosc Surg. 2021 Oct;14(4):732-738	Original Article	
75	Hayakawa S, Ogawa R, Ito S, et al.	消化器外科	Suitable Diagnosis and Treatment of Esophageal Ruptures in Cases of Non-Boerhaave Syndrome: A Comparison With Boerhaave Syndrome	J Investig Med High Impact Case Rep. 2021 Jan-Dec;9:23247096211014683	Case report	
76	Fujihata S, Ogawa R, Nakaya S, et al.	消化器外科	The impact of skeletal muscle wasting during neoadjuvant chemotherapy on postoperative anastomotic leakage in patients with esophageal cancer	Esophagus. 2021 Apr;18(2):258-266	Original Article	
77	Fujihata S, Ogawa R, Ito S, et al.	消化器外科	Diagnosis of recurrent laryngeal nerve paralysis following esophagectomy by evaluating movement of the vocal cords and arytenoid cartilages using ultrasonography.	Esophagus. 2021 Jul;18(3):704-709	Original Article	
78	Nakaya S, Ogawa R, Hayakawa S, et al.	消化器外科	Serum IgG level is a predicting factor for the response to neoadjuvant chemotherapy in patients with esophageal squamous cell carcinoma	World J Surg Oncol. 2021 Jul 19;19(1):217	Original Article	
79	Okubo T, Ogawa R, Ueno S, et al.	消化器外科	ESD-aid surgery as a new treatment strategy for duodenal adenoma	BMC Res Notes. 2022 Feb 10;15(1):33	Original Article	
80	Hayakawa S, Ogawa R, Ueno S, et al.	消化器外科	Impact of the indocyanine green fluorescence method for anastomotic blood flow in robotic distal gastrectomy	Surg Today. 2022 Feb 23	Original Article	小計 8件

81	Hayakawa S, Hayakawa T, Watanabe K, et al.	消化器外科	Evaluation of long-term chronic pain and outcomes for unilateral vs bilateral circular incision transabdominal preperitoneal inguinal hernia repair	Ann Gastroenterol Surg. 2022 Feb 16;6(4):577-586	Original Article	
82	Okuda K, Hattori H, Yokota K, et al.	呼吸器外科	Examination on the necessity of pericardial fat tissue resection in extended thymectomy for myasthenia gravis.	Gland Surg. 2021 Aug;10(8):2438-2444	Original Article	
83	Tatematsu T, Okuda K, Endo K, et al	呼吸器外科	Type A thymoma with simultaneous solitary intrapulmonary metastasis: A case report.	Thorac Cancer. 2021 Jun;12(12):1923-1926	Case report	
84	Matsui T, Takahashi Y, Shirai S, et al.	呼吸器外科	Comparison of surgical outcomes between thoracoscopic anatomical sublobar resection including and excluding subsegmentectomy.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 May;69(5):850-858	Original Article	
85	Matsui T, Sakakura N, Koyama S, et al.	呼吸器外科	Comparison of Surgical Outcomes Between Invasive Mucinous and Non-Mucinous Lung Adenocarcinoma	Ann Thorac Surg.2021 Oct;112(4):1118-1126	Original Article	
86	Takagi D, Morikawa Y, Kamei M, et al.	小児外科	The first pediatric case of sacral Ewing sarcoma treated with space-making particle therapy.	Pediatr Blood Cancer.2021 May;68(5):e28842	Case report	
87	Yoshida Masahito, Takenaga Tetsuya, Chan CK 他	整形外科	Location and magnitude of capsular injuries varies following multiple anterior dislocations of the shoulder: Implications for surgical repair	J Orthop Res 39 : 648-656, 2021	Original Article	
88	Kimura Hiroaki, Yamamoto Norio, Katsuhiro Hayashi他	整形外科	Multifocal Epithelioid Hemangioendothelioma Complicated with Disseminated Intravascular Coagulation	Case Rep Oncol . 2021 Oct 19;14(3):1490-1496	Case report	小計 8件

89	Kato Kenji, Akeda K, Miyazaki S他	整形外科	NF-kB decoy oligodeoxynucleotide preserves disc height in a rabbit anular-puncture model and reduces pain induction in a rat xenograft-radiculopathy model	Eur Cell Mater . 2021 Jul 20;42:90-109	Original Article	
92	Yagi Kiyoshi, Goto Yuta, Kato Kenji他	整形外科	p38 Mitogen-Activated Protein Kinase Is Involved in Interleukin-6 Secretion from Human Ligamentum Flavum -Derived Cells Stimulated by Tumor Necrosis Factor-α	Asian Spine J . 2021 Dec;15(6):713-720	Original Article	
94	Takeuchi Satoshi, Chan K Calvin, Hattori Soichi他	整形外科	An improved quantitative ultrasonographic technique could assess anterior translation of the glenohumeral joint accurately and reliably	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc . 2021 Aug;29(8):2595-2605	Original Article	
95	Aiba Hisaki, Ikuta Kunihiro, Asama Kunihiro他	整形外科	Effect of Neoadjuvant Therapies on Soft Tissue Sarcomas with Tail-like Lesions: A Multicenter Retrospective Study	Cancers (Basel) . 2021 Aug 2;13(15):3901	Original Article	
96	Aiba Hisaki, Kimura Hiroaki, Yamada Satoshi他	整形外科	Different patterns of pneumothorax in patients with soft tissue tumors treated with pazopanib: A case series analysis	PLoS One. 2021 Jul 16;16(7):e0254866(オンライン)	Case report	
97	Inoue Jumpei, Tawada Kaneaki, Sugimoto Katsuma他	整形外科	Bilateral suprascapular notches are asymmetrically shaped in a third of the Asian population	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc . 2021 Dec;29(12):3989-3996	Original Article	
98	Iwata Hidetoshi, Okmoto Hideki, Kawaguchi Yohei他	整形外科	Insidious Onset Compartment Syndrome of the Forearm in a Teenager: A Case Report and Review of the Literature	J Hand Surg Asian Pac Vol . 2021 Sep;26(3):481-484	Review	
99	Kawanishi Yusuke, Kobayashi Makoto, Sasuma Sanshiro他	整形外科	Anterolateral ligament reconstruction in addition to primary double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction for grade 3 pivot shift improves residual knee instability during surgery	J Exp Orthop. 2021 Jul 19;8(1):51	Original Article	小計 8件

100	Usami Takuya, Takada Naoya, Sakai Hiroaki他	整形外科	Treatment of patellar fractures using bioresorbable forged composites of raw particulate unsintered hydroxyapatite/poly-L-lactide cannulated screws and nonabsorbable sutures	Injury. 2021 Jun;52(6):1587-1591	Original Article	
101	Usami Takuya, Takada Naoya, Nihida Kazuki他	整形外科	Banding with lesser trochanter fragment using nonabsorbable tape in trochanteric femoral fractures	SICOT J. 2021;7:33	Original Article	
102	Usami Takuya, Takada Naoya, Sakai Hiroaki他	整形外科	Preoperative “software-based reduction and fixation” using a 3D workstation software for posterior malleolus intra-articular fracture: A case report	Foot & Ankle Surgery: Techniques, Reports & Cases Volume 1, Issue 3, Autumn 2021,	Case report	
103	Sakai Takao, Aiba Hisaki, Nakagawa Motoo他	整形外科	Myelolipoma mimicking osteosarcoma in the distal femur	Int J Surg Case Rep. 2021 Jun;83:105997	Original Article	
104	Sawada Y, Sato T, Sugiura-Ogasawara M 他	産科婦人科	Evaluation of artificial intelligence using time-lapse images of IVF embryos to predict live birth.	Reprod Biomed Online 2021 ; 43: 843-852	Original Article	
105	Goto Shinobu, Suzumori Nobuhiro, Kumagai Kyoko他	臨床遺伝医療部	Trends of fetal chromosome analysis by amniocentesis before and after beginning of noninvasive prenatal testing: A single-center experience in Japan	J Obstet Gynaecol Res. 2021 Nov;47(11):3807-3812	Original Article	
106	Kei Ohashi , Satomi Fukuhara , Taishi Miyachi　他	小児科	Comprehensive Genetic Analysis of Non-syndromic Autism Spectrum Disorder in Clinical Settings.	J Autism Dev Disord. 2021 Dec;51(12):4655-4662.	Original Article	
107	Yuko Mizutani , Masahiro Kinoshita , Yung-Chieh Lin　他	小児科	Temporal inversion of the acid-base equilibrium in newborns: an observational study	PeerJ. 2021 Apr 14;9:e11240	Original Article	小計　8件

108	Kyoko Yokoi , Osuke Iwata , Satoru Kobayashi 他	小児科	Evidence of both foetal inflammation and hypoxia-ischaemia is associated with meconium aspiration syndrome	Sci Rep. 2021 May 5;11(1):9537.	Original Article	
109	Shinji Saitoh	小児科	Endosomal Recycling Defects and Neurodevelopmental Disorders	Cells. 2022 Jan 3;11(1):148.	Review	
110	Ishida T, Suzuki K, Koyama S 他	小児科	Acute myocarditis following coronavirus disease 2019 vaccination in a 14-year-old Japanese boy	Pediatr Int. 2022 Jan;64(1):e15256	Case report	
111	Ikumi Hori , Daisuke Ieda , Shogo Ito 他	小児科	Peripheral nerves are involved in hypomyelinating leukodystrophy-3 caused by a homozygous AIMP1 variant	Brain Dev. 2021 Apr;43(4):590-595	Case report	
112	Naomi Kawaoka , Kei Ohashi , Satomi Fukuhara 他	小児科	Impact of School Closures due to COVID-19 on Children with Neurodevelopmental Disorders in Japan	J Autism Dev Disord. 2022 May;52(5):2149-2155	Original Article	
114	Kato Aki 他	眼科	Remote screening of diabetic retinopathy using ultra-widefield retinal imaging.	Diabetes Res Clin Pract, 2021 July	Original Article	
115	Kurobe Ryo, Hirano Yoshio他	眼科	Ultra-Widefield Swept-Source Optical Coherence Tomography Findings of Peripheral Retinal Degenerations and Breaks.	Clin Ophthalmol, 2021 Dec	Original Article	
117	Inagaki Miho, Hirano Yoshio 他	眼科	Twenty-Four Month Results of Intravitreal Ranibizumab for Macular Edema after Branch Retinal Vein Occlusion: Visual Outcomes and Resolution of Macular Edema.	Semin Ophthalmol, 2021 Oct	Original Article	小計 8件

118	Obayashi Tomohiro, Kato Aki 他	眼科	A case series from a single family of familial retinal arteriolar tortuosity with common history of sudden visual loss.	Am J Ophthalmol Case Rep, 2021 Nov	Original Article	
119	Kato Aki, Yasukawa Tsutomu	眼科	Mental Status and Feasibility of an Intravitreal Ranibizumab Treat-and-Extend Regimen in Patients with Neovascular Age-Related Macular Degeneration	Adv Ther, 2022 Mar	Original Article	
120	Kawakita Daisuke,Oze Isao, Iwasaki Shinichi 他	耳鼻いんこう科	Trends in the incidence of head and neck cancer by subsite between 1993 and 2015 in Japan.	Cancer Med . 2022 Mar;11(6):1553-1560	Others	
121	Esaki Shinichi ,Nakayama Meiho , Arima Sachie 他	耳鼻いんこう科	Use of Actigraphy for a Rat Behavioural Sleep Study.	Clocks Sleep . 2021 Aug 2;3(3):409-414	Others	
122	Kabaya Kayoko, Tamai Hitomi, Okajima Akina 他	耳鼻いんこう科	Presence of exacerbating factors of persistent perceptual-postural dizziness in patients with vestibular symptoms at initial presentation.	Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2022 Jan; 7:499-505	Original Article	
123	Minohara Kiyoshi , Matoba Takuma,Kawakita Daisuke 他	耳鼻いんこう科	Novel Prognostic Score for recurrent or metastatic head and neck cancer patients treated with Nivolumab.	Sci Rep . 2021 Aug 20;11(1):16992	Others	
124	Kazuhiro Toriyama, Hiroshi Kato, Hideyoshi Sato, 他	形成外科	Cultured epidermal autografts for treatment of stable vitiligo: quantitative analysis of color matching with surrounding normally pigmented skin.	J Dermatol	Original Article	
125	Oda T, Kato H, Nakamura M, 他	皮膚科	Analysis of biomonitoring data after full-thickness skin grafting.	J Dermatol. 2021 Jul;48(7):1035-1043.	Original Article	小計 8件

126	Magara T, Nakamura M, Nojiri Y, 他	皮膚科	Tertiary lymphoid structures correlate with better prognosis in cutaneous angiosarcoma.	J Dermatol Sci. 2021 Jul;103(1):57-59.	Letter	
127	Nakamura M, Morita A.	皮膚科	Immune activity in Merkel cell carcinoma.	J Dermatol. 2022 Jan;49(1):68-74.	Review	
128	Sakurai M, Nakamura M, Ikumi K, 他	皮膚科	Dermoscopic findings of psoralen and ultraviolet A therapy lentigines resembling melanoma in a patient with mycosis fungoides.	J Dermatol. 2021 Nov;48(11):e526-e527.	Letter	
129	Magara T, Nakamura M, Kano S, 他	皮膚科	Dynamic changes in tumor immunity in a case of cutaneous angiosarcoma with recurrent lesions.	J Dermatol. 2021 Nov;48(11):e564-e565.	Letter	
130	Kato A, Kato H, Komori S, 他	皮膚科	Pulmonary Tumor Thrombotic Microangiopathy Secondary to Extramammary Paget's Disease: An Autopsy Case Report and Literature Review.	Case Rep Oncol. 2021 Sep 16;14(3):1328-1332.	Case report	
131	Nakamura M, Magara T, Kano S, 他	皮膚科	Tertiary Lymphoid Structures and Chemokine Landscape in Virus-Positive and Virus-Negative Merkel Cell Carcinoma.	Front Oncol. 2022 Feb 10;12:811586.	Original Article	
132	Shintani Y, Nishida E, Furuhashi T, 他	皮膚科	Efficacy of bath-psoralen and ultraviolet A therapy for mycosis fungoides - retrospective analysis of 62 cases.	J Dermatol. 2022 Feb;49(2):239-245.	Original Article	
133	Hamamoto Shuzo, AbdelRazek Mostafa, 他	泌尿器科	LigaSure versus the standard technique (Hem-o-lok clips) for robot-assisted radical prostatectomy: a propensity score-matched study	J Robot Surg 15(6):869-875.	Original Article	小計 8件

134	Taguchi Kazumi, Okada Atsushi, Unno Rei, 他	泌尿器科	Macrophage Function in Calcium Oxalate Kidney Stone Formation: A Systematic Review of Literature	Front Immunol 12:673690	Original Article	
135	Taguchi Kazumi, Yamashita Shimpei, Hamamoto Shuzo, Deguchi Ryusuke,	泌尿器科	Ureteroscopy-assisted puncture for ultrasonography-guided renal access significantly improves overall treatment outcomes in endoscopic combined intrarenal surgery.	Int J Urol 28(9):913-919	Original Article	
136	Naiki Taku, Nagai Takashi, Sugiyama Yosuke, 他	泌尿器科	First Report of Oncological Outcome and Prognostic Analysis in a First-Line Setting of Short Hydration Gemcitabine and Cisplatin Chemotherapy for Patients with Metastatic Urothelial Carcinoma	Oncology 99(10):622-631.	Original Article	
137	Hamamoto Shuzo, Okada Shinsuke, Inoue Takaaki, 他	泌尿器科	Comparison of the safety and efficacy between the prone split-leg and Galdakao-modified supine Valdivia positions during endoscopic combined intrarenal surgery: A multi-institutional analysis	Int J Urol. 2021 Nov;28(11):1129-1135	Original Article	
138	Okada Atsushi, Matsumoto Toshio, Ohshima Hiroshi, 他	泌尿器科	Bisphosphonate Use May Reduce the Risk of Urolithiasis in Astronauts on Long-Term Spaceflights	JBMR Plus. 2022 Jan;6(1)	Original Article	
139	Sugino Teruaki, Taguchi Kazumi, Hamamoto Shuzo, 他	泌尿器科	Risk Factors for Failure of Endoscopic Management of Stone-related Ureteral Strictures	Urol J. 2022 Mar;19(2):95-100	Original Article	
140	Etani Toshiki, Mogami Tohru, Yamaguchi Sachiyo, 他	泌尿器科	Comparison of drug susceptibility between Escherichia coli detected in stool cultures of patients undergoing transrectal prostate needle biopsy and Escherichia coli in hospital-wide urine antibiograms	J Infect Chemother. 2022 Feb;28(2):343-346	Original Article	
141	Naiki Taku, Takahara Kiyoshi, Ito Toshiki, 他	泌尿器科	Comparison of clinical outcomes between androgen deprivation therapy with up-front abiraterone and bicalutamide for Japanese patients with LATITUDE high-risk prostate cancer in a real-world retrospective analysis	Int J Clin Oncol. 2022 Mar;27(3):592-601	Original Article	小計 8件

142	Nishio Hideki, Mizuno Kentaro, Kato Taiki, 他	泌尿器科	A case of posterior urethral valve identified in an older child by straining to void.	Urol Case Rep. 2022 Jan;40:101886-101886	Case report	
143	Nishio Hideki, Mizuno Kentaro, Matsumoto Daiske, 他	泌尿器科	A novel method of transvesicoscopic ureteral reimplantation of an ectopic ureter with a mate ureter in a duplex kidney	IJU Case Rep. 2022 Mar;5(2):132-135	Case report	
144	Kawai Noriyasu, Nagai Takashi, Naiki-Ito Aya, 他	泌尿器科	Combination therapy with radiation and hyperthermia-induced clinical complete response of small cell carcinoma of prostate	IJU Case Rep. 2022 Mar;5(2):113-116	Case report	
146	Nishio Hidenori, Mizuno Kentaro, Matsumoto Daisuke, et al.	小児泌尿器科	A novel transvesicoscopic ureteral reimplantation technique to treat an infantile ectopic ureter in a single system.	Urology. 2022 Jun	Case report	
147	Nishio Hidenori, Mizuno Kentaro, Kato Taiki, et al.	小児泌尿器科	A novel method of transvesicoscopic ureteral reimplantation of an ectopic ureter with a mate ureter in a duplex kidney.	IJU Case Rep. 2021 Nov	Case report	
148	Nishio Hidenori, Mizuno Kentaro, Kato Taiki, et al.	小児泌尿器科	A case of posterior urethral valve identified in an older child by straining to void.	Urol Case Rep. 2021 Oct	Case report	
149	Watanabe T, Kondo M, Sakai M, 他	精神科	Association of Autism Spectrum Disorder and Attention Deficit Hyperactivity Disorder Traits with Depression and Empathy Among Medical Students	Advances in medical education and practice 2021; 12: 1259-1265.	Original Article	
150	Uchida M, Akechi T, Morita T,他	精神科	Development and validation of the Terminal Delirium-Related Distress Scale to assess irreversible terminal delirium	Palliat Support Care 2021; 19: 287-293.	Original Article	小計 8件

151	Toshishige Y, Kondo M, Akechi T, 他	精神科	Interpersonal psychotherapy for complex posttraumatic stress disorder related to childhood physical and emotional abuse with great severity of depression:	Asia-Pacific psychiatry 2021: e12504.	Case report	
152	Hasegawa T, Akechi T, Osaga S, 他	緩和ケアセンター	Unmet need for palliative rehabilitation in inpatient hospices/palliative care units: a nationwide post-bereavement survey	Jpn J Clin Oncol 2021; 51: 1334-1338.	Original Article	
153	Akechi T, Ito Y, Ogawa A, 他	精神科	Essential competences for psychologists in palliative cancer care teams	Jpn J Clin Oncol . 2021 Oct 5;51(10):1587-1594.	Original Article	
154	Watanabe T	精神科	Treatment of Major Depressive Disorder with Autism Spectrum Disorder by Acceptance and Commitment Therapy Matrix	Case Rep Psychiatry . 2021 Apr 7;2021:5511232.	Case report	
155	Takabatake S, Takahashi M , Kabaya K, 他	精神科	Validation of the Tinnitus Acceptance Questionnaire: Japanese Version	Audiol Res. 2022 Jan 13;12(1):66-76	Original Article	
156	Shimohira M, Nagai K, Ohta K, et al.	放射線科	Use of microspheres in embolization for unruptured renal angiomyolipomas	Open Med (Wars). 2021 Apr 20;16(1):655-659.	Original Article	
157	Ohta K, Shimohira M, Ogino H, et al.	放射線科	Safety and utility of performing CT-guided biopsies of pulmonary lesions that arise after radiotherapy.	J Med Imaging Radiat Oncol. 2021 Jun;65(3):317-322.	Original Article	
158	Shimohira M, Kiyosue H, Osuga K, et al.	放射線科	Location of embolization affects patency after coil embolization for pulmonary arteriovenous malformations: importance of time-resolved magnetic resonance angiography for diagnosis of patency.	Eur Radiol. 2021 Jul;31(7):5409-5420.	Original Article	小計 8件

159	Nakayama K, Shimohira M, Nagai K, et al.	放射線科	Duodenal stenosis after transcatheter arterial embolization for rupture of an inferior pancreaticoduodenal aneurysm.	Radiol Case Rep. 2021 Aug 1;16(10):2869-2872.	Case report	
160	Nakashima M, Shimohira M, Nagai K, et al.	放射線科	Embolization for acute arterial bleeding: use of the triaxial system and N-butyl-2-cyanoacrylate.	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2022 Mar;31(3):389-395.	Original Article	
161	Ohta K, Shimohira M, Kawai T, et al.	放射線科	Utilization of an Occlusion Balloon Catheter during Stent-Graft Placement to Treat Postsurgical Visceral Arterial Hemorrhage.	J Vasc Interv Radiol. 2022 Mar;33(3):304-307.	Original Article	
162	Natsuo Tomita, Katsuhiro Okuda, Nozomi Kita, et al.	放射線治療科	Role of stereotactic body radiotherapy for early-stage non-small-cell lung cancer in patients borderline for surgery due to impaired pulmonary function.	Asia Pac J Clin Oncol. 2022 Jan 30. doi: 10.1111/ajco.13731.	Original Article	
163	Natsuo Tomita, Shin-Ya Tamechika, Daisuke Kawakita, et al.	放射線治療科	Marked improvement of anti-TIF1-γ antibody-positive dermatomyositis after chemoradiotherapy to relevant nasopharyngeal cancer	Adv Radiat Oncol. 2021 Apr 11;6(4):100695. doi: 10.1016/j.adro.2021.100695.	Case report	
164	Nakagawa Motoo, Taku Naiki, Aya Naiki-Ito	放射線科	Usefulness of advanced monoenergetic reconstruction technique in dual-energy computed tomography for detecting bladder cancer	Jpn J Radiol. 2022 Feb;40:177-83	Original Article	
165	Kamimura Y, Nakanishi T, Sobue K, Tanaka M	麻酔科	Ultrasound guided SUCCESS approach in emergency cesarean delivery	Journal of Anesthesia. 15(2), 236-237 Published: 2021.4.1	Original Article	
168	Nakanishi T, Sento Y, Kamimura Y 他	麻酔科	Remimazolam for induction of anesthesia in elderly patients with severe aortic stenosis: a prospective, observational pilot study.	BMC Anesthesiology. Dec 6 21(1), 306	Case report	小計 8件

170	Nakanishi T, Sakamoto S, Yoshimura M 他	麻酔科	AutoFlow ® versus volume-controlled ventilation for laparoscopic gynecological surgery using LMA ® ProSeal™: a randomized controlled trial.	BMC Anesthesiology. Jun 28 21(1), 181	Case report
171	Nakanishi T, Sento Y, Kamimura Y 他	麻酔科	Macintosh laryngoscope and i-view ™and C-MAC ® video laryngoscopes for tracheal intubation with an aerosol box: a randomized crossover manikin study	JA Clin Rep. Jun 26 7(1), 52	Original Article
172	Aiji Sato Boku, Yoshiki Sento, Yuji Kamimura 他	麻酔科	Comparison of hemostatic effect and safety between epinephrine and tramazoline during nasotracheal intubation: a double-blind randomized trial	BMC Anesthesiology. 21, 235 Published Online: 2021.9.21	Original Article
173	Nakanishi T, Toriumi T	麻酔科	A Novel Method to Overcome Technical Problems With a Combination of Laryngeal Mask Airway and Bronchial Blocker in Thoracic Surgery.	J Cardiothorac Vasc Anesth. Nov;35(11), 3453-3454	Original Article
174	Sato (Boku)A, SentoY, Hasegawa T 他	麻酔科	Anesthetic management of a patient with Freeman-Sheldon syndrome undergoing oral surgery: A case report	Clinical Case Reports. 9(6)	Case report
175	Tanikawa M	脳神経外科	Endoscopic High Occipital Interhemispheric Transtentorial Approach for Lesions in the Anterosuperior Cerebellum, Upper Fourth Ventricle, and Upper Dorsal Brain Stem.	World Neurosurg. 2021 Dec 18:S1878-8750(21)01889-1. doi: 10.1016/j.wneu.2021.12.045. Online ahead of print. PMID: 34929371	Original Article
176	Shibata T	脳神経外科	Brain abscess of odontogenic origine in patients with malignant tumors; A report of two cases.	Surg Neurol Int. 2021 12(417).	Original Article
177	Katano H	脳神経外科	Epigenetic changes in carotid plaques with high calcium scores; DNA methylation and microRNA assessments.	Atherosclerosis 331: e93, 2021	Original Article 小計 8件

178	Teishiki SHIBATA	脳神経外科	Balloon Test Occlusion of the Carotid Artery: Internal Validation of Predictive Results.	Turk Neurosurg 31(5):710-717, 2021 DOI: 10.5137/1019-5149.JTN.32736-20.2	Original Article	
179	Teishiki Shibata	脳神経外科	Cavernous sinus dural arteriovenous fistula accessed through a straightened superficial temporal vein.	Surgical Neurology International ・2021 ・12(634). DOI10.25259/SNI_1035_2021	Original Article	
180	Tanikawa M.	脳神経外科	Endoscopic high occipital interhemispheric transtentorial approach for lesions in the anterosuperior cerebellum, upper fourth ventricle and upper dorsal brain stem.	World Neurosurgery 159:e260-e266, 2022	Original Article	
181	Kato S, Takashima H, Furuno S, 他	歯科口腔外科	A retrospective study on the incidence and risk factor of ARONJ.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology,33, 489-493, 2021.(https://www.sciencedirect.com/journal/journal-of-oral-and-maxillofacial-surgery-medicine-and-pathology/vol/33/issue/5)	Original Article	
183	Hirose M, Yoshida Y, Horii K, 他	歯科口腔外科	Effect of antimaicrobial photodynamic therapy on periodontopathogenic bacteria: Evaluation of Rose Bengal and riboflavin as photosensitizers.	JOID, 2021; 28(2), 69-77. https://www.jaoid.org/	Original Article	小計 5件 計 172件

(注) 1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）

3　「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4　「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5　「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）; 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例：　Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9　/　Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6　「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計　件

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	有・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・　手順書の主な内容 ・名古屋市立大学における医学系研究に係わる実施要綱（令和4年4月1日） ・名古屋市立大学医学系研究倫理審査委員会規程（令和4年4月1日） ・名古屋市立大学医学系研究倫理審査委員会（ＩＲＢ）標準業務手順書（令和4年4月1日） ・名古屋市立大学医学系研究倫理審査委員会（ＩＲＢ）事務局にかかる標準業務手順書（令和4年4月1日） 名古屋市立大学において、外部から依頼を受けてあるいは自ら計画して行われる医薬品、医療機器、再生医療等製品等の臨床試験、その他の医学系研究の実施するために必要な事項を「実施要綱」で定め、「医学系研究倫理審査委員会規程」を制定し、医学系研究の実施の適否その他の事項を調査、審議及び検討を行っている。なお、委員会の運営においては、「医学系研究倫理審査委員会（ＩＲＢ）標準業務手順書」にて運営に関する手続き及び記録の保存方法等の詳細を定め、「医学系研究倫理審査委員会（ＩＲＢ）事務局にかかる標準業務手順書」にて事務局の業務内容を定めている。	
③　倫理審査委員会の開催状況	年12回 委員会開催審査の他、規程により迅速審査（書面審査）を随時実施。

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に〇印を付けること。
　　2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無

② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 大学として利益相反の指針を示す「利益相反マネジメントポリシー」のもと、「利益相反マネジメント規程」及び「大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会規程」を制定し、毎年各教員に対して利益相反に関する自己申告書の提出を義務付け、必要に応じ適宜ヒアリングを行っている。また、利益相反に関する専門的事項について調査・審議するため、全学的な組織として外部専門家を含めた利益相反委員会を設置している。 なお、医学研究等にかかる利益相反に関しては、医学研究科内に大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会を設置し、臨床研究実施前の事前申告、毎年1回の定期申告に基づいて適切な管理を行っている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 14 回

(注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年６回
・研修の主な内容 「臨床研究実施セミナー（13回/年）」のうち、上記に合致する内容の開催状況は以下の6回 ・「本院における臨床研究の手続き等について」2021年4月28日開催　参加者数：158名 ・「本院における臨床研究の手続き等について」2021年5月17日開催　参加者数：58名 ・「倫理指針改定について」2021年6月15日開催　参加者数：92名 ・「臨床研究法について」2021年7月19日開催　参加者数：66名 ・「新倫理指針に対応した本学における新しいIRB申請書式について」2021年8月18日開催　参加者数：101名 ・「GCP/モニタリング」2022年3月14日開催　参加者数：72名	

(注）前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

診療科ごとに各領域の専門医取得を目指す専門的な研修を実施している。また、診療科部長又は部長代理を研修統括者とした指導体制を整備し、目標、指導体制、診療実績、連携施設等を含めた研修プログラムをホームページで明示している。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	100.4人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
兼松　孝好	総合内科・総合診療科	部長代理	28	
片岡　洋望	消化器内科	部長	32	
林 香月	肝・膵臓内科	部長	25	
新実　彰男	呼吸器・アレルギー内科	部長	36	
難波　大夫	リウマチ・膠原病内科	部長	27	
瀬尾　由広	循環器内科	部長	29	
田中　智洋	内分泌・糖尿病内科	部長	23	
飯田　真介	血液・腫瘍内科	部長	34	
松川　則之	脳神経内科	部長	33	
濱野　高行	腎臓内科	部長	23	
瀧口　修司	消化器・一般外科	部長	30	
中西　良一	呼吸器外科	部長	36	
須田　久雄	心臓血管外科	部長	36	
近藤　知史	小児外科	部長	37	
遠山　竜也	乳腺外科	部長	32	
村上　英樹	整形外科	部長	28	
杉浦　真弓	産科婦人科	部長	36	
齋藤　伸治	小児科	部長	36	
安川　力	眼科	部長	23	
岩﨑　真一	耳鼻いんこう科	部長	29	
鳥山　和宏	形成外科	部長	32	
森田　明理	皮膚科	部長	32	
安井　孝周	泌尿器科	部長	27	
林　祐太郎	小児泌尿器科	部長	36	
明智　龍男	精神科	部長	30	
樋渡　昭雄	放射線科	部長	24	
祖父江　和哉	麻酔科	部長	28	
間瀬　光人	脳神経外科	部長	36	
渋谷　恭之	歯科口腔外科	部長	32	
植木　美乃	リハビリテーション科	部長	24	
稲垣　宏	病理診断部	部長	37	
服部　友紀	救急科	部長	27	
井上　貴子	臨床検査科	部長	23	

(注) 1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
(注) 2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
(注) 3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

①　　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
様式4-2別紙　参照
②　業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
様式4-2別紙　参照
③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
様式4-2別紙　参照

(注) 1　高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

様式4-2 別紙

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修	研修の名称	研修の主な内容 （名称から読み取れる場合は記載不要です）	研修の期間 （開催日）	実施回数 （合計）	参加人数	対象職種	担当部署
①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況	人工呼吸器セミナー（V60）	V60の取り扱い・実技演習	2021/6/8、9/28、	3	74	看護師	ME・看護部
	人工呼吸器セミナー（トリロジー）	トリロジーの取り扱い・実技演習	2021/5/11、6/22、7/13、8/20、9/14、10/12、11/11、12/14、2022/1/25、2/10、3/8	9	222	看護師	ME・看護部
	がん看護ベーシックコース	がん看護の基本的知識の習得	2021/9/25、10/9	2	22	看護師	看護部
	がん看護アドバンスコース（緩和）	個別的ながん看護の実践	2021/11/6	1	13	看護師	看護部
	がん看護アドバンスフォローアップ	緩和ケア看護能力の確立	2021/12/13	1	6	看護師	看護部
	中検勉強会（血液検査）	血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）	2021/5/20	1	44	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	中検勉強会（検体検査）	亜鉛測定の意義	2022/3/17	1	60	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	中検勉強会（輸血検査）	輸血検査の基礎	2022/2/17-3/7	1	28	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	中検勉強会（東大研修）	病理部門	2021/12/16	1	14	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	中検勉強会（微生物検査）	新型コロナウイルス検査法および院内検査運用について	2021/9/16	1	14	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	中検勉強会（病理検査）	LBC導入について（その2）	2021/7/15	1	16	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	中検勉強会（一般・採血室）	採血手技について	2021/6/17	1	25	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	中検勉強会（血液検査）	TTPについて	2021/5/20	1	44	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	中検勉強会（睡眠医療センター）	睡眠とは	2021/11/18	1	43	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	宿日直者研修	デングウイルス検査キット変更	2022/2/1-2022/2/4	1	41	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	CYBERDYNE社製HAL安全使用講習	ロボットリハビリ機器HALの安全使用講習	2022/3/25	1	12	理学療法士	リハビリテーション科・技術科
	GMFM（粗大運動能力尺度）評価方法の講習会	GMFM評価の手順、評価方法に関する講習	2021/9/1	1	10	理学療法士、作業療法士	リハビリテーション科・技術科
	GMFM（粗大運動能力尺度）評価方法の講習会	GMFM評価の手順、評価方法に関する講習	2021/7/28	1	9	理学療法士、作業療法士	リハビリテーション科・技術科
	DRS（患者の診療決定プロセス）評価方法の講習会	治療の選択に関する患者の意思決定についての講習	2021/8/6	1	12	理学療法士、作業療法士	リハビリテーション科・技術科
	COPM（カナダ作業遂行測定）評価方法の講習会	患者・家族が課題とする作業内容の遂行度と満足度の評価手法の講習	2021/7/30	1	12	理学療法士、作業療法士	リハビリテーション科・技術科
	看護師特定行為研修		2021/4/1～2022/3/31	研修期間を通して実施	7	看護師	医療人育成課臨床研修係
	高度管理医療機器研修会	高度管理医療機器である高エネルギーX線発生装置（リニアック・トモセラピー・Radixact）と密封小線源放射線治療装置（RALS）における装置の特徴・安全使用及び故障や緊急時の対応	2021/4/22、10/8	2	各47	放射線技師	放射線技術科

様式4-2 別紙

② 業務の管理に関する研修の実施状況	災害対策講演会	本部と指揮所での役割分担	2022/3/18-2022/3/31	1	66	臨床検査技師、医師、看護師など	病院
	消防訓練	初期消火マニュアルについて	2022/2/18-2022/3/23	1	66	臨床検査技師、医師、看護師など	病院
	個人情報保護研修会	当院における個人情報保護について	2022/1/4-2022/1/31	1	66	臨床検査技師、医師、看護師など	病院
	コンプライアンスハラスメント研修会	コンプライアンス違反のおこる原因など	2022/1/11-2022/1/28	1	76	臨床検査技師、医師、看護師など	病院
	ISO15189	品質マニュアル第16版について 管理手順変更について 品質記録管理手順書改定について	2021/4/14-2021/4/21 2021/12/10- 2021/12/17 2021/10/21		71 66 66	臨床検査技師、医師、看護師など	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	第1回リスクマネジメント勉強会 第2回リスクマネジメント勉強会	インシデント報告	2021/4/27-2021/5/28 2021/6/17-2021/6/29	2	73 68	臨床検査技師、医師、看護師など	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	バイオバンクについて	中央臨床検査部向け	2021/12/9- 2021/12/21	2	65 66	臨床検査技師、医師、看護師など	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	高度管理医療機器研修会	高度管理医療機器研修	2021/4/22	1	47	放射線技師	放射線技術科
	スキルアップのための勉強会	現在の救急病棟での業務について	2021/6/4	1	24	放射線技師	放射線技術科
	スキルアップのための勉強会	COVID-19患者へのカテ室でのECMO導入経験	2021/6/4	1	24	放射線技師	放射線技術科
	バイエル画像診断WEBカンファレンス	肝細胞癌診療におけるEOB-MRI読影のknack and pitfalls	2021/6/30	1	15	放射線技師	放射線技術科
	バイエル画像診断WEBカンファレンス	肝がん診療におけるEOB-MRIのインパクト	2021/6/30	1	15	放射線技師	放射線技術科
	スキルアップのための勉強会	GE Healthcare Japan 2021年JRC ITEM報告	2021/7/5	1	17	放射線技師	放射線技術科
	スキルアップのための勉強会	CT造影検査におけるアナフィラキシーショックについて	2021/8/19	1	10	放射線技師	放射線技術科
	スキルアップのための勉強会	CT造影検査におけるアナフィラキシーショックシミュレーション	2021/8/19	1	10	放射線技師	放射線技術科
	スキルアップのための勉強会	第49回秋季学術大会　予行会	2021/10/11	1	24	放射線技師	放射線技術科
	スキルアップのための勉強会	造影MRI検査のリスクマネージメント	2021/10/22	1	11	放射線技師	放射線技術科
	高度管理医療機器研修会	高度管理医療機器研修	2021/10/28	1	47	放射線技師	放射線技術科
	バイエル画像WEBカンファレンス		2021/10/28	1	11	放射線技師	放射線技術科
	第10回中央放射線部学術セミナー		2022/2/17	1	25	放射線技師	放射線技術科
	第11回中央放射線部学術セミナー		2022/2/17	1	10	放射線技師	放射線技術科

③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	第11回桜山リハビリテーション研究会	・脊椎疾患の外科手術とリハビリテーション ・ボトックス療法など	2021/9/4	1	47	医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	リハビリテーション科・技術科
	第12回桜山リハビリテーション研究会	・がん、心疾患など併存症を有する患者のロコモティブシンドローム ・神経変性疾患の超早期診断とバイオマーカ	2022/2/5	1	35	医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	リハビリテーション科・技術科
	学生臨床実習（鈴鹿医療科学大学　保健衛生学部　放射線技術科学科）	放射線技術全般	2021/4/26～7/16	1	2	学生	管理課、放射線技術科
	学生臨床実習（藤田保健衛生大学　医療科学部　放射線学科）	放射線技術全般	2021/12/6～ 2022/2/16	1	91	学生	管理課、放射線技術科
	学生臨床実習（岐阜医療科学大学　保健科学部　放射線技術学科）	放射線技術全般	2021/5/31～7/9	1	2	学生	管理課、放射線技術科
	学生臨床実習（岐阜医療科学大学　保健科学部　放射線技術学科）	放射線技術全般	2021/11/24～12/21	1	2	学生	管理課、放射線技術科
	学生臨床実習（東海医療技術専門学校診療放射線科）	放射線技術全般	①2021/6/1～8/31 ②2021/6/1～6/29	各1	①2 ②1	学生	管理課、放射線技術科

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1．計画　　2．現状
管理責任者氏名	病院長　　間瀬　光人
管理担当者氏名	管理課長　浅野　郁一

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	管理課	処方箋、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、入院診療計画書等は電子カルテ内で一元管理している。平成16年以前の電子カルテ導入前の記録については、処方箋を除き病歴センターで保管している。 診療録等を持ち出す際は、データの暗号化や外部記録媒体の管理の徹底を行うようしている。（「名古屋市立大学病院個人情報保護管理要領」等）
		各科診療日誌	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
		処方せん	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
		手術記録	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
		看護記録	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
		検査所見記録	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
		エックス線写真	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
		紹介状	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課、総務課	
		高度の医療の提供の実績	管理課、医事課、診療科等	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課、医学研究推進課、診療科等	
		高度の医療の研修の実績	管理課、医療人育成課	
		閲覧実績	管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課、地域医療連携室	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部、医療安全管理室	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部、医療安全管理室	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学室、医療安全管理室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学室、医療安全管理室	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理室	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	管理課、医事課	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室	
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課 医療安全管理室 地域医療連携室	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	監査室、医療安全管理室	
		職員研修の実施状況	総務課、管理課、医療人育成課、中央臨床検査部中央放射線部、薬剤部臨床工学室、医療安全管理室、感染制御室、臨床研究開発支援センター、看護部、医事課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	薬剤部 臨床工学室 医療安全管理室 医療人育成課	
		管理者が有する権限に関する状況	総務課、財務課、管理課、経営課、医療人育成課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課、監査室、管理課	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課、管理課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画･現状の別	1. 計画　**2. 現状**
閲覧責任者氏名	管理課長　浅野　郁一
閲覧担当者氏名	庶務係長　若尾　修一
閲覧の求めに応じる場所	管理課庶務係
閲覧の手続の概要 記録の閲覧に関する責任者、担当者及び閲覧の求めに応じる場所を定め、閲覧の求めに応じる場所の入り口に掲示している。閲覧の求めがあった際は、閲覧責任者の許可のもと、閲覧担当者にて諸記録の公開を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画･現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0　件
閲覧者別	医師	延　0　件
	歯科医師	延　0　件
	国	延　0　件
	地方公共団体	延　0　件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容：（別紙01を参照） 1. 医療機関における安全管理に関する基本的考え方 2. 安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項 3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 9. 医療安全推進のための外部からの監査・評価に関する基本方針	
②　医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・　設置の有無（　有・無　） ・　開催状況：年12回 ・　活動の主な内容：（別紙02を参照） (1) 医療事故の調査、分析及び再発防止策に関すること なお、特定機能病院である本院管理者が定める水準以上の事象（「医療事故発生時の対応」に定める＜報告すべき「医療事故」の定義＞に定める事象をいう。）が発生した場合の報告が適切に実施されているかを確認し、結果を本院管理者に報告する。報告が不十分な場合は報告が適切になされるよう研修・指導等を行う。 (2) 医療に係る安全管理のための職員研修及び広報に関すること (3) 医療事故等の公表に関すること (4) その他医療に係る安全管理に関すること	
③　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年10回
・　研修の内容（すべて）：（別紙03を参照） 新規採用者を対象に新規採用者研修会 中途採用者を対象に中途採用者研修会を年3回実施 医薬品管理研修会として麻薬講習会を年1回実施 全職員を対象に医療事故防止講演会及び倫理研修会を各年1回ずつ実施 重大事故事例の周知徹底を図る危機管理研修会を年1回実施 医師事務作業補助者を対象に医師事務作業補助者研修を年2回実施	
④　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医療機関内における事故報告等の整備　（　有・無　） ・その他の改善のための方策の主な内容： ・リスクマネージメントマニュアルの定期的な見直し（追録・修正） ・安全管理に関する自己点検評価報告書の策定・まとめ ・事故収集による分析（定量および定性分析）・対策・実施 ・リスクマネージメントニュースの発行 ・eラーニングの実施 ・院内医療安全巡視 ・医療安全全国共同行動参加にてワーキング活動 ・暴力対策の実施	

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①　院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1　院内感染対策に関する基本的考え方 2　院内感染対策のための組織に関する基本事項 3　院内感染対策のための従事者に対する講習に関する基本方針 4　感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5　感染発生時の対応に関する基本方針 6　院内感染防止に対する基本方針 7　患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8　本指針の周知ならびに見直し及び改訂	
②　院内感染対策のための委員会の開催状況	年　12　回
・　活動の主な内容： 感染対策委員会は、院内における感染症の感染予防対策に関する次の事項について審議し、方針を決定する。 1　感染防止対策マニュアルの策定及び変更 2　全職員を対象とした感染防止教育と啓発 3　各職種、各部門の予防対策に関し、必要と思われる事項 4　職業感染予防の策定 5　院内感染発生時の改善策について病院職員への周知 6　その他院内感染に関する重要事項	
③　従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年　15　回
・　研修の内容（すべて）： 1　院内感染対策講演会 第1回　6月21日～7月26日　eラーニング 「潜在性結核感染症とIGRA検査」「薬剤耐性（AMR）対策と当院の抗菌薬使用量の推移について」 「当院におけるCOVID-19診療の概要」 第2回　11月29日　講演（12月1日～12月28日eラーニング）「病院機能評価における感染制御」 2　抗菌薬適正使用支援講演会 2月14日～3月18日　eラーニング 「適切な感染症の診断Diagnostic Stewardship」「事例から学ぶDiagnostic Stewardship」 3　新規採用者研修 4月2日　講義「医療施設での感染症対策」「感染対策における微生物検査」「抗菌薬適正使用」 「院内感染予防策」「針刺し・血液曝露防止」「職員の健康管理」 個人防護具着脱演習 4　中途採用者研修 7月19日、10月12日、1月9日　講義「医療施設での感染症対策」「感染管理」 個人防護具の着脱・手洗い演習 5　その他 医師事務補助者研修　7月14日、2月4日 6　NCU Infection Seminar 第66回　5月12日　「COVID-19時代の高齢者肺炎の診断・治療・感染予防」 第67回　7月14日　「CDIサーベイランスデータを「読む」-CDI診断に重要な検査、結果の活かし方について-」 第68回　9月8日　「MRSA治療における新たな展開」 第69回　11月10日　「インフルエンザ感染症の診断と治療-COVID-19への対応を含めて」 第70回　1月12日　「whih～afterコロナ時代の感染対策を考える」 第71回　3月9日　「重症化させないための最大限の戦略-COVID-19治療の現在地とこれから-」	

④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況
・　病院における発生状況の報告等の整備　　（ 有・無 ） ・　その他の改善のための方策の主な内容： ・感染制御室を中心とした感染対策チーム（ICT）に、微生物検出状況、現場での感染症状を呈する患者の状況が報告される。ICTは横断的活動の権限をもって、状況確認、情報収集、対策の検討をし、現場へ適切な指導・助言をしている。 ・微生物カンファレンスや抗菌薬適正使用支援チーム（AST）により院内の分離菌発生と薬剤感受性の把握をし、耐性菌等に対する診療支援や感染対策の分析・検討をしている。2021年度の微生物カンファレンスは139件、血液培養カンファレンスは1366件行った。 ・ASTは、抗菌薬の使用動向を監視し適正使用に向けた診療支援を行っており、2021年度は3592件のモニタリングを行った。 ・ICTにより現場の環境ラウンドを実施（部署別ラウンド50部署、目的別ラウンド275部署）し、感染対策上の問題の早期改善に努めている。 ・感染対策や感染症診療・抗菌薬使用に関するコンサルテーションについて、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師が対応し、診療支援や部署の感染対策の改善につなげている。2021年度は1905件に対応した。

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
②　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回

・　研修の主な内容：
新人看護師向け薬剤研修会（2回）
① 令和3年4月12日（月）　9時00分～　10時00分（さくら講堂）
② 令和3年4月13日（火）　9時00分～　10時00分（さくら講堂）
内容：管理が必要な医薬品・与薬時の注意点・薬剤師による情報提供など

医薬品安全管理講習会（1回）
令和3年6月28日（月）　e-ラーニングにて実施
内容：「麻薬の取り扱いについて」麻薬管理担当薬剤師

③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

・　手順書の作成　（　有・無　）
・　手順書の内訳に基づく業務の主な内容：

＜医薬品の安全管理の業務内容＞

〔1〕 医薬品安全管理責任者（薬剤部長）
医薬品安全管理責任者は、医薬品の安全使用のための研修の実施、医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び手順書に基づく業務の実施、医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集を行い医薬品に関わる安全確保に努める。

〔2〕医薬品安全管理実施担当者（医薬品情報係長）
医薬品安全管理実施担当者は、医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知の状況の確認、未承認等の医薬品の使用に対し、当該未承認等の医薬品の使用の状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果共有を行う

〔3〕医薬品担当者（各部門の医師、看護師、薬剤師）
医薬品担当者は、医薬品安全管理のための業務手順書に基づいて業務が確実に実施されていることを把握し、適切に行われていない場合には改善、指導を行う。

＜医薬品の安全管理の項目＞
１．薬剤部の業務
薬剤部の業務については『薬剤部業務マニュアル』に従う。

２．医薬品の採用
医薬品の採用については『薬事委員会規約』及び『名古屋市立大学病院薬事委員会運営申し合わせ事項』に従う。

３．医薬品の管理
薬剤部における医薬品の管理については『薬品管理業務マニュアル』、『調剤内規』、『調剤薬補充・管理マニュアル』に従う。
病棟・外来における医薬品の管理については『各部門の薬品担当者による医薬品適正使用状況の管理について』および『定数配置薬（内服薬・外用薬）取扱いマニュアル』に従う。
毒薬、向精神薬（第2種）、麻薬についてはそれぞれ『毒薬管理手順書』、『第2種向精神薬・毒薬(筋弛緩薬)管理マニュアル』、『麻薬施用取扱要領』に従う。

４．病棟・各部門への医薬品の供給
　病棟・部門への医薬品の供給については『薬品管理業務マニュアル』、『各部門の薬品担当者による医薬品適正使用状況の管理について』に従う。

５．外来患者への医薬品の供給
　外来患者への医薬品の供給については『調剤内規』および『薬剤投与前・中・後の観察マニュアル』に従う。

６．入院患者への医薬品の供給
　医薬品の患者への投与については『与薬に関するマニュアル』および『薬剤投与前・中・後の観察マニュアル』に従う。

７．入院患者への医薬品の情報提供
　入院患者への医薬品の情報提供については『病棟業務マニュアル』に従う。

８．医薬品情報の収集・管理・提供
　医薬品情報の収集・管理・提供については『医薬品情報管理マニュアル』に従う。

９．他の医療機関・調剤薬局との連携
　他の医療機関・調剤薬局との連携については『院外薬局から送られた後発医薬品変更FAXの管理（新病院総合マニュアル　第19章　地域医療連携センター）』・『病棟業務マニュアル』・『薬薬連携のための地域の薬剤師会との検討会について』に従う。

１０．抗がん剤の管理・調製・情報提供
　抗がん剤の管理・調製については、『抗がん剤調製マニュアル』・『抗がん剤レジメン確認マニュアル』・『薬剤部調製の抗悪性腫瘍剤における入院化療監査マニュアル』・『PHS当番業務・一覧表作成マニュアル』に従う。
　患者（家族）への情報提供については、『外来化学療法室ラウンド担当者の業務マニュアル』に従う。

１１．感染対策
　感染対策については、『抗菌薬・抗真菌薬適正使用ガイドライン』に従う。

１２．中心静脈栄養（TPN）調製
　中心静脈栄養（TPN）調製については、『高カロリー輸液（TPN）調製内規』に従う。

１３．入院時の持参薬
　入院時の持参薬については、『持参薬確認・報告マニュアル』および『入院支援・業務内容（新病院総合マニュアル　第19章　地域医療連携センター）』に従う。

１４．危険薬
　危険薬については、『ハイリスク薬取り扱いマニュアル』に従う。

１５．処方せんの記載方法
　処方せんの記載方法については、システム操作マニュアル 第6章 オーダリングツールの『6.1 処方オーダ』および『6.7 注射オーダ』に従う。

④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・　医薬品に係る情報の収集の整備　　（ 有・無 ）

1.　未承認薬
　PMDAメディナビに登録しリアルタイムな情報収集を行っている。また製薬メーカーからの情報収集や書籍・医療情報データベース（PubMed・Micromedex ®）も活用している。
　周知については、情報誌や病院ニュース等による情報提供を行っている。また、特に重要な情報については病棟担当薬剤師による個別情報提供を行う。

2.　適応外使用薬
　PMDAメディナビに登録しリアルタイムな情報収集を行っている。また製薬メーカーからの情報収集や書籍・医療情報データベース（PubMed・Micromedex ®）も活用している。

周知については、情報誌や病院ニュース等による情報提供を行っている。また、特に重要な情報については病棟担当薬剤師による個別情報提供を行う。

3. 禁忌薬

PMDAメディナビに登録しリアルタイムな情報収集を行っている。また製薬メーカーからの情報収集や書籍・医療情報データベース（PubMed・Micromedex ®）も活用している。

周知については、情報誌や病院ニュース等による情報提供を行っている。また、特に重要な情報については病棟担当薬剤師による個別情報提供を行う。

4. その他の情報（添付文書の情報、関係機関等からの情報）の収集

医薬品情報管理係が製薬メーカー担当者等から添付文書改訂情報を入手する。新薬等の場合は詳細情報収集のため当該製薬メーカーからヒアリングを実施したり、PMDAメディナビ・医療情報データベース（MICROMEDEX）等を用いて情報収集を行う。

また、医薬品医療機器総合機構HPの添付文書情報を定期的にダウンロードして電子カルテシステム上で提供している。

・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：

ブロー氏液（院内製剤）　難治性中耳炎の治療(耳漏停止)目的

・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 医薬品適正使用のための注意喚起

薬事委員会において、本院で発生した有害事象についての報告および再発防止対策の周知を適宜実施している。令和3年度は7薬品につき9件の有害事象報告があり、うち2件をPMDAに報告した。

2. 免疫チェックポイント阻害薬の副作用マネジメント

免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象（irAE）の早期発見を目的として、化学療法部を中心に投与時の必須モニタリング項目を定め、確認の徹底を図っている。

3. 内服抗がん剤使用患者に対する薬剤師外来

平成27年9月より、内服抗がん剤使用開始患者を対象とした薬剤師外来を開始した。対象は「外来にて開始する内服抗がん剤処方（院内、院外処方ともに）」とし、医師からの依頼を受け薬剤師が面談を行う形式とした。令和3年度の実施件数は367件（注射抗がん剤指導が276件、内服抗がん剤件数が91件）であった。

4. 連携充実加算

令和2年11月より、連携充実加算の算定を開始した。医師の指示に基づき薬剤師が副作用モニタリング及び服薬指導を実施し、その内容を電子カルテの文書テンプレートにて情報共有用紙に記載した後、患者にかかりつけ薬局への提出をお願いしている。薬局からの返信についてはFAXを電子カルテに取り込むことで共有している。令和3年度の実施件数は427件であった。

5. 患者サポートセンターでの持参薬確認

これから入院される方への案内と入院当日の受付、入院時の持参薬確認を集約して一か所で行う「患者サポートセンター」を設置し、持参薬管理を目的とした薬剤師による面談を全入院予定患者で実施している。薬剤師による面談は入院時だけでなく、入院決定日にお薬手帳などの情報をもとに術前中止薬を把握することを目的とする「入院前の服用薬確認」も実施されており、これらの運用により持参薬の服用状況および術前休止薬の確認が実施されるため、院内全体での持参薬に関する情報の共有・安全管理が可能となった。令和3年度の服用薬確認件数は、入院時の服用薬確認が8015件、入院前の服用薬確認が5700件であった。

6. 薬薬連携の取り組み

薬薬連携のための地域の薬剤師会の薬剤師との検討会を定期的に実施して、疑義照会事例・新規採用薬情報・がん地域連携などについて意見交換を行っている。

2021年6月14日（月）　第1回薬薬連携協議会（ZOOM会議）
2021年9月13日（月）　第2回薬薬連携協議会（ZOOM会議）
2021年12月13日（月）　第3回薬薬連携協議会（ZOOM会議）
2022年3月14日（月）　第4回薬薬連携協議会

なお、例年実施してきた地域保険薬局薬剤師を対象とした吸入指導講習会は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。

7．部門ごとの医薬品管理者の選定

部門ごとに医師・看護師・薬剤師の３者の医薬品担当者を選定し、医薬品適正管理（定数医薬品の見直しを含む）を実施している。薬剤師の医薬品担当者からは、毎月発行の「医薬品情報誌」を用いた医師、看護師への情報提供も行っている。部門における医薬品管理の問題点の収集と情報共有を目的として、医薬品担当者（医師・看護師・薬剤師）による３者ミーティングも実施している。３者ミーティングの記録内容については定期的に医薬品安全管理責任者が内容を把握している。

8．抗がん剤自動調製ロボットの導入

2021年1月に抗がん剤自動調製ロボットを従来のサイトケアからケモロに切り替えた。これにより入院患者の処方を投与前日にケモロへ装填し、当日の日勤業務開始前に調製を完了させることが可能となり、ミスのない抗がん剤調製と業務の効率化を両立することができた。

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年259回
・　研修の主な内容： ・人工心肺装置、人工呼吸器、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置等の特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する職員に対する取扱研修 ・新規採用職員に対するシリンジポンプ、輸液ポンプ等の医療機器の取扱研修及び医療機器安全管理研修、職員に対する随時医療機器研修。	
③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・　医療機器に係る計画の策定　（　有・無　） ・　機器ごとの保守点検の主な内容： ・人工呼吸器、閉鎖式保育器等のMEセンター中央管理機器については、使用後MEセンターに返却の都度、もしくは一定の点検周期毎に、保守点検を実施している。 ・診療用高エネルギー放射線発生装置などの医療機器については、業者による定期点検を実施している。	
④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機器に係る情報の収集の整備　（　有・無　） ・　未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし ・　その他の改善のための方策の主な内容： ・医療機器に係る院内のインシデント情報、メーカーからの安全性情報、医薬品医療機器総合機構から発進される情報等については、医療安全管理室へ一元的に集約され、同室及び臨床工学室が中心となり各部署への情報発信及び対策を実施している。 ・医療機器の安全使用の観点から、中央管理する機器については、標準化を図っている。 ・医療機器の使用に係る医療事故の発生を防ぐことを目的として作成した医療機器使用マニュアルの適宜見直しを行った。	

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無

・責任者の資格（医師・歯科医師）
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況

医療安全管理責任者は、医療安全管理委員会委員長として委員会を運営し、病院全体の安全管理体制の確保の徹底を図るとともに、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務を統括し、安全管理に関する病院全体の責務を担う。

② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 8名）・無

③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況

1. 院内の医薬品使用状況の確認
- 医療安全管理室にて院内での医薬品使用状況についての疑問点を把握した場合、医療安全管理室の薬剤師（主査）から医薬品安全管理実施担当者（医薬品情報係長）に報告される。
- 医薬品の発注・購入を担当している薬務係長は医薬品の購入状況を精査し、通常と異なる使用状況等の有無について月１回程度確認し、疑問点がある場合は医薬品安全管理実施担当者に連絡する。
- 調剤を担当する薬剤師が調剤時に通常とは異なる使用状況等の疑問を持った場合、医薬品安全管理実施担当者に情報を伝える。
- 医薬品担当者（各部門の医師、看護師、薬剤師）は、各部門での医薬品の使用状況に係る情報収集を行い、適宜医薬品安全管理実施担当者へ伝達を行う

2. 各種情報の整理
- 1.で収集された情報に対して、医薬品安全管理実施担当者は報告者および医薬品担当者と協力して使用状況の詳細な把握を行う。
- また、医薬品安全管理実施担当者は、緊急安全性情報・安全性速報などの安全性情報の内容を確認し、必要に応じて院内の医薬品の使用状況を把握する。

3. 医薬品安全管理責任者への報告
- 医薬品安全管理実施担当者は必要に応じて、把握した医薬品の使用状況情報について医薬品安全管理責任者（薬剤部長）に報告を行う。
- 医薬品安全管理責任者はその報告をもとに、院内への情報周知・運用上の提案・オーダ時の制御などの対策を検討し実施する。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

1. 処方した医薬品が未承認等に該当するか否かの把握
- 医薬品担当者は、各部門での未承認等の医薬品の使用に係る情報収集を行い、適宜医薬品安全管理実施担当者へ伝達を行う。
- 調剤を担当する薬剤師が、調剤時に適応外使用等の疑問を持った場合、該当部門の医薬品担当者や医薬品安全管理実施担当者に情報を伝える。
- 診療報酬審査委員会での査定情報については、病棟主査および医薬品担当者が把握し、必要に応じて医薬品安全管理実施担当者に情報を伝える。

2. リスク検討の有無、処方の妥当性等の確認
- 医薬品安全管理実施担当者は必要に応じて、1.で収集された医薬品の使用状況情報について医薬品安全管理責任者（薬剤部長）に報告を行う。その際、国内承認の有無、投与経路、診療ガ

イドラインへの記載の有無、文献報告のエビデンスレベルなどをもとに妥当性が検討される。

3. 処方した医師等に対し処方変更等の提案、医薬品安全管理者への報告

➢ 医薬品安全管理責任者は検討の内容をもとに、医師に対する確認（代替治療の有無・臨床倫理委員会への申請等）を行う。また、院内への情報周知・運用上の提案・オーダ時の制御などの対策を実施する。

・担当者の指名の有無（有・無）
・担当者の所属・職種：
（所属：薬剤部医薬品情報係長，職種　薬剤師）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　（ 有・無 ）

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：セーフティーマネージャーで構成された医療安全全国行動ワーキンググループにおいて、診療録の確認を行う、またインシデントが発生した際、同意書及び診療録にて遵守状況を確認し、該当部門へ個別に指導している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

診療情報管理委員にてカルテの質的監査を実施している。監査は、「診療記録記載要綱」に基づき、診療記録の記載がされているか確認を行っている。監査結果は、診療情報管理委員会において検討を行い、必要に応じて、委員長及び診療情報管理士より診療科へ指導を行う。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無

・所属職員：専従（7）名、専任（2）名、兼任（5）名

うち医師：専従（1）名、専任（　）名、兼任（5）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（　）名、兼任（　）名

うち看護師：専従（3）名、専任（　）名、兼任（　）名

（注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

（1）医療安全管理委員会、セーフティーマネージャー会議等で用いられる資料及び議事録の作成、保存、その他安全管理委員会の庶務に関すること。

（２）事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
（３）患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
（４）事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。
（５）医療安全に係る連絡調整に関すること。
（６）その他医療安全対策の推進に関すること。

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3 件）、及び許可件数（3 件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（　有・無　）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　有・無　）

・活動の主な内容：
　・診療科の長から申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、申請案件の適否等について審査をおこなう。
　・審査により高難度新規医療技術の提供の適否について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を通知し、病院長へ報告する。
　・高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。
　・高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　有・無　）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（　有・無　）

⑧　未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（38 件）、及び許可件数（33 件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（　有・無　）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　有・無　）

・活動の主な内容：
　・診療科の長から申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、申請案件

の適否等について審査を行う。
・審査により未承認新規医薬品等の提供の適否について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を通知し、病院長へ報告する。
・未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。
・未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 （ 有・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 287 件
・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 122 件
・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
(1) 医療事故の調査、分析及び再発防止策に関すること
なお、特定機能病院である本院管理者が定める水準以上の事象（「医療事故発生時の対応」に定める＜報告すべき「医療事故」の定義＞に定める事象をいう。）が発生した場合の報告が適切に実施されているかを確認し、結果を本院管理者に報告する。報告が不十分な場合は報告が適切になされるよう研修・指導等を行う。
(2) 医療に係る安全管理のための職員研修及び広報に関すること
(3) 医療事故等の公表に関すること

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（ 有（病院名：福井大学）・無）
・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有（病院名：信州大学）・無）
・技術的助言の実施状況
新型コロナウイルス感染症の影響により、立入審査は中止となり、書面のみの審査を実施。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況
病院内に、医療安全管理室長を室長として「患者相談室」を設置し、医療内容についての心配や不安等の相談を相談員（看護師や社会福祉士）が受けている。

⑫　職員研修の実施状況
・研修の実施状況（別紙 03 を参照） 新規採用者を対象に新規採用者研修会（R3.4.1～2）、中途採用者を対象に中途採用者研修会を年３回（R3.7.30、R3.11.24、R4.2.16）実施 医薬品管理研修会として麻薬講習会を年１回（R3.6.28～7.30）実施 全職員を対象とした外部講師による講演の医療事故防止講演会（R3.7.28～8.30）及び倫理研修会（R3.11.26～12.24）を各年１回ずつ、重大事故事例の周知徹底を図る危機管理研修会を年１回（R4.3.11～3.31）実施 医師事務作業補助者就業前の職員を対象に医師事務作業補助者研修を年２回（R3.7.16、R4.2.10）実施

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬　管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 管理者 ・令和４年２月２日　2021 年度特定機能病院管理者研修 （主催：公益財団法人日本医療機能評価機構） 医療安全管理責任者 ・令和３年 12 月 23 日　2021 年度特定機能病院管理者研修 （主催：公益財団法人日本医療機能評価機構） 医薬品安全管理責任者 ・令和４年１月 19 日　2021 年度特定機能病院管理者研修 （主催：公益財団法人日本医療機能評価機構） 医療機器安全管理責任者 ・令和４年１月 19 日　2021 年度特定機能病院管理者研修 （主催：公益財団法人日本医療機能評価機構）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況
・第三者による評価の受審状況 ・公益財団法人日本医療機能評価機構病院機能評価の認定「機能種別　一般病院３」３rdG:Ver.2.0 平成 30 年 12 月７日付け認定。 ・一般財団法人日本医療教育財団　外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP） 令和３年１月 25 日付け認定

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

名古屋市立大学病院 HP にて公表。

・評価を踏まえ講じた措置

1. 画像診断報告書等の確認不足への対策

・ 放射線画像診断報告書作成時に「重要」と判断されたものは、アラート一覧画面では黄色の帯状で先頭行に表示。「重要」とする画像診断報告書は、患者にとって重要かつ検査目的以外の（主治医・担当医が予期しない）所見とする。

・ 黄色の帯状の画像診断報告書を選択し、「読影レポート参照ボタン」をクリックすると、レポート参照画面が表示される。

・ 重要な所見は赤字で表記。

・ 放射線画像レポートの閲覧状態が確認できる「画像診断レポート閲覧医サイン機能」を追加。

・ 重要所見の見落としを防ぐために、重要所見が赤字で反映されないカルテ記事及びレポートの一覧画面において、レポート内容は表示させず、レポートの本画面を開き確認するようシステムを改善し、周知を行った。

2. 病棟における呼吸器の点検・チェックについて、臨床工学技士の関与の徹底、中央管理すべき医療機器の適用拡大

・ 病棟における呼吸器の使用中点検部署の拡大。

・ 10 万円以上で備品シールを添付し納品された医療機器を ME センターで ID シールを添付し、中央管理できるシステムを構築。

3. 同意書の統一化された書式運用、現場の実態に即した立ち会いの在り方や、患者の反応に関する記録の充実

・ 統一的な同意書の利用を推進するため、同意書様式の確認を行い、統一様式を使用していない診療科において、同意書監査を実施し統一様式への変更を行った。

・ インフォームドコンセント（患者等への重要事項説明時）の立ち会い基準を平成 30 年 6 月に制定。

・ ＩＣの立ち会いについて、現状と課題をセーフティーマネージャーが参加する、医療安全共同行動グループで確認し、説明記録等の監査を行った。

4．「高難度新規医療技術の導入」および「未承認新規医薬品等の使用」の担当する部門ならびに委員会等の組織構成

・ 高難度新規医療技術評価部門長を医療機器安全管理責任者へ、医薬品・医療機器適応外使用等評価部門長を医薬品安全管理責任者へ改め、部門構成を改める。

・ 部門長が、高難度新規医療技術の提供の適否等及び使用条件、未承認新規医薬品等の使用について委員会へ意見を求める運用へ改める。

・ 高難度新規医療技術評価委員会及び未承認新規医薬品等評価委員会の委員構成を改め、委員会での審議結果を部門長へ報告する。

・ 部門長は委員会の審議結果をもとに、適否結果を診療科の長へ通知し、病院長へ報告する運用へ改める。

5．サイトマーキングの院内統一ルール

手術・検査・治療のマーキング実施マニュアルを作成・実施

（注）記載時点の状況を記載すること

様式6-2　別紙01　指針

医療の質と安全における理念

１．安全の確保を医療行為における最大の使命とします。

２．安全で質の高い医療の提供を実現します。

３．患者さん中心の医療の提供を実現します。

１　医療に係る安全管理のための指針

名古屋市立大学病院（以下、「当院」という）における医療の質と安全を推進するため、本指針を定める。

１．当院における安全管理に関する基本的考え方

当院は、患者さんの生命を預かる病院として、安全で安心できる質の高い医療を提供する使命がある。特定機能病院として高度な医療の提供や教育を実施する中で、責任体制や役割分担を明確にし、病院全体で医療の質・安全の推進の徹底を図る。

すべての職員が、患者さんを中心とした安全管理を意識し、医療事故防止に取り組んでいく。より安全な医療の提供と患者満足度の向上を目指し、安全に対する意識を高めマニュアルを遵守した改善・改革を進めていくこと安全管理の基本方針とする。

２．安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項

当院の安全管理体制の確保及び推進のため、副病院長（医療の質・安全管理担当）を医療安全管理責任者として配置し、医療安全管理室、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務を統括する。

医療の安全性の確保と適切な医療を提供するとともに、病院機能の向上と運営改善に資するために、医療安全管理室を設置し、医療安全を組織横断的に推進し、適切かつ効率的に事故防止を図り、安全管理を行うものとし、室長（専従の医師）を安全推進指導者とする。

当院全体の医療の質・安全の推進について検討・審議を行う医療安全管理委員会、医療安全管理責任者から任命された各部門の安全推進者（セーフティーマネージャー）を中心に活動する周知徹底機関としてセーフティ

ーマネージャー会議を設置し病院全体で継続的に取り組んでいくものとする。それらの組織、運用についてはそれぞれ別に規程を設ける。

３．医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針

１）医療安全管理委員会は、予め作成した研修計画に従い１年に２回程度の全職員を対象とした医療の質・安全を推進するための研修を定期的に実施する。

２）研修は、医療安全の基本的な考え方、事故防止の具体的な手法等を全職員に周知徹底することを通じて、職員個々の医療安全意識の向上を図るとともに、当院全体の医療安全を向上させることを目的とする。

３）職員は、実施される研修を受講しなければならない。

４）病院長は、当院で重大医療事故が発生した場合や必要があると認めた場合は、臨時で、報告会を開催し全職員に対して情報を提供する。

５）医療の質・安全を推進するための研修の実施方法としては、外部講師を招聘しての講習会、院内での事例または医療安全取り組み報告会、医薬品安全管理・医療機器安全管理に関する研修会等実施する。

４．医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針

１）医療安全管理の推進に必要な事項を定めた、「リスクマネージメントマニュアル」を作成し、医療事故防止対策に活用する。

２）インシデントの報告は、リスクマネージメントマニュアルに基づき医療事故等へ結びつく可能性のある事例を院内から広く集約し、その要因を分析することにより、医療事故等の防止を図るとともに、リスクマネージメントに対する病院全体の意識の高揚を図るものとする。

３）報告された事例は、医療安全管理室でとりまとめ、医療安全管理委員会で事例の把握ならびに原因分析に基づいた防止対策・改善策について審議し、セーフティーマネージャー会議やＲＭニュースを通じて院内に再発防止策を周知徹底する。

４）インシデントレポートは、報告により当事者が不利益を受けないことを担保するために、原則非公開とする。

５．医療事故等発生時の対応に関する基本方針

１）医療事故等が発生した場合は、当院の総力を結集して、患者の救命と被害の拡大防止に全力を尽くす。また、当院内のみでの対応が不可能と判断された場合には、遅滞なく公的機関の助言を求めるものとする。

２）患者・家族への説明は、事故発生後、救命措置の遂行に支障を来たさない限り可及的速やかに、事故の状況、現在実施している回復措置、そ

の見通し等について各担当医・部門長等が誠意をもって正確に説明する。

３）重大医療事故が発生した場合には、発生した事故情報の把握、原因究明、対応策及び再発防止策の検討を速やかに図るため、「重大医療事故報告制度の流れ」に基づき対応する。

４）対応した職員は、その事実および説明内容を診療録に記録する。

６．医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針

医療の質・安全を推進するための理念をホームページに掲げるとともに、「名古屋市立大学病院医療事故等公表基準」に基づき医療事故等を公表することにより、より透明な、より安全な医療システムを確立し、尊い生命を預かる病院として信頼できる質の高い医療を提供する。

７．患者からの相談への対応に関する基本方針

１）患者及びその家族から医療に関する相談に対して適切な対応及び情報提供等の支援を行うために、患者相談室を設置する。誠実に対応するとともに相談により患者等が不利益を被らないこと及び患者等の情報の保護のために適切な配慮を講じるものとする。

２）医療安全に関わる苦情や相談については、医療安全管理委員会やセーフティーマネージャー会議等に詳細に報告し当院の医療安全対策の見直し等に活用する。

８．その他医療安全の推進のために必要な基本方針

１）医療安全をより推進させるために、「リスクマネージメントマニュアル」は定期的（年１回）及び随時改訂し、その内容を病院全職員へ周知・徹底する。また、医療安全確保体制の見直しを行うとともに、他機関からの情報収集に努め医療安全の改善・推進を図る。

２）高難度新規医療技術等を用いた医療を提供する場合には、関係法令等遵守し、関係学会による「高難度新規医療技術の導入に当たっての基本的な考え方」やガイドライン等を参考に実施する。

３）未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合には、法令に基づいた部門で評価及び管理を行う。

９．医療安全推進のための外部からの監査・評価に関する基本方針

１）医療法に基づき外部委員による医療安全に関する監査を年２回、特定機能病院間での医療安全活動に関するピアレビューを年１回実施する。

２）医療法に基づき医療機関内における事故の発生防止に係る第三者評価を受け、評価及び改善すべき内容を公表し、当該評価を踏まえて必要な対策を行うものとする。

10．本指針の周知ならびに見直し及び改訂

１）本指針の内容は、医療安全管理委員会を通じて、全職員に周知徹底する。

２）医療安全管理委員会は、少なくとも毎年１回以上、本指針の見直しを議事として取り上げ検討するものとする。

附　則

本指針は、平成 19 年 12 月 1 日から施行する。

附　則

本指針は、平成 23 年 4 月 14 日から施行する。

附　則

本指針は、平成 26 年 5 月 20 日から施行する。

附　則

本指針は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

本指針は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

本指針は、平成 28 年 7 月 19 日から施行する。

附　則

本指針は、平成 29 年 11 月 21 日から施行する。

附　則

本指針は、平成 30 年 2 月 20 日から施行する。

附　則

本指針は、令和 2 年 2 月 18 日から施行する。

附　則

本指針は、令和 3 年 5 月 18 日から施行し、4 月 1 日から適用する。

１０　医療安全管理委員会設置規程

2016.9.30 制定
2022.4.1 改訂

１　設　置

名古屋市立大学病院（以下「本院」という。）に、本院内で医療に係る安全管理を目的として、名古屋市立大学病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　組　織

(1) 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって構成する。
(2) 委員長は、医療安全管理責任者である副病院長（医療の質・安全管理担当）とし、副委員長は、医療安全管理室長とする。
(3) 委員は、次の各号に掲げる者とする。

ア　病院長
イ　医薬品安全管理責任者
ウ　医療機器安全管理責任者
エ　医療放射線安全管理責任者
オ　病院部長会で選出された部長２名（内科系１名、外科系１名）
カ　病院長が指定する診療科（内科、外科においては医学部の分野単位とする。）及び中央部門から選出された教員３名（内科系１名、外科系１名、中央部門１名）
キ　感染制御室長
ク　看護部長
ケ　病院管理部長
コ　医事課長（国際医療連携部所管事務課長）
サ　医療安全管理室副室長
シ　外部有識者２名

３　審議事項

委員会は、次の事項を審議する。

(1) 医療事故の調査、分析及び再発防止策に関すること
　なお、特定機能病院である本院管理者が定める水準以上の事象（「医療事故発生時の対応」に定める＜報告すべき「医療事故」の定義＞に定める事象をいう。）が発生した場合の報告が適切に実施されているかを確認し、結果を本院管理者に報告する。報告が不十分な場合は報告が適切になされるよう研修・指導等を行う。
(2) 医療に係る安全管理のための職員研修及び広報に関すること
(3) 医療事故等の公表に関すること

(4) その他医療に係る安全管理に関すること

4　会　議

(1) 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

(2) 委員長に事故がある時は、副委員長がその職務を代行する。

(3) 委員会は、構成員の２分の１以上の出席がなければ開くことができない。委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決する。

(4) 病院長がやむを得ない事由で出席できないときは、院長代行を代理人として出席させ、議決に参加させることができる。

(5) 委員がやむを得ない事由で出席できないときは、あらかじめ委員長の承認を得た場合に限り、代理人を出席させることができる。なお、代理人を出席させることができる委員は委員長が別に定める。

(6) 委員長が必要と認めるときは、構成員以外の者に出席を求め意見を聴くことができる。

(7) 委員会は、月一回程度開催するとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催する。

5　庶　務

委員会の庶務は、医療安全管理室において行う。

6　その他

この規程に定めることのほか、医療に係る安全管理に関して必要な事項は、委員長が委員会に諮ったうえで定める。

附　則

1　この規程は、平成２８年９月３０日から施行する。

2　医療安全管理委員会設置要綱は廃止する。

附　則

1　この規程は、平成２９年５月１６日から施行し、４月１日から適用する。

附　則

1　この規程は、平成２９年１１月２１日から施行する。

附　則

1　この規程は、平成３１年４月１日から施行する。

附　則

1　この規程は、令和２年４月１日から施行する。

附　則

１　この規程は、令和２年７月１日から施行する。

附　則

１　この規程は、令和３年７月１日から施行する。

附　則

１　この規程は、令和４年４月５日から施行し、４月１日より適用する。

様式6-2　別紙03　研修会

令和3年度　安全管理の体制確保のための職員研修の実績

年月日	研修会名等	対象職員	参加者数	時間	内容
R3.4.1～ 4.2	新規採用者研修会	新規採用者研修	250名	－	・病院長訓示・講話　4/1 ・医療倫理について　4/1 ・医療安全管理について　4/1 ・災害対策について　ｅラーニング ・個人情報保護について　ｅラーニング ・医療機器の取り扱いについて　4/1 ・院内感染対策について　4/2 ・医薬品安全管理について　4/1 ・放射線安全管理について　4/1 ・利益相反マネジメントについて　4/1 ・保険診療と診療録の記載について　ｅラーニング ・組織概要・福利厚生紹介について　ｅラーニング ・経営・マネジメントについて　ｅラーニング
R3.6.28～ 7.30	医薬品安全管理 研修会 ※ｅラーニング開催	全職員	1299名	1時00分	・麻薬の取り扱いについて
R3.7.16	医師事務作業補助者研修	医師事務作業補助者就業前の職員	4名	1時00分	・医療事故防止の基本的な考え方 ・名古屋市立大学病院の医療安全対策と具体的な対応
R4.2.10			4名		
R3.7.28～ 8.30	第一回 医療事故防止講演会 ※ｅラーニング開催	全職員	1391名	－	・画像診断報告書の見落とし対策 他病院・当院の事例からの学びと当院の対策
R3.7.30	中途採用者研修会	全職員	35名	1時00分	・安全管理について（医療安全管理室） ・電子カルテ内の安全情報について（水野主幹） ・医療機器安全管理について（田島係長） ・医薬品安全管理について（朝岡主査）
R3.11.24			38名		
R4.2.16			24名		
R3.11.26～ 12.24	倫理研修会 ※ｅラーニング開催	全職員	1283名	－	・当院の倫理コンサルテーションの現状について
R4.3.11～ 3.31	第一回 危機管理研修会 ※ｅラーニング開催	全職員	1203名	－	・重大事例報告 ・医療安全全国共同行動ワーキング活動報告

Ⅰ．名古屋市立大学病院院内感染対策のための指針

1　院内感染対策に関する基本的考え方

患者とその家族、職員、委託職員、学生等院内すべての人々を院内感染から守るための効果的予防及び管理を実践する。

手指衛生をはじめとする標準予防策、あるいは必要に応じて感染経路別予防策を追加しての実践や、抗菌薬の適正使用を推進できるよう、従事者（病院での業務に従事する者）全員に指導・教育を徹底する。

また最新情報に基づき現行の感染対策を常に評価し改善していく。

2　院内感染対策のための組織に関する基本的事項

名古屋市立大学病院における感染を積極的に防止し、院内の衛生管理に万全を期するため、感染対策委員会を置く。【感染対策委員会規約】

3　院内感染対策のための従事者に対する講習に関する基本方針

（１）院内感染対策講習の開催

院内感染対策の意識向上を図るための講習と抗菌薬の適正な使用を目的とした講習を年に２回ずつ開催する。

（２）毎年４月に、新規採用教職員に対して院内感染対策に関する講習を実施する。

（３）本院への中途採用者に対して、適宜院内感染対策に関する講習を行う。

4　感染症の発生状況の報告に関する基本方針

感染制御室は、サーベイランスデータに基づいて感染症の発生状況を把握し、関連する所属及び感染対策委員長へ速やかに報告する。

5　感染発生時の対応に関する基本方針

感染制御室は、感染症発生原因の分析、改善策の立案、現場での適切な処置の指導及び監督を行う。また、緊急度に応じて感染対策委員長に相談し、対策を指示・実施する。従事者及び関連する所属は、指示に基づいて感染症発生（診断）時の対応マニュアルに従い迅速に対応する。

6　院内感染防止に対する基本方針

新興感染症流行時におけるクラスター発生防止と海外からの多剤耐性菌の持ち込み防止のために、スクリーニング検査等による監視を行う。

7　患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、本院ホームページと病院正面玄関の掲示板にて患者及び家族が閲覧できるようにする。

8　その他の院内感染対策の推進のための基本方針は必要に応じて病院長が別に定める。

9　本指針の周知ならびに見直し及び改訂

（1）　本指針の内容は、感染対策委員会を通じて、従事者に周知徹底する

（2）　感染対策委員会は少なくとも毎年１回以上、本指針の見直しを議事として取り上げ検討するものとする。

附　則

この指針は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この指針は、平成 19 年 11 月 6 日から施行する。

附　則

この指針は、平成 20 年 10 月 23 日から施行する。

附　則

この指針は、平成 23 年　5 月 17 日から施行する。

附　則

この指針は、平成 27 年 6 月 16 日から施行し、4 月 1 日から適用する。

附　則

この指針は、平成 29 年 5 月 16 日から施行し、4 月 1 日から適用する。

附　則

この指針は、平成 30 年 5 月 15 日から施行し、4 月 1 日から適用する。

附　則

この指針は、令和元年 5 月 21 日から施行し、4 月 1 日から適用する。

附　則

この指針は、令和 3 年 7 月 6 日から施行し、4 月 1 日から適用する。

附　則

この指針は、令和 4 年 5 月 17 日から施行し、4 月 1 日から適用する。

別紙05【医薬品に係る研修（参考）】

研修の名称	研修の主な内容 （名称から読み取れる場合は記載不要です）	研修の期間 （開催日）	実施回数 （合計）	参加人数	対象職種	担当部署
新規採用薬説明会		2021年4月15日	4回	23名	薬剤師	薬剤部
		2021年7月15日		25名		
		2021年10月14日		20名		
		2022年1月12日		24名		
名市大連携病院合同化学療法勉強会	がん専門医療者の育成を目的とした勉強会（ZOOM開催） テーマ：がん総論、抗がん剤曝露、漏出、アナフィラキシー／抗がん剤投与管理、副作用対策・薬薬連携／悪心・嘔吐、食事・栄養管理／妊孕性温存、がん遺伝子パネル検査／Advance Care Planning（ACP）	2021年9月15日	5回	126名	医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、医療事務など	名古屋市立大学大学院医学研究科
		2021年10月20日		133名		
		2021年11月17日		112名		
		2021年12月15日		101名		
		2022年1月19日		99名		

別紙06【医療機器に係る研修（参考）】

1　医療機器の安全使用のための研修の実施状況(2020 年4月～2021年3月)（特定機能病院）　2022/3/31

①　新しい医療機器の導入時の研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
（例）	2009/6/1 2009/6/3	人工呼吸器の取り扱い方	講義、講義映像の視聴	看護師	100	
1	2021/4/2	直腸周囲ハイドロゲルスペーサ　SpaceOAR	講義・実技	医師・研修医・診療放射線技師・看護師	45	放射線技術科
2	2021/4/2	超音波経直腸プローブ　(2CH)	講義・実技	医師・研修医・診療放射線技師・看護師	45	放射線技術科
3	2021/4/6	超音波診断装置　EPIQ Affinity	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学係
4	2021/4/9	手術用顕微鏡システム　オーブアイ	講義・実技	看護師・委託職員	41	中央手術部
5	2021/4/13	振動式末梢血管貫通用カテーテル　CROSSER	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工学係
6	2021/4/19	医療機器システム　マリス	講義・実技	委託職員	4	MEセンター
7	2021/4/20	Omni Wire プレッシャーガイドワイヤー	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学係
8	2021/6/24	単回使用吸入麻酔薬気化器　アナコンダ	講義・実技	医師	2	麻酔科
9	2021/6/28	単回使用吸入麻酔薬気化器　アナコンダ	講義・実技	看護師	11	ICUCCU
10	2021/6/28	単回使用吸入麻酔薬気化器　アナコンダ	講義・実技	看護師	11	ICUCCU
11	2021/7/1	単回使用吸入麻酔薬気化器　アナコンダ	講義・実技	看護師	10	ICUCCU
12	2021/7/2	単回使用吸入麻酔薬気化器　アナコンダ	講義・実技	看護師	5	ICUCCU
13	2021/7/26	Radixact　オプション胴体追尾機能　Synchrony	講義・実技	診療放射線技師	8	放射線技術科
14	2021/7/26	Radixact　オプションkV CT撮影機能　ClearRT	講義・実技	看護師・臨床工学技士	12	人工透析室
15	2021/8/19	シリンジポンプ　38型	講義・実技	看護師・臨床工学技士	12	人工透析室
16	2021/8/24	シリンジポンプ　38型	講義・実技	臨床工学技士・委託職員	6	人工透析室
17	2021/8/24	シリンジポンプ　38型	講義・実技	臨床工学技士	11	人工透析室
18	2021/8/31	サーモXチェンジャー	講義・実技	臨床工学技士	12	人工透析室
19	2021/8/31	サンフラワーウォーマ	講義・実技	臨床工学技士・委託職員	13	人工透析室
20	2021/8/31	シリンジポンプ　38型	講義・実技	臨床工学技士・委託職員	3	人工透析室
21	2021/9/6	サーモXチェンジャー	講義・実技	医師・看護師・研修医	13	NICU・GCU
22	2021/9/6	X線TV装置　VersiFlex VISTA	講義・実技	診療放射線技師	12	放射線技術科
23	2021/9/7	超音波画像診断装置　FC1	講義・実技	医師	2	腎臓内科
24	2021/9/8	サーモXチェンジャー	講義・実技	医師・看護師	7	NICU・GCU
25	2021/9/9	カフアシスト　排痰補助装置	講義・実技	看護師	9	NICU・GCU
26	2021/9/9	サーモXチェンジャー	講義・実技	看護師	12	NICU・GCU
27	2021/9/10	サーモXチェンジャー	講義・実技	医師・看護師	9	NICU・GCU
28	2021/9/14	非侵襲中耳加圧装置　ENT FIRST	講義・実技	臨床工学技士・委託職員	3	臨床工学係
29	2021/9/16	超音波画像診断装置　FC1	講義・実技	医師	3	腎臓内科
30	2021/10/5	エキシマレーザ　CVX-300-P	講義・実技	臨床工学技士	11	臨床工学係
31	2021/10/7	ARDSを対象としたNOA-001の取り扱い	講義・実技	臨床工学技士・CRC	10	臨床工学係
32	2021/10/8	エキシマレーザ　CVX-300-P	講義・実技	臨床工学技士	1	臨床工学係
33	2021/10/13	ARDSを対象としたNOA-001の取り扱い	講義・実技	臨床工学技士	3	臨床工学係
34	2021/10/19	超音波診断装置　FC1	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工学係
35	2021/10/21	超音波診断装置　FC1	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学係
36	2021/10/21	開放型保育器　サンフラワーウォーマ（新生児用）	講義・実技	看護師	13	ICUCCU
37	2021/10/22	ボストン　ペースメーカー　プログラマー3300	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工学係
38	2021/10/25	開放型保育器　サンフラワーウォーマ（新生児用）	講義・実技	看護師	11	ICUCCU
39	2021/10/26	開放型保育器　サンフラワーウォーマ（新生児用）	講義・実技	看護師	8	ICUCCU
40	2021/10/28	開放型保育器　サンフラワーウォーマ（新生児用）	講義・実技	看護師	11	ICUCCU
41	2021/11/25	超音波診断装置　Aplio i800	講義・実技	医師	10	肝膵内科・消化器内科

42	2021/11/25	Maris web Mobile	講義・実技	看護師	19	中央手術部
43	2021/11/26	Maris web Mobile	講義・実技	看護師	9	中央手術部
44	2021/11/29	Maris web Mobile	講義・実技	看護師	6	中央手術部
45	2021/11/30	酸素濃縮装置　グリーンボンベ	講義・実技	看護師	7	15階南病棟
46	2021/11/30	Maris web Mobile	講義・実技	看護師	9	中央手術部
47	2021/12/7	エキシマレーザ　CVX-300-P	講義・実技	臨床工学技士	5	臨床工学係
48	2021/12/8	エキシマレーザ　CVX-300-P	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学係
49	2021/12/10	心血管撮影装置　Azurion7 B12/12	講義・実技	診療放射線技師	12	放射線技術科
50	2021/12/27	心電計　ECG-3350	講義・実技	医師・研修医	6	呼吸器内科
51	2022/1/17	輸液ポンプ　28型	講義・実技	看護師	101	全部署
52	2022/1/18	輸液ポンプ　28型	講義・実技	看護師	102	全部署
53	2022/1/19	輸液ポンプ　28型	講義・実技	看護師	51	全部署
54	2022/1/20	輸液ポンプ　28型	講義・実技	看護師	112	全部署
55	2022/1/21	輸液ポンプ　28型	講義・実技	看護師	132	全部署
56	2022/1/25	ABL機器	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学係
57	2022/1/31	EIT　エンライト	講義・実技	医師・研修医・看護師・臨床工学技士	22	ICUCCU、麻酔科
58	2022/1/31	自動排煙装置　VIO IES3	講義・実技	看護師	13	中央手術部
59	2022/2/2	自動排煙装置　VIO IES3	講義・実技	看護師	7	中央手術部
60	2022/2/3	輸液ポンプ　28型	講義・実技	看護師	5	ICUCCU
61	2022/2/4	自動排煙装置　VIO IES3	講義・実技	看護師	8	中央手術部
62	2022/2/9	モバイルエアロモニタ　AE-100i	講義・実技	管理栄養士	6	栄養管理係
63	2022/2/10	EIT　エンライト	講義・実技	医師・看護師・理学療法士	12	ICUCCU、麻酔科、リハビリ
64	2022/2/28	輸液ポンプ　28型	講義・実技	医師・看護師	8	ICUCCU、麻酔科
65	2022/3/2	IVR-CT装置　Alphenix 4DCT	講義・実技	診療放射線技師	12	放射線技術科
66	2022/3/2	自動排煙装置　VIO IES3	講義・実技	看護師	18	中央手術部
67	2022/3/14	医用テレメータ　WEP-1450	講義・実技	看護師	4	9階南病棟
68	2022/3/14	医用テレメータ　WEP-1450	講義・実技	看護師	8	13階南病棟
69	2022/3/29	セントラルモニタ	講義・実技	看護師	7	17階南病棟
70	2022/3/29	セントラルモニタ	講義・実技	看護師	14	14階南病棟
71	2022/3/31	アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテル駆動装置	講義・実技	医師	3	循環器内科
72	2022/3/31	アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテル駆動装置	講義・実技	医師	5	臨床工学係

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
1	2021/4/1	ネーザルハイフローシステム　AIRVO2	講義・実技	看護師	12	関係部門
2	2021/4/1	人工呼吸器　PB980	講義・実技	看護師	12	関係部門
3	2021/4/1	人工呼吸器　ハミルトン　C6	講義・実技	看護師	12	関係部門
4	2021/4/5	ネーザルハイフローシステム　AIRVO2	講義・実技	医師	2	麻酔科
5	2021/4/6	人工呼吸器　V60	講義・実技	医師	34	関係部門
6	2021/4/6	人工呼吸器　ケアベント	講義・実技	医師	34	関係部門
7	2021/4/7	人工呼吸器　プレシジョンフロー	講義・実技	看護師	6	NICUGCU
8	2021/4/7	ネーザルハイフローシステム　AIRVO2	講義・実技	臨床工学技士	4	臨床工学室
9	2021/4/9	ネーザルハイフローシステム　AIRVO2	講義・実技	看護師	17	14階南病棟・15階南病棟
10	2021/4/12	ネーザルハイフローシステム　AIRVO2	講義・実技	看護師	12	ICUCCU
11	2021/4/13	ネーザルハイフローシステム　AIRVO2	講義・実技	看護師	11	14階南病棟・15階南病棟
12	2021/4/14	ネーザルハイフローシステム　AIRVO2	講義・実技	看護師	2	14階南病棟・15階南病棟・MEセンター
13	2021/4/14	ネーザルハイフローシステム　AIRVO2	講義・実技	看護師	4	14階南病棟・15階南病棟・MEセンター
14	2021/4/14	ネーザルハイフローシステム　AIRVO2	講義・実技	看護師	8	ICUCCU

15	2021/4/15	在宅用人工呼吸器　クリーンエア　ASTRAL	講義・実技	看護師	14	NICUGCU・9階南病棟
16	2021/4/15	ネーザルハイフローシステム　AIRVO2	講義・実技	看護師・委託職員	10	14階南病棟・15階南病棟・MEセンター
17	2021/4/15	ネーザルハイフローシステム　AIRVO2	講義・実技	看護師	6	ICUCCU
18	2021/4/16	ネーザルハイフローシステム　AIRVO2	講義・実技	看護師	9	ICUCCU
19	2021/4/19	ネーザルハイフローシステム　AIRVO2	講義・実技	看護師	21	救命救急センター・13階北病棟・14階北病棟・15階北病棟・16階北、南病棟
20	2021/4/21	人工呼吸器　クリーンエアASTRAL	講義・実技	看護師	11	NICU・GCU
21	2021/4/22	高エネルギーX線発生装置　リニアック	講義・実技	診療放射線技師	28	放射線技術科
22	2021/4/22	高エネルギーX線発生装置　トモセラピーRadixact	講義・実技	診療放射線技師	28	放射線技術科
23	2021/4/22	高エネルギーX線発生装置　トモセラピーHD	講義・実技	診療放射線技師	28	放射線技術科
24	2021/4/22	密封小線源放射線治療装置　RALS	講義・実技	診療放射線技師	28	放射線技術科
25	2021/4/27	除細動器　TEC-5631	講義・実技	看護師	15	13階南病棟
26	2021/4/28	ネーザルハイフローシステム　AIRVO2	講義・実技	看護師	10	10階南病棟
27	2021/4/28	ネーザルハイフロー	講義・実技	看護師	10	10階南病棟
28	2021/4/28	NIPネーザル　V-E	講義・実技	看護師	5	15階南病棟・患者サポートセンター
29	2021/5/6	ネーザルハイフローシステム　AIRVO2	講義・実技	看護師	5	関係部門
30	2021/5/6	人工呼吸器　PB980	講義・実技	看護師	5	関係部門
31	2021/5/6	人工呼吸器　ハミルトン　C6	講義・実技	看護師	5	関係部門
32	2021/5/6	閉鎖式保育器	講義・実技	看護師	7	NICU・GCU
33	2021/5/6	人工呼吸器　サイパップ	講義・実技	看護師	7	NICU・GCU
34	2021/5/6	ネーザルハイフロー	講義・実技	看護師	7	NICU・GCU
35	2021/5/11	人工呼吸器　トリロジー	講義・実技	看護師	23	関係部門
36	2021/5/12	汎用人工呼吸器　Vivo45	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学室
37	2021/5/13	持続陽圧呼吸法　CPAP	講義・実技	医師・検査技師・学生	16	睡眠医療センター
38	2021/5/24	人工呼吸器　トリロジー	講義・実技	看護師	9	12階北病棟
39	2021/6/9	経鼻的持続陽圧呼吸療法　CPAP	講義・実技	医師・検査技師・学生	13	睡眠医療センター
40	2021/6/15	ネーザルハイフロー	講義・実技	看護師	4	9階南病棟
41	2021/6/22	人工呼吸器　トリロジーO2	講義・実技	看護師	41	関係部門
42	2021/6/23	NIPネーザル　V-E	講義・実技	看護師	4	15階南病棟
43	2021/6/26	人工呼吸器　ハミルトン　C6	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工学室
44	2021/7/5	人工呼吸器　PB840	講義・実技	看護師	14	14階南病棟
45	2021/7/5	人工呼吸器　ハミルトン　C6	講義・実技	看護師	4	14階北病棟、16階北病棟、16階南病棟
46	2021/7/5	ネーザルハイフロー	講義・実技	看護師	4	14階北病棟、16階北病棟、16階南病棟
47	2021/7/9	人工呼吸器　VN500	講義・実技	看護師	4	NICU・GCU
48	2021/7/9	人工呼吸器　ハミングX	講義・実技	看護師	4	NICU・GCU
49	2021/7/9	人工呼吸器　VN500	講義・実技	看護師・臨床工学技士	3	NICU・GCU、臨床工学室
50	2021/7/9	人工呼吸器　ハミングX	講義・実技	看護師・臨床工学技士	3	NICU・GCU、臨床工学室
51	2021/7/13	人工呼吸器　トリロジーO2	講義・実技	看護師	31	関係部門
52	2021/7/15	人工呼吸器　クリーンエア　VELIA	講義・実技	臨床工学技士	3	臨床工学室
53	2021/7/29	植込み型補助人工心肺　HeartMate3	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学室
54	2021/8/16	人工呼吸器　トリロジーO2	講義・実技	看護師	8	16階南病棟
55	2021/8/16	人工呼吸器　ハミルトンC6	講義・実技	看護師	5	13階北病棟・14階南病棟・16階南病棟
56	2021/8/18	植込み型補助人工心肺　HeartMate3	講義・実技	医師・臨床工学技士	10	循環器内科・臨床工学室
57	2021/8/20	人工呼吸器　トリロジーO2	講義・実技	看護師	23	関係部門
58	2021/8/25	PCPS(ECMO)	講義・実技	看護師	12	ICUCCU
59	2021/8/27	人工呼吸器　ASTRAL	講義・実技	看護師	13	NICU
60	2021/9/1	人工呼吸器　ハミルトン	講義・実技	看護師	6	救命救急センター、11階南病棟
61	2021/9/1	人工呼吸器　Airvo	講義・実技	看護師	6	救命救急センター、11階南病棟
62	2021/9/6	人工呼吸器　ハミルトン　C6	講義・実技	看護師	3	15階北病棟、16階北病棟、16階南病棟
63	2021/9/7	補助循環装置　cardiohelp	講義・実技	臨床工学技士	12	臨床工学室
64	2021/9/13	在宅用人工呼吸器　vivo	講義・実技	看護師	7	9階南病棟

65	2021/9/13	血液浄化装置 CHDF （ACH-Σ）	講義・実技	看護師	5	ICUCCU
66	2021/9/13	HD	講義・実技	看護師	5	ICUCCU
67	2021/9/14	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	22	関係部門
68	2021/9/27	人工呼吸器 V60	講義・実技	看護師	31	看護部
69	2021/9/28	人工呼吸器 V60	講義・実技	看護師	30	看護部
70	2021/10/4	NHF AirVo2	講義・実技	看護師	7	関係部門
71	2021/10/4	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	看護師	7	関係部門
72	2021/10/12	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	32	関係部門
73	2021/10/18	NHF AirVo2	講義・実技	看護師	4	関係部門
74	2021/10/18	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	看護師	4	関係部門
75	2021/10/27	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	16	10階南病棟・14階北病棟
76	2021/10/28	高エネルギーX線発生装置 リニアック	講義・実技	診療放射線技師	33	放射線技術科
77	2021/10/28	高エネルギーX線発生装置 トモセラピーRadixact	講義・実技	診療放射線技師	33	放射線技術科
78	2021/10/28	高エネルギーX線発生装置 トモセラピーHD	講義・実技	診療放射線技師	33	放射線技術科
79	2021/10/28	密封小線源放射線治療装置 RALS	講義・実技	診療放射線技師	33	放射線技術科
80	2021/11/1	人工呼吸器 ハミルトンC6	講義・実技	看護師	3	13階北病棟・16階北病棟・16階南病棟
81	2021/11/1	NHF AirVo2	講義・実技	看護師	3	13階北病棟・16階北病棟・16階南病棟
82	2021/11/11	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	18	関係部門
83	2021/11/11	ネーザルハイフロー	講義・実技	看護師	10	15階北病棟
84	2021/11/15	人工呼吸器 ハミルトンC6	講義・実技	看護師	1	14階南病棟
85	2021/11/15	NHF AirVo2	講義・実技	看護師	1	14階南病棟
86	2021/11/16	個人用多用途透析装置 DBB-100NX	講義・実技	看護師・臨床工学技士	11	人工透析室
87	2021/11/25	人工呼吸器 SERVO-n	講義・実技	医師・看護師	11	NICU
88	2021/11/26	人工呼吸器 SERVO-n	講義・実技	医師・看護師	8	NICU
89	2021/11/26	PCPS	講義・実技	看護師	5	ICUCCU
90	2021/11/29	人工呼吸器 SERVO-n	講義・実技	医師・看護師	8	NICU・GCU
91	2021/12/2	個人用多用途透析装置 DBB-100NX	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学室
92	2021/12/7	NHF AirVo2	講義・実技	看護師	4	14階北病棟、14階南病棟、16階北病棟
93	2021/12/7	人工呼吸器 ハミルトンC6	講義・実技	看護師	4	14階北病棟、14階南病棟、16階北病棟
94	2021/12/9	人工呼吸器 V60	講義・実技	看護師	32	関係部門
95	2021/12/14	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	19	関係部門
96	2021/12/16	人工呼吸器 MR-1	講義・実技	看護師	13	救命救急センター
97	2021/12/20	人工呼吸器 ハミルトンMR-1	講義・実技	医師	3	救命救急センター
98	2021/12/20	人工呼吸器 ハミルトンC6	講義・実技	看護師	3	13階北病棟、14階南病棟、16階南病棟
99	2021/12/20	ネーザルハイフロー Airvo2	講義・実技	看護師	3	13階北病棟、14階南病棟、16階南病棟
100	2021/12/21	人工呼吸器 ハミルトン MR-1	講義・実技	看護師	10	救命救急センター
101	2021/12/22	人工呼吸器 ハミルトン MR-1	講義・実技	医師・研修医	4	脳神経外科
102	2021/12/23	人工呼吸器 ハミルトン MR-1	講義・実技	医師	10	呼吸器内科
103	2021/12/27	人工呼吸器 ハミルトン MR-1	講義・実技	医師	4	総合内科・総合診療科
104	2022/1/4	人工呼吸器 ハミルトン MR-1	講義・実技	看護師	1	16階南病棟
105	2022/1/4	ネーザルハイフロー Airvo2	講義・実技	看護師	1	16階南病棟
106	2022/1/13	補助循環装置 ロータフロー	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工学係
107	2022/1/17	人工呼吸器 ハミングX	講義・実技	看護師	5	NICU/GCU
108	2022/1/17	人工呼吸器 SLE5000	講義・実技	看護師	5	NICU/GCU
109	2022/1/17	人工呼吸器 VN500	講義・実技	看護師	5	NICU/GCU
110	2022/1/17	人工呼吸器 ハミルトン MR-1	講義・実技	看護師	2	14階南病棟・16階北病棟
111	2022/1/17	ネーザルハイフロー Airvo2	講義・実技	看護師	2	14階南病棟・16階北病棟
112	2022/1/18	人工呼吸器 ハミルトン MR-1	講義・実技	看護師	11	救命救急センター
113	2022/1/21	人工呼吸器 ハミルトン MR-1	講義・実技	看護師	6	救命救急センター
114	2022/1/25	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	17	全体

115	2022/1/25	血液浄化装置　CHDF　（ACH-Σ）	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工学係
116	2022/2/1	人工呼吸器　ハミルトン　MR-1	講義・実技	看護師	1	救命救急センター
117	2022/2/1	ネーザルハイフロー　Airvo2	講義・実技	看護師	1	救命救急センター
118	2022/2/1	人工心肺装置	講義・実技	看護師	6	中央手術部
119	2022/2/7	人工呼吸器　ハミングX	講義・実技	看護師	3	NICU
120	2022/2/7	人工呼吸器　VN500	講義・実技	看護師	3	NICU
121	2022/2/7	人工呼吸器　SLE5000	講義・実技	看護師	3	NICU
122	2022/2/7	人工呼吸器　ハミルトンC6	講義・実技	看護師	4	関連部署
123	2022/2/7	ネーザルハイフロー　Airvo2	講義・実技	看護師	4	関連部署
124	2022/2/10	人工呼吸器　トリロジー	講義・実技	看護師	10	全体
125	2022/2/21	人工呼吸器　ハミルトンC6	講義・実技	看護師	2	13北病棟・16階南病棟
126	2022/2/21	ネーザルハイフロー　Airvo2	講義・実技	看護師	2	13北病棟・16階南病棟
127	2022/3/2	人工呼吸器　ハミルトンC6	講義・実技	看護師	1	15階南病棟
128	2022/3/8	人工呼吸器　トリロジーO2	講義・実技	看護師	25	全体
129	2022/3/8	保育器　Babyleo TN500	講義・実技	臨床工学技士	2	臨床工学係
130	2022/3/11	ネーザルハイフロー　Airvo2	講義・実技	看護師	11	8階南病棟
131	2022/3/24	自動腹膜灌流用装置　ホームPDシステム　かぐや	講義・実技	臨床工学技士・看護師	5	人工透析室
132	2022/3/30	人工呼吸器　トリロジーO2	講義・実技	看護師	10	8階南病棟

（注）1 「特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器」とは、①人工心肺装置及び補助循環装置、②人工呼吸器、③血液浄化装置、④除細動装置（AEDを除く）、⑤閉鎖式保育器、⑥診療用高エネルギー放射線発生装置、⑦診療用放射線照射装置です。

③　①、②以外に実施している研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
1	2021/4/1	自動カフ圧計	講義・実技	看護師	12	関係部門
2	2021/4/2	エアパッド特定加温装置コントロールユニット　ベアーハガー	講義・実技	臨床工学技士・委託職員	10	臨床工学係
3	2021/4/2	高周波焼灼電源装置　ESG-300	講義・実技	看護師	7	救命救急センター
4	2021/4/6	シリンジポンプ	講義・実技	医師	34	関係部門
5	2021/4/6	輸液ポンプ	講義・実技	医師	34	関係部門
6	2021/4/16	遠心型血液成分分離装置　COM.TEC	講義・実技	医師・臨床工学技士・臨床検査技師・CRC	9	血液内科・臨床工学係・輸血緊急検査・臨床研究開発支援
7	2021/4/16	生体情報モニタ	講義・実技	臨床工学技士	12	臨床工学係
8	2021/4/22	In Body	講義・実技	管理栄養士	9	栄養管理係
9	2021/4/22	In Body770	講義・実技	管理栄養士	9	栄養管理係
10	2021/4/22	呼気ガス分析装置　FIT-2100	講義・実技	管理栄養士	7	栄養管理係
11	2021/4/27	シリンジポンプ　SP-520	講義・実技	看護師	9	9階南病棟
12	2021/4/30	シリンジポンプ　SP-520	講義・実技	看護師	9	9階南病棟
13	2021/5/11	持続的自動気道陽圧ユニット　スリープメイトS10	講義・実技	臨床検査技師	3	睡眠医療センター
14	2021/5/11	持続的自動気道陽圧ユニット　ドリームステーションAuto	講義・実技	臨床検査技師	3	睡眠医療センター
15	2021/5/13	検査施設外睡眠検査　OCST	講義・実技	医師・検査技師・学生	16	睡眠医療センター
16	2021/5/24	持続的自動気道陽圧ユニット　ドリームステーションAuto	講義・実技	臨床検査技師	3	睡眠医療センター
17	2021/5/24	持続的自動気道陽圧ユニット　スリープメイト　Air Mini	講義・実技	臨床検査技師	3	睡眠医療センター
18	2021/5/25	携帯型酸素濃縮装置　サンソセーバー5	講義・実技	看護師	6	15階南病棟
19	2021/6/9	検査施設外睡眠検査　OCST	講義・実技	医師・検査技師・学生	13	睡眠医療センター
20	2021/6/9	遠隔モニタリングシステム　マイクロポート	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学係
21	2021/6/14	3M　ベアハガー	講義・実技	看護師	11	救命救急センター
22	2021/6/16	マイクロポート　PM	講義・実技	臨床工学技士	10	臨床工学係
23	2021/6/16	3M　ベアハガー	講義・実技	看護師	10	救命救急センター
24	2021/6/17	3M　ベアハガー	講義・実技	看護師	7	救命救急センター
25	2021/7/7	補助循環用ポンプカテーテル　Impella CP SMART　ASSIST	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学係
26	2021/7/9	補助循環用ポンプカテーテル　Impella CP SMART　ASSIST	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学係
27	2021/7/13	心臓用冷凍手術ユニット　AtriCure CryoICE（CRYO3）	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学係
28	2021/7/20	心臓用冷凍手術ユニット　AtriCure CryoICE（CRYO3）	講義・実技	看護師・臨床工学技士	24	中央手術部

29	2021/8/18	OCST	講義・実技	医師・臨床検査技師・時間制職員・学生	13	睡眠医療センター
30	2021/8/18	セントラルモニタ	講義・実技	看護師	10	9階南病棟
31	2021/8/19	冠動脈ステント　Boston社製SYNERGY	講義・実技	臨床工学技士	3	臨床工学係
32	2021/9/1	ベッドサイドモニタ	講義・実技	看護師	6	救命救急センター、11階南病棟
33	2021/9/3	中隔ペーシング	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学係
34	2021/9/7	In Body	講義・実技	管理栄養士	9	栄養管理係
35	2021/9/7	In Body770	講義・実技	管理栄養士	9	栄養管理係
36	2021/9/10	カンガルーJoeyポンプ	講義・実技	看護師	15	10階南病棟
37	2021/9/15	排痰補助装置　カフアシスト　E70	講義・実技	看護師	6	NICU・GCU
38	2021/9/17	排痰補助装置　カフアシスト　E70	講義・実技	看護師	6	NICU・GCU
39	2021/10/20	デジタルX線撮影装置　DiDi C90	講義・実技	診療放射線技師	12	放射線技術科
40	2021/10/26	アボット　遠隔モニタリング	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工学係
41	2021/10/27	心臓カテーテル用検査装置　カルト　V7	講義・実技	臨床工学技士	3	臨床工学係
42	2021/10/28	MICRAAV	講義・実技	医師・臨床工学技士	8	循環器内科・臨床工学係
43	2021/11/1	モニタ	講義・実技	看護師	3	13階北病棟・16階北病棟・16階南病棟
44	2021/11/4	血管用ステント（Bostou Scientific社誠）	講義・実技	臨床工学技士	5	臨床工学係
45	2021/11/15	セントラルモニタ	講義・実技	医師・看護師	7	小児科・9階南病棟
46	2021/11/25	生体モニタ	講義・実技	看護師	6	9階南病棟
47	2021/11/30	エンサイト　X	講義・実技	臨床工学技士	3	臨床工学係
48	2021/12/1	検査施設外睡眠検査　OCST	講義・実技	医師・臨床検査技師・薬学部学生・事務補助員	12	睡眠医療センター・薬学部
49	2022/1/6	経腸栄養ポンプ　カンガルーJoeyポンプ	講義・実技	医師・看護師	13	7階北病棟
50	2022/1/7	経腸栄養ポンプ　カンガルーJoeyポンプ	講義・実技	看護師	5	7階北病棟
51	2022/1/11	チューブシーラー	講義・実技	臨床工学技士	2	臨床工学係
52	2022/1/12	エンサイト　X	講義・実技	臨床工学技士	3	臨床工学係
53	2022/1/19	エンサイト　X	講義・実技	臨床工学技士	2	臨床工学係
54	2022/3/4	電気メス　FT-10	講義・実技	看護師・臨床工学技士	2	中央手術部
55	2022/3/11	吸痰	講義・実技	臨床工学技士	11	臨床工学係

規則第７条の２の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 １．人格が高潔で、学識が優れ、かつ、公立大学法人名古屋市立大学中期目標及び当該中期目標を達成するための計画である公立大学法人名古屋市立大学中期計画に掲げる事項について、継続的かつ確実に推進する姿勢及び指導力を有する者 ２．医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有する者であって、以下の基準を全て満たす者 （１）次のいずれかの業務に従事した経験がある者 イ　医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者又は医療機器安全管理責任者の業務 ロ　医療安全管理に関する委員会の構成員としての業務 ハ　医療安全管理に関する部門における業務 ニ　その他上記に準ずる業務 （２）医療安全管理業務経験を踏まえ、医療安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者 ３．組織管理能力等の病院を管理運営するうえで必要な資質及び能力を有している者であって、当院又は当院に準ずる規模の他の病院において、病院長、副病院長、病院長補佐、診療科部長又は中央部門長（これらに準ずる職を含む。）の経験がある者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 ホームページにて公表 https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/

規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無

規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無

・合議体の主要な審議内容

（１）診療に関すること

（２）病院の規程の制定改廃に関すること

（３）病院の運営方針に関すること

（４）中期目標・中期計画に関すること

（５）予算及び決算に関すること

（６）その他病院の運営に関する重要事項

・審議の概要の従業者への周知状況

会議資料の回覧及び電子カルテ共有ファイルサーバーへの掲載を行っている。
必要があれば、個別案件ごとに関係委員会での報告や院内広報誌への掲載等も行い、周知徹底を図っている。

・合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）

・公表の方法

https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/

・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・無 ）

合議体の委員名簿

氏名	委員長（○を付す）	職種	役職
間瀬　光人	○	医師	病院長
森田　明理		医師	院長代行・副病院長
飯田　真介		医師	副病院長
明智　龍男		医師	副病院長
松川　則之		医師	副病院長
林　祐太郎		医師	副病院長
新実　彰男		医師	副病院長
村田　佐知子		看護師	副病院長
瀧口　修司		医師	病院長補佐
植木　美乃		医師	病院長補佐
戸澤　啓一		医師	病院長補佐
兼松　孝好		医師	診療科部長代理
片岡　洋望		医師	診療科部長

林　香月		医師	診療科部長
難波　大夫		医師	診療科部長
瀬尾　由広		医師	診療科部長
田中　智洋		医師	診療科部長
濱野　高行		医師	診療科部長
奥田　勝裕		医師	診療科部長
須田　久雄		医師	診療科部長
近藤　知史		医師	診療科部長
遠山　竜也		医師	診療科部長
村上　英樹		医師	診療科部長
杉浦　真弓		医師	診療科部長
齋藤　伸治		医師	診療科部長
安川　力		医師	診療科部長
岩﨑　真一		医師	診療科部長
鳥山　和宏		医師	診療科部長
安井　孝周		医師	診療科部長
樋渡　昭雄		医師	診療科部長
祖父江　和哉		医師	診療科部長
渋谷　恭之		歯科医師	診療科部長
笹野　寛		医師	診療科部長
服部　友紀		医師	診療科部長
井上　貴子		医師	中央部門部長
久保田　英嗣		医師	中央部門部長
髙橋　智		医師	中央部門部長
小松　弘和		医師	中央部門部長
藤原　圭		医師	中央部門部長
佐藤　慎太郎		医師	中央部門部長
中村　敦		医師	中央部門部長
神谷　武		医師	中央部門部長
杉浦　健之		医師	中央部門部長
赤津　裕康		医師	中央部門部長
山岸　庸太		医師	中央部門部長
田中　基		医師	中央部門部長
野尻　俊輔		医師	中央部門部長
日比　陽子		薬剤師	中央部門部長
笠井　治昌		診療放射線技師	中央部門部長
藤原　かをる		看護師	中央部門部長
鵜飼　英充		事務	病院管理部長

規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

・　管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）

・　公表の方法：病院HPにて公表
https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/

・　規程の主な内容

(1) 病院長の人事権について
病院幹部の選任について院長代行、副病院長等、看護部長、診療科部長等の選考規程を制定し、各規程に基づいて選任している。開設者が公立大学法人である当院において、人事における任命権については、法人の長たる理事長が有しているが、病院長は選考の過程で関与する仕組みとなっており、病院長の意思が反映されている。

(2) 病院長の予算執行に係る権限について
規定により、病院の予算責任者である病院長が予算に基づき執行することとされている。

・　管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

(1) 院長代行、副病院長及び病院長補佐
森田　明理院長代行
副病院長　（戦略企画・経営管理担当）
飯田　真介副病院長　（診療・医療体制強化担当）
明智　龍男副病院長　（医療の質・安全管理担当）
松川　則之副病院長　（研究担当）
林　祐太郎副病院長　（教育担当）
新実　彰男副病院長　（診療情報管理担当）
村田佐知子副病院長　（経営・業務管理担当）
瀧口　修司病院長補佐（手術機能強化担当）
植木　美乃病院長補佐（労働環境担当）
戸澤　啓一病院長補佐（医療の質・安全管理担当）

(2) 各副病院長及び病院長補佐を補佐する企画スタッフ等
戦略企画室（収益向上策、費用削減策の企画立案等）
情報発信・広報戦略室（広報戦略立案等）
診療報酬マネジメント室（診療収入に係る分析、企画立案等）

(3) 外部有識者からの意見聴収の機会
経営協議会（病院経営に見識のある外部有識者を含めた
診療収入の確保及び経費の節減策など病院の経営改善会議）

・　病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

厚生労働省関係

研修開催日	研修名称	参加者	備考（主催）
2021/12/2	トップマネージメント研修「病院長として押さえておくべき、医師の働き方改革」	間瀬病院長	厚生労働省医政局医事課医師等医療従事者の働き方改革推進室
2022/1/31-3/11	医療機関におけるサイバーセキュリティ研修「大規模医療機関の経営層としてサイバーセキュリティ対策のために認識すべき事項を学ぶ」（e-learning研修）	間瀬病院長 森田副病院長	厚生労働省委託事業実施機関 有限責任監査法人トーマツ
2022/3/4	医療機関の働き方改革セミナー	事務課職員１名	厚生労働省委託事業実施機関 株式会社日本能率協会総合研究所

国立大学附属病院 病院長会議事務局主催研修

研修開催日	研修名称	参加者	備考（主催）
2021/8/5-8/6	令和３年度　国公立大学病院主任級研修	事務課職員１名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会
2021/8/26-8/27	令和３年度　国公立大学病院一般職員研修	教育研究課職員１名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会
2021/8/27	令和３年度　第10回「国立大学附属病院契約実務担当者ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ	経営課職員１名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会
2021/10/21-10/22	令和３年度　国立大学病院医事関連業務ｽﾀｯﾌｾﾐﾅｰ	医事課職員１名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会
2022/1/21	令和３年度　国立大学病院医事系事務職員初期研修	医事課職員１名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会
2022/1/27	令和３年度大学病院等患者相談担当者研修会	地域医療連携室職員１名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会

規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無

・監査委員会の開催状況：年２回

・活動の主な内容：

1　医療安全に係る会議の運営状況

2　インシデント・アクシデントレポートの報告及び対応状況

3　医薬品安全管理・医療機器安全管理の実施状況

4　医療安全に係る研修の実施状況

5　医療監視等における監督官庁からの医療安全に係る指摘事項への対応状況

6　他の特定機能病院による立入検査の実施及び対応状況

7　その他、医療安全に関すること

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（　有・無　）

・委員名簿の公表の有無（　有・無　）

・委員の選定理由の公表の有無（　有・無　）

・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）

・公表の方法：

病院ホームページにて公表している

https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/anzen-kanri/externalauditor/

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
宮本　忠壽	知多厚生病院名誉院長	○	医療安全に関する業務に従事した経験を持つ医師	有・無	1
吉野　彩子	後藤・太田・立岡法律事務所所属弁護士		法律に関する識見を有する者	有・無	1
岩崎　良平	日本ガイシ株式会社代表取締役副社長		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	有・無	2
蘆原　千晶	中日新聞記者		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	有・無	2
				有・無	

				有・無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1．医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2．医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3．その他

規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 法人に監査室を設置し、毎年、本学の業務運営及び会計処理の適法性等について、公正かつ客観的に調査及び検証し、その監査結果に基づき助言、提言を行うことにより、本学の健全な運営に資することを目的とした「内部監査」及び法人の業務運営及び会計処理の適正を図ることを目的とした「監事監査」を実施している。監査は、年次計画に基づいて実施され、監査の結果、改善のための対策、措置等を講じる必要があると認めるときは、速やかに当該対策、必要な措置等を講じることとされている。 ・ 専門部署の設置の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の整備の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法：病院HPにて公表 https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/

規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況

理事長、副理事長及び理事（内2名外部理事）をもって構成される役員会において、次の事項の審議を行うこととされている。病院長も理事として、役員会に参加し、病院の管理運営状況について随時報告聴取が行われている。

(1) 中期目標についての意見（地方独立行政法人法第78条第3項の規定により市長に対し述べる意見をいう。）及び年度計画に関する事項
(2) 地方独立行政法人法により市長の認可又は承認を受けなければならない事項
(3) 予算の作成及び執行並びに決算に関する事項
(4) 大学、学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止に関する事項
(5) その他役員会が定める重要事項

・ 会議体の実施状況（　年　12　回　）

・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（　有・無　）（　年　7　回　）

・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）

・ 公表の方法：大学ホームページにて公開している。
http://www.nagoya-cu.ac.jp/about/operations/rules/index.html

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長（○を付す）	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注）　会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・無 ） ・通報件数（年１件） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有・無 ） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・無 ） ・周知の方法 リスクマネージメントマニュアル、職員の心得及び電子カルテへ掲載し、周知している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1　果たしている役割に関する情報発信

①　果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無

・情報発信の方法、内容等の概要

【病院ウェブサイト等】

○病院ウェブサイトや外来で放映している映像情報端末メディネットに、当院のご案内、最新のお知らせ、患者・一般向け、医療関係者向けの情報を掲載している。

【院外広報紙】

○広報紙「さくらほっとＮＥＷＳ」を年４回発行し、当院の最新情報やお知らせを患者や地域の住民向けに発信している。広報誌は病院ウェブサイトにも掲載、また、院内の外来に設置したり、また院外（近隣病院、地下鉄桜通線桜本町管区駅構内、市内区役所等）に配布している。

【公開講座等】

○本学主催による市民公開講座（不定期）、最新医学講座 オープンカレッジ、およびリカレント教育を対象とした学びなおし講座などを一般市民向けに開催している。

2　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無

・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要

○診療にあたる際、必要に応じて複数の診療科による合同のカンファランスを実施している。

○全診療科の代表者を含む各種委員会を定期的に開催している。

○複数の診療科によって組織する「センター」機能を有し、診療科ごとの特性を融合することにより、特色となる診療を実施したり、診療の支援業務や教育・研究業務などを行っている。

○医療安全、感染、栄養サポート（NST）、褥瘡等に対して複数の診療科、職種を交えてチームを

組み、対策を行っている。

〇診療連携拠点病院（肝疾患、地域がん）として都道府県における診療ネットワークの中心的な役割を果たす病院である。また、災害拠点病院として地域における災害医療を担っている。

〇救命救急センターとして24時間高度な医療が提供できるよう、全診療科及び全部門が連携して救急医療のバックアップ体制を整えている。夜間・休日においても、医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、検査技師が待機しており、常時迅速な引継が可能である。